福岡市
埋蔵文化財年報 Vol.10 1995年度

香椎B遺跡群

1997

福岡市教育委員会

福岡市の概要

位置

この表は建設省国土地理院の２万５千分の１の地図から測定したものです。

方　　位	地　　点	東　経	北　緯
市役所(本庁)	中央区天神一丁目８－１	130°24′15″	33°35′14″
極　東	東区大字蒲田字別府の浦	130°29′50″	33°38′34″
極　西(陸部)	西区大字西の浦外蒔	130°12′00″	33°38′11″
極　西	西区大字小呂島字向	130°02′06″	33°51′49″
極　南	早良区大字板屋字苦笑	130°22′50″	33°25′17″
極　北(陸部)	東区大字三苫字牧山	130°25′13″	33°42′33″
極　北	西区大字小呂島向	130°02′17″	33°52′17″

福岡の気象(平成５年)

年平均気温	16.2℃
最高気温(極)	33.8℃
最低気温(極)	0.3℃
年平均湿度	70%
年降水量(mm)	2049.5mm

平成７年度福岡市当初予算

一般会計	6,665億9,500万円
特別会計	7,885億0,817万2千円
企業会計	2,571億1,272万9千円
合　　計	１兆7,122億2,677万1千円

平成７年度埋蔵文化財関係予算

開発事業審査費	1122万5千円
公共事業関係費	5億5960万6千円
民間・国庫補助関係調査費	4億2076万1千円
合　　計	9億9159万2千円

序

平成７年度はバブル崩壊後にもたされた構造的な経済の低成長期にあたり、経済活動の停滞あるいは、成長なき安定といわれる状況が続いていた。そにような状況の中で本市においては、都市基盤整備、各種施設の建設、民間による小規模の開発等も多く行われ、その結果、事前審査、発掘調査の件数は依然として多く、その結果地域の歴史を明らかにする新しい発見が多数ありました。

本書は平成７年度に調査を実施した埋蔵文化財についての概要を記しています。文化財に対する理解の一助となり、活用されることを切望致しますとともに、今後とも皆様方のご協力がが得られれば幸いに存じます。

平成９年２月28日

福岡市教育委員会

教育長　　町　田　英　俊

例　言

1．本書は教育委員会埋蔵文化財課が平成７年度に実施した各種の開発事業等に伴う事前審査と発掘調査の概要を記したものである。

2．調査報告収録分は、主に平成７年度に発掘調査を実施した遺跡で、整理、報告書作成費の予算措置が無いものである。

3．本書の作成は事前審査担当者の協力のもとに松村が行った。なお、発掘調査の概要、報告は各調査担当者が分担執筆し、IIIについては文化財整備課の三木隆行が執筆した。

目　次

I　開発事前審査

１）平成７（1995）年度の概要……１

２）試掘調査一覧……３

II　発掘調査の概要

１）平成７（1995）年度の概要……15

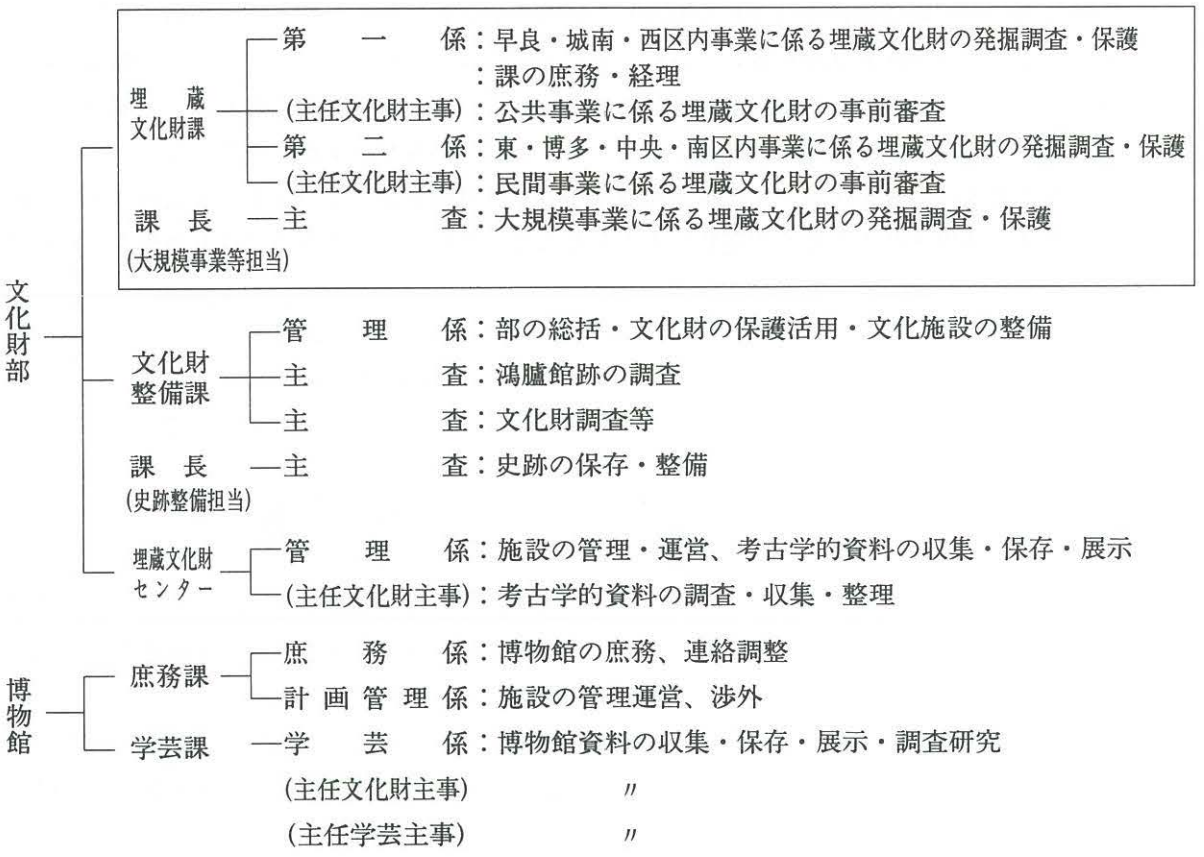
２）発掘調査一覧……16

３）各調査の概要及び調査報告……20

III　平成７年度の文化財指定……85

附　平成７年度（1995）年度刊行報告書一覧……89

平成７年（1995）年度の組織



埋蔵文化財課の構成

課長：荒巻輝勝
第一係長：横山邦継
主任文化財主事：飛高憲雄　濱石哲也　杉山富雄
係員：（文化財主事）荒牧宏行　加藤良彦　菅波正人　榎本義嗣　屋山洋　中村啓太郎　白井克也　大塚紀宜　（事務）　内野保基　入江幸男　西田結香
第二係長：山口譲治
主任文化財主事：山崎龍雄　松村道博　下村智
係員：（文化財主事）大庭康時　佐藤一郎　吉武学　瀧本正志　宮井善朗　池田祐司　長家伸　加藤隆也　田上勇一郎　久住猛雄
課長：山崎純男(大規模事業等担当)
主査：池崎譲二
係員：(文化財主事)小林義彦

Ⅰ　開発事前審査

本市において、土木工事など各種開発等に係る埋蔵文化財の事前審査は、昭和53年度から実施した分布調査の成果（福岡市文化財分布地図）及びその改訂版を基本とし、昨年度までの発掘調査及び試掘調査の成果をもとにして行っている。

文化財分布地図は市役所各開発部局および関係する公共機関等に配布し、周知化を図るとともに、事業計画策定段階での活用をお願いしている。また、民間の各種開発関係、不動産取引関係者などには埋蔵文化財課窓口での分布地図閲覧や各種の相談に応じている。その際に文化財保護法の趣旨及び手続きなどの説明をするとともに、文化財保護について協力をお願いしている。

平成７（1995）年度の概要

平成７年度中に埋蔵文化財課に提出された公共及び民間開発事業等に伴う事前審査の申請(『埋蔵文化財事前審査申請書』および『事業計画書』)の件数は、下表に示すように公共事業739件、民間事業566件の計1305であった。また、事前審査窓口に備え付けた『文化財分布地図』の閲覧及び相談は1652件であった。申請の件数はほぼ同様で、窓口の相談は不動産売買に伴うものが多く、経済活動を反映して減少の傾向を示す。

事業別割合では、公共事業が昨年比17%増加している。これはこれまでとの統計資料の変更による。昨年度までは７年度の事業照会の審査（６年度に審査を実施）を７年度の審査件数としていたが実際には前年度に実施しているため今年度の件数には８年度の事業照会件数と事前審査件数を加えた数を審査件数としたためである。民間事業は17%増加している。埋蔵文化財の周知化が浸透しているためか。区別に見ていくと博多区が325件と多く、次いで早良区の271件となる。東区と西区が220件前後、南区は少なく127件、中央区は遺跡の数が少ないため71件と著しく少ない。早良区は昨年に比較して5%の増加である。外環状線道路の一部共用による影響であろう。

事前審査の内訳は72%が書類による審査である。これは公共事業の事業照会による審査は翌年度事業にかかるもので書類審査のみであること、及び民間事業に伴うものは周辺地域の試掘結果を利用しているためである。

事前審査件数の推移　(件)

	H.2年	H.3年	H.4年	H.5年	H.6年	H.7年
民　間	546	457	443	511	478	566
公　共	560	492	653	709	640	739
計	1,038	1,110	1,152	1,262	1,118	1,305

事前審査の内訳　(件)

	H.2年	H.3年	H.4年	H.5年	H.6年	H.7年
書　類	751	739	693	926	830	937
踏　査	25	90	5	11	26	43
試　掘	225	244	331	300	239	275
立　会	38	27	123	25	23	50

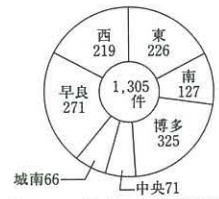
平成７年度事前審査件数

	書類	試掘	踏査	工事立会	総数
東　区	142 53	6 13	2 2	8 0(3)	158 68
南　区	71 28	4 21	0 3	0 (1)	75 52
博多区	111 70	12 98	0 13	16 5(17)	139 186
中央区	45 12	1 10	0 1	0 2	46 25
城南区	31 18	2 11	1 3	0 (1)	34 32
早良区	127 64	10 58	0 9	0 3(7)	137 134
西　区	121 44	10 19	4 5	15 1(1)	150 69
計	648 289	45 230	7 36	39 11(30)	739 566

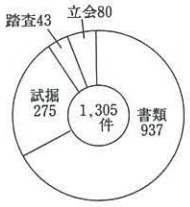
(上段は公共事業、下段は民間事業の件数)

昨年度までの公共事業の件数は当該年度の事業照会件数を記載していたが、平成７年度からの審査件数は当年度に審査した平成８年度事業照会回答数と事前審査依頼の合計数である。

工事立会の（　）中の数字は試掘した結果立会調査とした件数

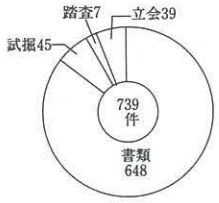


各区別事前審査件数比

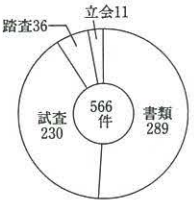


全体事前審査件数比

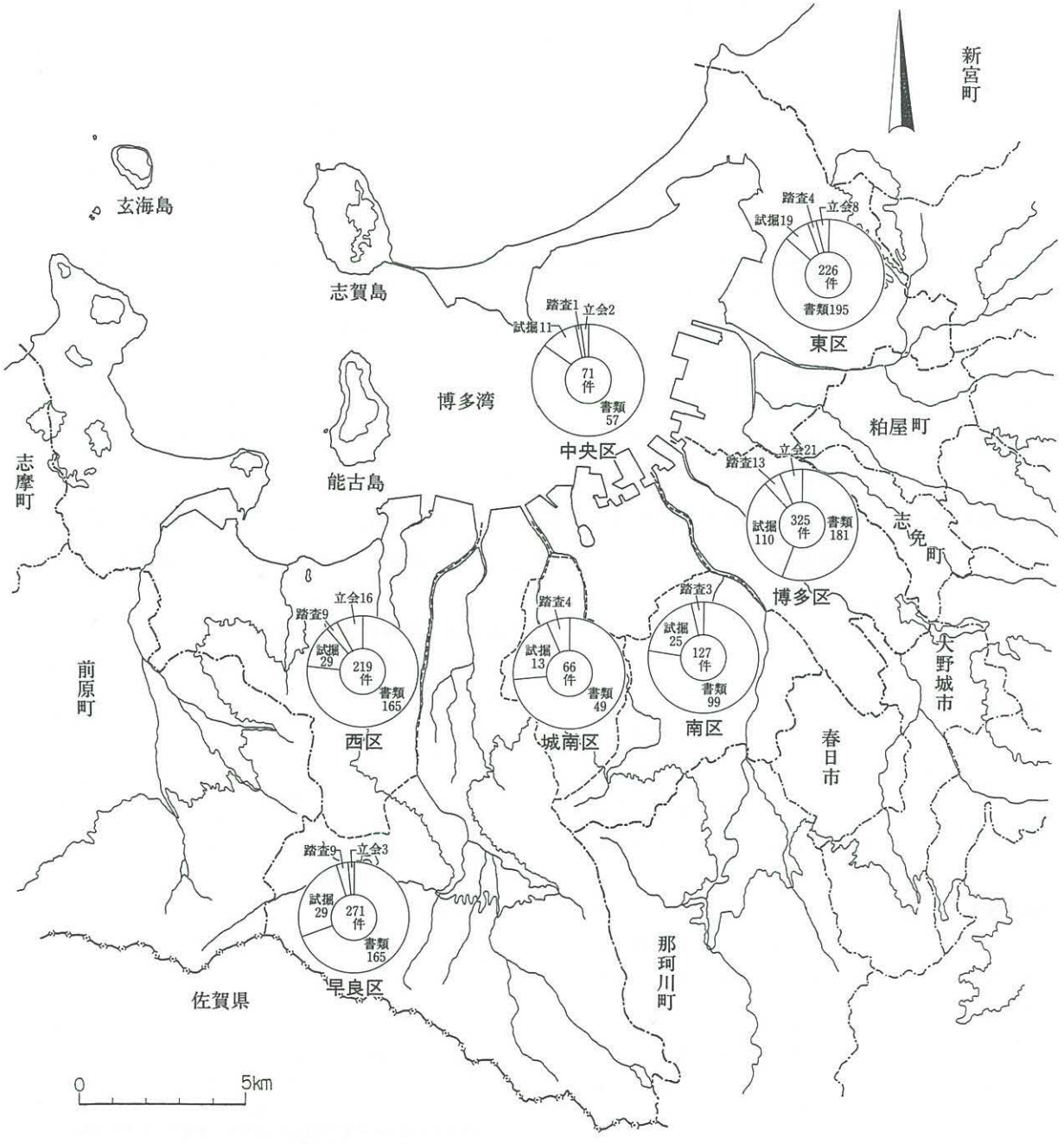
各区別窓口閲覧件数



公共事業



民間事業



平成７年度開発事業事前審査状況

試 掘 調 査 一 覧

※遺跡の名称が空白なものは
周知の遺跡の範囲外である。

東 区

番号	遺跡 名称	遺跡 所在地	調査日	種別	面積(㎡)	遺跡の有無	調査後の措置	地図番号	調査の所見	審査番号
1		大字下原地内	95.4.12	団地建設	46,621	無		16唐ノ原	遺構、遺物なし	7-1-21
2	香椎E	香椎3丁目885-1他	95.4.27	戸建住宅	5,566	有	発掘調査	17浜男	調査番号9522	7-2-11
3	元寇防塁	馬出4丁目248-1	95.5.8	公衆便所	813	無	工事立会	34箱崎	砂丘上であるが遺構、遺物なし	6-2-454
4	海の中道	大字西戸崎地内	95.5.17	公園整備	10,000	無		67海の中道西部	遺構、遺物なし	7-1-178
5	蒲田原	蒲田4丁目89-1他	95.5.25	物流倉庫	34,683	有	慎重工事	2蒲田	地表下0.3mでピットが疎らに分布	7-2-56
6		馬出1丁目129番	95.5.26	事務所	311	無		35吉塚	吉塚遺跡群に隣接。遺構、遺物なし	7-2-66
7	香椎A	香椎4丁目1184-1他	95.6.1	共同住宅	1,117	無		17浜男	遺構、遺物なし	7-2-40
8	三苫	三苫地内	95.6.8	道路建設	12,000	無		27三苫北部	遺構、遺物なし	7-1-4
9	箱崎	箱崎3丁目2393番	95.6.18	共同住宅	272	有	工事立会	34箱崎	地表下1.4mで中世の井戸、柱穴を確認	7-2-76
10	唐ノ原	和白1丁目1543番1	95.6.19	専用住宅	394	有	慎重工事	29唐ノ原	遺構、遺物なし	7-2-61
11	箱崎	箱崎3丁目7-8	95.7.4	専用住宅	149	有	工事立会	34箱崎	地表下0.6mでピット、土壙を確認	6-2-434
12	箱崎	箱崎3丁目地内	95.8.1	道路整備	16,250	無		34箱崎	遺構、遺物なし	7-1-616
13	元寇防塁	箱崎2丁目3100	95.8.9	共同住宅	167	無	工事立会	34箱崎	遺構、遺物なし	7-2-166
14	香椎A	香椎4丁目2093番2、7	95.8.31	売買	642	有	工事立会	17浜男	地表下1.7mでピット1基確認	7-2-194
15	箱崎	箱崎2丁目2852-3他	95.9.9	共同住宅	736	無		34箱崎	箱崎遺跡群、遺構、遺物なし	7-2-183
16	箱崎	箱崎地内	95.11.28	区画整理	72,000	有	協議中	34箱崎	土師器、輸入陶磁器が出土し古代から中世にかけての集落	7-1-50
17		香椎駅東1丁目644	95.12.21	緑地建設	648	無		17浜男	遺構、遺物なし	7-1-106
18		馬出5丁目222他	96.3.7	共同住宅	231	無		34箱崎	遺構、遺物なし	7-2-271
19		蒲田3丁目738-1他	95.12.26	農業施設	4,405	有	工事立会	2蒲田	1m前後で包含層確認	7-2-319

博多区

番号	遺跡 名称	遺跡 所在地	調査日	種別	面積(㎡)	遺跡の有無	調査後の措置	地図番号	調査の所見	審査番号
20	麦野C	麦野6丁目8-11他	95.4.4	事務所	398	有	慎重工事	12麦野	地表下0.5mの淡黄褐色粘土面で土壙、ピットの遺構を多く確認	6-2-461
21	堅粕	千代町1丁目858他	95.4.4	共同住宅	303	無		35吉塚	氾濫源で遺構、遺物なし	6-2-453
22	博多	下川端町164番	95.4.11	店舗	360	有	工事立会	49天神	地表下2.6mまでは近、現代、その下は中世の遺構、遺物を検出	6-2-477
23	下月隈C	月隈地内	95.4.25	空港周辺整備	449	無		11金隈	氾濫源自然遺物のみで遺構、遺物なし	6-1-637
24	博多	御供所3-7	95.4.24	共同ビル	112	有	慎重工事	49天神	地表下0.9mで14、15世紀の溝、土壙を確認	6-2-390
25	高畑	板付6丁目1-44	95.4.27	共同住宅	779	無		24板付	谷部にあたり遺構、遺物なし	7-2-6
26	榎田	東比恵3丁目273他	95.4.27	事務所	943	有	工事立会	36博多駅	地表下1.1mの粗砂の下に水田の足跡が認められる	7-2-18
27	南八幡	元町1丁目19-4	95.5.2	共同住宅	350	有	発掘調査	12麦野	調査番号9508	6-2-435
28	雑餉隈	元町2丁目7番	95.5.2	共同住宅	339	無		13雑餉隈	削平を受け遺構、遺物なし	7-2-25
29	麦野A	麦野5丁目1-27	95.5.16	専用住宅	314	有	慎重工事	12麦野	0.6mは盛り土、その下に古代のピット、溝が密に分布	7-2-19

30	博　多	御供所11-10	95.5.18	納骨堂	568	有	発掘調査	49天神	調査番号9551	6-2-432
31	雑餉隈	昭南町３丁目36番3	95.5.30	専用住宅	121	無		13雑餉隈	谷部にあたり遺構、遺物なし	7-2-31
32	比　恵	博多駅南４丁目15-1	95.5.30	売買	881	有	発掘調査	37東光寺	調査番号9525	6-2-458
33	雀　居	雀居地内	95.5.31	空港整備	310,000	有	発掘調査	23雀居	調査番号9609	6-1-30
34	麦野C	麦野４丁目28-13他	95.6.1	店舗付き共同住宅	311	無		12麦野	谷部にあたり遺構、遺物なし	7-2-56
35	那　珂	那珂１丁目729他	95.6.1	店舗付き住宅	331	有	慎重工事	37東光寺	表土直下で古代の住居跡を確認	7-2-73
36	南八幡	寿町２丁目32他	95.6.5	共同住宅	258	有	慎重工事	12麦野	地表下1.1mで古代のピットが分布	7-2-38
37	雑餉隈	元町地内	95.6.6	駅前整備	8,080	無		13雑餉隈	削平を受け遺構、遺物なし	7-1-26
38	那　珂	那珂１丁目3-35	95.6.6	事務所兼住宅	292	無		37東光寺	削平を受け遺構、遺物なし	7-2-89
39	東光寺	博多駅南５丁目24-12他	95.6.7	共同住宅	973	無		37東光寺	遺構、遺物なし	7-2-52
40		神屋町46	95.6.7	共同住宅	377	無		48千代博多	博多遺跡群に隣接。遺構、遺物なし	7-2-55
41	席田青木	青木１丁目290番他	95.6.19	共同住宅	2,042	有	発掘調査	22上臼井	調査番号9521	7-2-33
42	那　珂	那珂６丁目16-271	95.6.20	事務所兼住宅	155	有	慎重工事	24板付	古墳時代の溝１条検出	7-2-87
43	井相田D	井相田１丁目5-8他	95.6.22	駐車場	1,640	無		12麦野	遺構、遺物なし	7-2-91
44	比　恵	博多駅南２丁目4-47他	95.6.22	共同住宅	1,112	有	工事立会	36博多駅	1.2mで砂層になり遺構、遺物なし	7-2-60
45	麦野C	竹丘町２丁目15番他	95.6.22	共同ビル	1,169	無		12麦野	遺構、遺物なし	7-2-77
46	立花寺	立花寺字石原146-1他	95.6.22	高圧送電線鉄塔	156	無		11金隈	遺構、遺物なし	7-2-128
47	那　珂	那珂１丁目4-27	95.6.27	事務所兼共同住宅	398	有	慎重工事	37東光寺	地表下0.5mで古代の竪穴住居跡、土壙を確認	7-2-123
48	那　珂	那珂２丁目7-1	95.6.27	共同住宅	395	有	慎重工事	24板付	表土下0.4mでピット、溝を検出	7-2-121
49	博　多	店屋町128番	95.7.4	店舗兼事務所	120	有	慎重工事	49天神	地表下２m以下で中世以前の遺構、遺物を多く確認	6-2-471
50		東雲町３丁目7番地他	95.7.9	売買	1,481	有	協議中	12麦野	地表下0.7mで中世の溝、土壙を確認	7-2-98
51	諸岡A	諸岡１丁目4-30	95.7.12	専用住宅	82	有	慎重工事	24板付	地表下0.4mでピットを確認	7-2-86
52	井　尻	井尻５丁目234-72	95.7.12	売買	243	有	協議中	25井尻	地表下0.8mでピットを確認	7-2-121
53		東月隈４丁目地内	95.7.18	共同住宅	8,600	無		10下月隈	遺構、遺物なし	7-1-69
54		上臼井　柳井	95.7.19	消防施設	578	無		22上臼井	遺構、遺物なし	7-1-270
55	井相田D	井相田２丁目2-9	95.7.20	事務所	1,657	有	慎重工事	12麦野	地表下1.6mで土壙、ピットを確認	7-2-144
56	博　多	奈良屋町103	95.7.27	売買	172	有	協議中	48千代博多	地表下２mまでは遺構、遺物なし	7-2-150
57	博　多	博多駅南３丁目462・463	95.7.20	売買	140	無		37東光寺	地表下１mの砂層から弥生土器片が少量出土	7-2-164
58	博　多	下川端町134	95.7.29	駐車場	100	有	発掘調査	49天神	調査番号9532	7-2-189
59	井相田	大字立花寺字下川原1030	95.8.2	事務所兼倉庫	1,000	無	工事立会	11金隈	遺構、遺物なし	7-2-182
60	雑餉隈	光丘町１丁目20-1・2	95.8.2	共同住宅	871	無		13雑餉隈	谷部となり、遺構、遺物なし	7-2-184
61	榎　田	上牟田1-4-1	95.8.17	事務所兼倉庫	8,294	有	工事立会	36博多駅	遺構、遺物なし	7-2-180
62	那　珂	那珂２丁目383-1他	95.8.17	共同住宅	650	有	慎重工事	24板付	地表下0.7mでピット等の遺構を確認	7-2-203
63	博　多	博多駅南５丁目43	95.8.23	売買	800	無		37東光寺	谷部に入ると思われ僅かに土師器出土	7-2-157
64	那　珂	那珂４丁目310	95.8.29	共同住宅	1,017	有	発掘調査	24板付	調査番号9557	7-2-202
65	那　珂	東光寺１丁目38-1	95.8.31	店舗増築	774	有	工事立会	37東光寺	地表下1.55mでピット一基を検出	7-2-215
66	比　恵	博多駅南３丁目464他	95.9.5	売買	455	無		37東光寺	旧地表下は砂層で遺構、遺物無し	7-2-231
67	比恵甕棺	山王２丁目15-2他	95.9.6	専用住宅	1,368	有	協議中	37東光寺	地表下1.55mのローム面で遺構検出	7-2-230
68	博　多	古門戸町12・13	95.9.7	事務所	495	有	工事立会	48千代博多	地表下1.9mで中、近世の遺構遺物を検出	7-2-168

69	那　珂	竹下５丁目379他	95．９．12	共同住宅	938	有	発掘調査	38塩原	調査番号9553	7-2-228
70	吉　塚	堅粕４丁目330-2	95．９．12	事務所	331	無		36博多駅	土器は少量見られるが遺構は無い	7-2-134
71	高　畑	板付６丁目1-1	95．９．19	警察学校施設	260	有	慎重工事	24板付	鳥栖ローム上で柱穴検出	7-1-631
72		東平尾１丁目118-2	95．９．19	市職員研修所	12,811	無		22上臼井	遺構、遺物なし	7-1-617
73	博　多	奈良屋町253	95．９．14	駐車場	167	有	工事立会	48千代博多	地表下1.9mで近世の遺構、遺物。その下は遺構、遺物は見られない	7-2-198
74	那　珂	那珂２丁目156	95．９．20	共同住宅	937	有	工事立会	38塩原	地表下0.65mで溝１条を確認	7-2-212
75	板　付	板付５丁目3-13	95．９．20	事務所	124	有	工事立会	24板付	近世の溝２条を確認	7-2-22
76	板　付	板付５丁目3-18	95．９．20	事務所	124	有	工事立会	24板付	近世の溝２条を確認	7-2-225
77	博　多	下川端町134番地	95．９．27	立体駐車場	100	有	工事立会	49天神	地表下2.4mで砂層、その面でピット、土壙などの遺構や遺物を確認	7-2-18
78	雑餉隈	昭南町３丁目25番4	95．９．30	共同住宅	551	無		13雑餉隈	地表下2.4mで粗砂層、遺構、遺物なし	7-2-59
79	博　多	古門戸町83番86-1他	95.10．１	共同住宅	676	有	発掘調査	38塩原	調査番号9545	7-2-253
80	吉　塚	堅粕５丁目6-27	95.10．４	共同住宅	296	無		36吉塚	粗砂で遺構、遺物無し	7-2-260
81	博　多	冷泉町292	95.10．４	店舗兼住宅	133	有	慎重工事	49天神	地表下２mで砂層となるが遺構、遺物無し	7-2-264
82	那　珂	竹下５丁目8-2	95.10．５	売買	272	有	発掘調査	38塩原	調査番号9530	7-2-253
83	比　恵	博多駅南６丁目11-4他	95.10.24	店舗	2,660	有	発掘調査	37東光寺	調査番号9541	7-2-285
84	麦野Ａ	麦野５丁目3-48	95.10.26	専用住宅	319	有	工事立会	12麦野	地表下２mで遺構を確認	7-2-140
85	三　筑	三筑２丁目14-4他	95.11．１	公園整備	1,200	有	慎重工事	25井尻	水田、自然流路を確認	7-1-597
86	那珂君休	那珂４丁目地内	95.11．２	区画整理	15,000	有	発掘調査	24板付	調査番号9605	7-2-133
87	比　恵	博多駅南４丁目62	95.11．９	店舗	1,431	有	慎重工事	37東光寺	地表下0.3mで遺構を確認	7-2-325
88	博　多	須崎町51-1	95.11.15	店舗兼住宅	89	有	慎重工事	49天神	地表下2.1mで遺構、遺物を確認	7-2-324
89	吉　塚	堅粕３丁目590-1	95.11.21	事務所兼住宅	350	有	慎重工事	35吉塚	地表下0.7mの黄褐色砂の面で溝、ピットを確認	7-2-347
90	吉　塚	堅粕６丁目14-19	95.11.29	共同住宅	846	有	立会調査	36博多駅	地表下1.4mでピットを確認	7-2-362
91	吉　塚	堅粕１丁目4-1	95.11.29	倉庫	115	無		35吉塚	遺構、遺物無し	7-2-345
92	麦野Ｃ	麦野６丁目8番2	95.11.29	事務所	227	無		12麦野	遺構、遺物無し	7-2-336
93		吉塚６丁目338他	95.11.30	共同住宅	2,516	無		35吉塚	吉塚本町遺跡群隣接。遺構、遺物無し	7-2-344
94		博多駅前１丁目20番26号	95.11.30	工場	564	無		36博多駅	博多遺跡群隣接。遺構、遺物無し	7-2-339
95		立花寺字松尾谷63-2他	95.12.13	送電線		無		11金隈	立花寺遺跡群に隣接。遺構、遺物無し	7-2-128
96	立花寺	金隈字隈ノ下975	95.12.13	送電線		無		11金隈	立花寺遺跡群に隣接。遺構、遺物無し	7-2-128
97	那　珂	那珂46-1	95.12.18	売買	593	有	慎重工事	37東光寺	地表下0.8mで遺構を確認	7-2-382
98	那　珂	那珂１丁目486	95.12.18	売買	785	有	発掘調査	37東光寺	調査番号9619	7-2-383
99	那　珂	那珂１丁目487	95.12.18	売買	331	有	発掘調査	37東光寺	調査番号9619	7-2-384
100	那珂君休	那珂４丁目311	95.12.18	売買	1,113	有	発掘調査	37東光寺	調査番号9557	7-2-385
101	比　恵	博多駅南４丁目地内	95.12.19	共同住宅	1,200	有	発掘調査	37東光寺	調査番号9601	7-1-607
102	博　多	冷泉町397-1他	95.12.25	共同ビル	222	有	工事立会	49天神	地表下2.2mで黄色砂となり、その面に遺構を確認	7-2-410
103	那　珂	東光寺町１丁目38-1	96．１．17	店舗	774	有	工事立会	37東光寺	地表下1.7mから下が弥生～古墳時代の包含層	7-2-269
104	天神森	下月隈484-1他	96．１．10	店舗	482	有	発掘調査	10下月隈	調査番号9558	7-2-388
105	板　付	板付２丁目1-39	96．１．10	店舗	928	有	慎重工事	24板付	地表下1.9mで水田の畦畔を確認	7-2-399
106	比　恵	博多駅南４丁目111-1他	96．１．17	事務所	860	有	慎重工事	37東光寺	地表下1.2mで土壙、ピットを確認	7-2-415
107	博　多	店屋町8-10	96．１．23	病院兼住宅	568	有	発掘調査	49天神	調査番号9554	7-2-303

108	博　　多	中呉服町2-22	96.1.26	共同住宅	562	有	発掘調査	48千代博多	調査番号9618	7-2-420
109	比　　恵	博多駅南５丁目3-1	96.1.29	学校施設	130	無		37東光寺	谷部に当たり、遺構、遺物なし	7-1-670
110	博　　多	奈良屋町185他	96.1.30	増築	1,520	有	慎重工事	48千代博多	地表下2.3mで黄色砂で遺構、遺物が多く確認できた	7-2-135
111		板付４丁目7-28	96.2.1	事務所	2,886	有	慎重工事	24板付	板付水田遺跡隣接。地表下1.5m前後で杭を検出	7-2-429
112	南八幡	元町１丁目20-2	96.2.5	売買	227	有	発掘調査	13雑餉隈	調査番号9560	7-2-421
113	吉　　塚	堅粕４丁目326他	96.2.7	食糧事務所	1,115	有	発掘調査	36博多駅	調査番号9615	7-1-678
114	席田青木	青木１丁目366	96.2.14	賃貸ビル	1,256	無		22上臼井	遺構、遺物無し	7-2-447
115	博　　多	祇園町5-1	96.2.14	給油所	690	有	工事立会	49天神	地表下２m前後で土師器出土、遺構は無い	7-2-475
116	比　　恵	博多駅南６丁目30-1	96.3.5	倉庫	1,746	有	工事立会	37東光寺	地表下0.9mに包含層を確認	7-2-467
117	博　　多	須崎160-1	96.2.29	共同住宅	107		慎重工事	49天神	地表下2.3mで黄色砂で遺構、遺物なし	7-2-480
118	立花寺Ｂ	大字月隈912	96.2.29	工場	1,435	有	慎重工事	11金隈	地表下0.5mで水田を確認	7-2-496
119	麦野Ｃ	麦野６丁目13番6	96.2.29	共同住宅	338	有	立会調査	12麦野	地表下0.8mでロームとなり、僅かに遺構が残る	7-2-484
120	博　　多	祇園町151他	96.3.5	事務所	1,427	有	協議中	48千代博多	地表下2.1mで中世の遺構、遺物を確認	7-2-53
121		下月隈地内	96.3.12	空港整備	30,000	有	発掘調査	23雀居	円墳１基と古代集落、平成９年度調査予定	7-1-622
122	比　　恵	博多駅南４丁目217-2・3	96.3.13	専用住宅	131	有	慎重工事	37東光寺	地表下0.4～0.9mは包含層、その下に遺構が観察できる	7-2-516
123	麦野Ｃ	銀天町３丁目4	96.3.19	病院兼住宅	472	有	発掘調査	12麦野	調査番号9604	7-2-396
124	那　　珂	那珂６丁目334-1	96.3.19	売買	456	有	慎重工事	38塩原	地表下1.65mのローム面に遺構が観察できる	7-2-515
125	南八幡	寿町３丁目4-30	96.3.21	共同住宅	351	無		12麦野	地表下0.6mローム面に遺構が観察できる	7-2-466
126		竹下３丁目88-1	96.3.27	工場	110	有	立会調査	37東光寺	那珂遺跡群隣接、谷部となり遺構、遺物無し	7-2-463
127	博　　多	綱場町40・41番	96.3.27	事務所兼店舗	295	有	立会調査	49天神	地表下３mで湿地となり杭等を検出	7-2-520
128	南八幡	相生町２丁目23-1	96.3.28	売買	204	有	立会調査	25井尻	地表下0.5mで包含層、その下に遺構が観察できる	7-2-512

中央区

番号	遺跡 名称	遺跡 所在地	調査日	種別	面積(㎡)	遺跡の有無	調査後の措置	地図番号	調査の所見	審査番号
129		地行３丁目16番8号	95.4.5	事務所	674	無		71西新	元寇防塁隣接地	6-2-463
130	福岡城跡	大名２丁目3番12	95.5.16	共同住宅	502	有	協議中	60舞鶴	南半分は福岡城の堀	7-2-39
131		那の川地内	95.6.6	駅前整備	5,900	無		50平尾	遺構、遺物なし	7-1-25
132	福岡城跡	天神１丁目11-7	95.6.12	バスターミナル	9,058	有	工事立会	49天神	肥前堀の肩部の一部を確認	3-2-421
133	福岡城跡	赤坂１丁目	95.7.18	送電線	41	有	工事立会	60舞鶴	地表下1.85mで堀の石垣を検出	6-2-444
134	福岡城跡	赤坂１丁目163-1他	95.8.22	売買	198	有	協議中	60舞鶴	堀の肩部を確認	7-2-172
135		地行４丁目2番14	95.10.17	専用住宅	646	無		71西新	元寇防塁隣接地、遺構、遺物無し	7-2-117
136	福岡城跡	大名１丁目81他	95.11.9	共同住宅	843	有	発掘調査	60舞鶴	調査番号9546	7-2-226
137	福岡城跡	赤坂１丁目164	95.12.12	共同住宅	97	有	協議中	60舞鶴	地表下1.85mで堀のコーナー部を確認	7-2-311
138	福岡城跡	赤坂２丁目43	96.2.20	共同住宅	218	無		60舞鶴	遺構無し	7-2-469
139	福岡城跡	赤坂１丁目9番1	96.1.16	共同住宅	870	有	慎重工事	60舞鶴	堀の内側にあたる	7-2-311

城南区

番号	遺跡 名称	遺跡 所在地	審査日	種別	面積(㎡)	遺跡の有無	調査後の措置	地図番号	調査の所見	審査番号
140	飯倉	七隈6丁目350番42	95.4.20	共同住宅	240	無		74七隈	削平を受け遺構、遺物なし	7-2-20
141	田島B	田島6丁目167番1	95.5.16	専用住宅	210	無		73茶山	削平を受け遺構、遺物なし	7-2-46
142	田島B	田島6丁目167番2	95.5.16	専用住宅	205	無		73茶山	削平を受け遺構、遺物なし	7-2-47
143		南片江2丁目90他	95.5.24	共同住宅	3,541	無		64東油山	遺構、遺物なし	7-1-122
144		茶山6丁目111他	95.6.7	共同住宅	1,322	有	慎重工事	73茶山	茶山遺跡群隣接。住居跡を確認	7-2-72
145	茶山	茶山6丁目108他	95.6.20	店舗	2,075	有	慎重工事	73茶山	ピットを確認	7-2-109
146		七隈7丁目131-6他	95.6.27	公園建設	940	無		74七隈	削平著しく、遺構、遺物なし	7-1-103
147		梅林5丁目155-2	95.7.13	専用住宅	218	無		74七隈	飯倉G遺跡群に隣接。谷部にあたり遺構、遺物なし	7-2-7
148	茶山	茶山6丁目188-1	95.9.27	共同住宅	1,958	無		73茶山	遺構、遺物無し	7-2-136
149	長尾	樋井川2丁目886-27	95.11.15	売買	204	無		63長尾	削平を受け遺構、遺物無し	7-2-317
150	東油山古墳群D群	東油山5丁目110番	95.12.7	病院建設	7,168	有	慎重工事	65山田	地表下2.2mで土壙一基を検出	7-2-45
151	茶山	茶山6丁目340-3	96.1.25	倉庫	215	無		73茶山	削平を受け遺構、遺物無し	7-2-407
152	片江長元町	片江4丁目66	96.2.20	共同住宅	2,529	無		74七隈	遺構、遺物無し	7-2-474

南区

番号	遺跡 名称	遺跡 所在地	調査日	種別	面積(㎡)	遺跡の有無	調査後の措置	地図番号	調査の所見	審査番号
153	警弥郷B	弥永3丁目15-12他	95.4.5	共同住宅	964	無		41警弥郷	遺構、遺物なし	6-2-445
154	三宅C	大橋3丁目309-1他	95.4.11	共同住宅	942	有	慎重工事	39三宅	地表下0.7mの粗砂層で水田足跡検出	6-2-443
155	樋井川B	檜原1丁目558-1他	95.4.18	店舗	1,057	無		64東油山	遺構、遺物なし	6-2-470
156	日佐	日佐1丁目155番1	95.4.25	専用住宅	483	有	慎重工事	40老司	地表下0.4mで中世包含層、その下でピット確認	7-2-16
157	警弥郷B	弥永5丁目17-12他	95.6.13	公園整備	1,577	無		41警弥郷	遺構、遺物なし	7-1-101
158	花畑C	屋形原1丁目360-1他	95.6.13	事務所	583	無		53屋形原	遺構、遺物なし	7-2-74
159	赤牟田	檜原1丁目428番11	95.6.21	専用住宅	360	無		53屋形原	表土下は花崗岩風化層で遺構、遺物なし	7-2-111
160	寺塚A古墳群	寺塚2丁目3-2	95.6.27	共同住宅	842	無		51高宮	遺構、遺物無し	7-2-120
161	井尻B	井尻1丁目25番1号他	95.6.28	専用住宅	87	有	発掘調査	25井尻	調査番号9520	7-2-222
162	井尻B	井尻1丁目13	95.7.13	団地建設	13,144	有	発掘調査	25井尻	調査番号9666	3-1-658
163	井尻大塚	井尻5丁目237-72	95.7.12	売買	243	有	協議中	25井尻	地表下0.4mで遺構を確認	7-2-146
164		高木2丁目344	95.8.31	事務所兼住宅	448	無		25井尻	井尻A遺跡群隣接、砂層で遺構、遺物無し	7-2-217
165		五十川2丁目97番1	95.9.5	共同住宅	1,133	有	慎重工事	24板付	五十川遺跡群に隣接、地表下0.5mでピット土壙を確認	7-2-210
166		横手南町16番1号	95.9.12	共同住宅	2,573	無		25井尻	遺構、遺物無し	7-2-224
167	花畑A	柏原1丁目1-50	95.10.17	共同住宅	238	無		53屋形原	削平を受け遺構、遺物無し	7-2-227
168	五十川	五十川2丁目248他	95.10.11	共同住宅	1,788	有	発掘調査	24板付	調査番号9538	7-2-272
169	和田B	野多目3丁目626-1	95.10.18	団地建設	2,369	有	発掘調査	40老司	調査番号9608	7-1-635
170	大橋E	大橋4丁目628-3他	95.11.21	共同住宅	750	有	発掘調査	39三宅	調査番号9538	7-2-222

171	大橋E	大橋4丁目629-3他	95.11.21	共同住宅	336	有	発掘調査	39三宅	調査番号9547	7-2-281
172		弥永1丁目1-2他	95.11.30	共同住宅	1,146	有	工事立会	40老司	警弥郷A遺跡群隣接、地表下0.8mで水田面を確認	7-2-348
173	花畑A	柏原1丁目84-4他	96.1.9	共同住宅	540	有	慎重工事	53屋形原	地表下0.7mで溝を検出	7-2-413
174	諸岡A	井尻2丁目36-40	96.2.7	大学施設建設	360	無		25井尻	遺構、遺物なし	8-1-38
175	中村町	野間3丁目181番	96.3.5	共同住宅	218	無		51高宮	遺構、遺物無し	7-2-488
176	井尻B	井尻4丁目174-1他	96.3.5	店舗	1,229	有	慎重工事	25井尻	地表下0.6mで溝、ピット検出	7-2-494
177	三宅C	三宅3丁目169番1	96.3.7	共同住宅	1,124	無		39三宅	砂層で遺構、遺物無し	7-2-483
178	五十川	五十川1丁目10-1	96.3.28	共同住宅	630	無		24板付	削平を受け、遺構、遺物なし	7-2-439

早良区

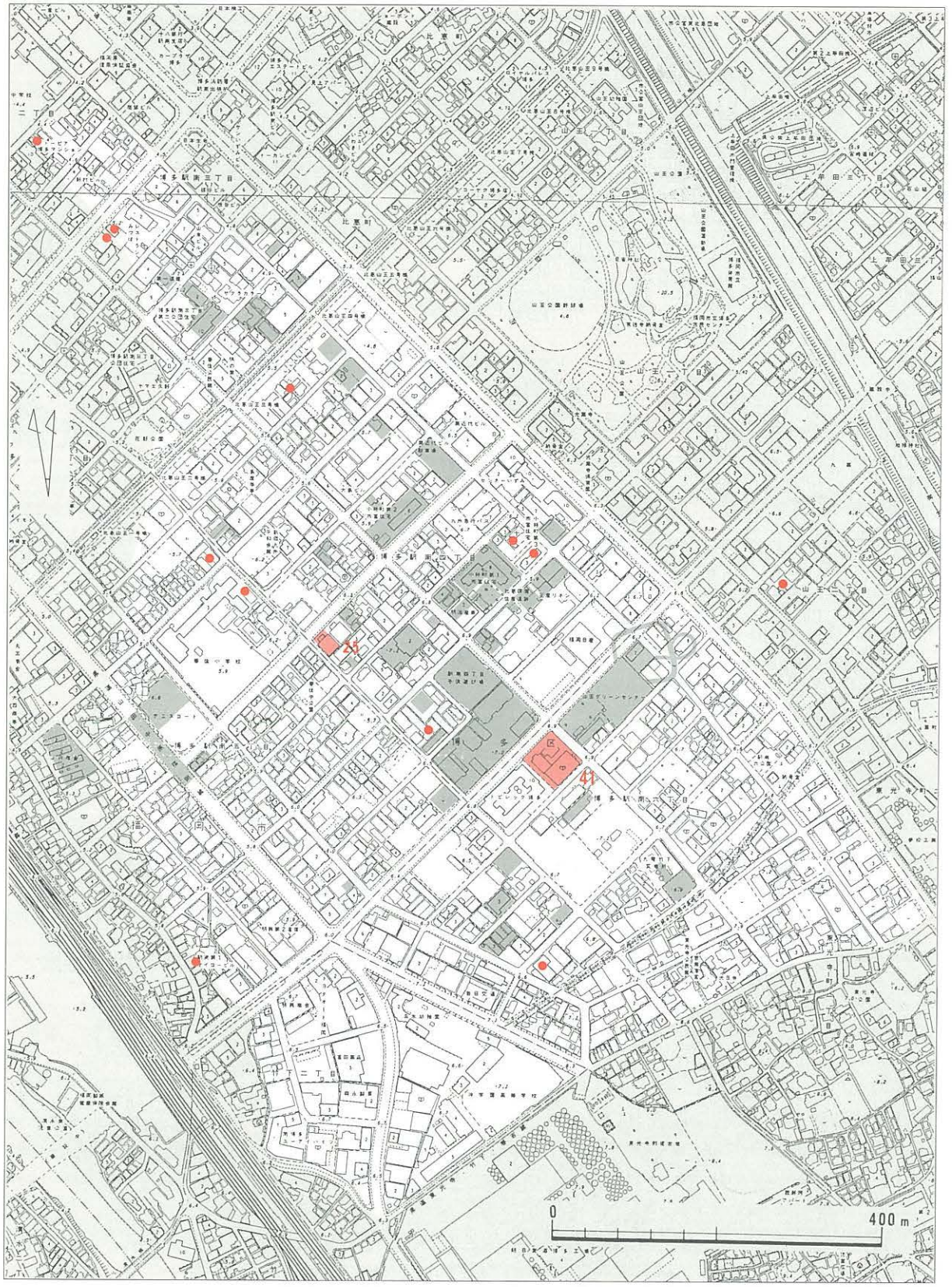
番号	遺跡 名称	遺跡 所在地	調査日	種別	面積(㎡)	遺跡の有無	調査後の措置	地図番号	調査の所見	審査番号
179	古田B	重留地内	95.4.6	公園整備	9,000	有	発掘調査	84四箇	調査番号9507	6-1-640
180	有田	小田部2丁目105-2	95.4.18	店舗	100	有	慎重工事	82原	谷部にあたり弥生～古墳時代の包含層を確認	6-2-17
181	有田	南庄3丁目214番	95.4.20	共同住宅	966	有	発掘調査	81室見	調査番号9516	6-2-478
182		内野2丁目656番1、11	95.4.26	戸建住宅	2,232	無		17早良内野	内野遺跡群に隣接。土師器少量出土、遺構なし	7-2-9
183	重留村下	重留1丁目地内	95.5.1	道路拡幅	722	有	慎重工事	84四箇	柱穴検出	6-1-620
184	西新町	西新5丁目18他	95.5.11	共同住宅	744	無		72荒江	砂丘の後背湿地で遺構、遺物なし	7-2-14
185		重留7丁目1016-1	95.5.11	戸建住宅	2,762	有	慎重工事	84四箇	四箇遺跡群に隣接。地表下0.3mで僅かにピット、溝を検出	6-2-445
186	田村	田村1丁目1068-1他	95.6.8	戸建住宅	1,052	有	慎重工事	92戸切	地表下で溝を検出	7-2-62
187	原	原5丁目1344-5	95.6.8	倉庫	323	無		82原	地表下1mでグライ化した粘土で遺構、遺物なし	7-2-99
188	次郎丸高石	次郎丸6丁目66-1他	95.6.12	店舗	972	有	慎重工事	83野芥	地表下0.4mでピットを確認	7-2-84
189	有田	有田1丁目31-3	95.6.12	店舗	524	有	発掘調査	82原	調査番号9607	7-2-88
190	藤崎	藤崎1丁目2-10	95.6.21	戸建住宅	455	有	協議中	81室見	ピット、溝を確認	7-2-92
191	藤崎	藤崎1-5	95.6.27	共同住宅	687	無		81室見	遺構、遺物なし	7-2-94
192	原	原5丁目1229-2	95.6.28	専用住宅	71	有	慎重工事	82原	溝或いは段落ちの肩部を確認。遺物なし	7-2-112
193	原	原5丁目1225-29他	95.6.28	共同住宅	176	無		82原	谷部にあたり、遺構遺物なし	7-2-113
194	藤崎	高取2丁目	95.6.30	共同住宅	928	無		81室見	地表下0.7mで岩盤、遺構、遺物なし	7-2-8
195	西新町	西新5丁目560他	95.7.5	店舗兼共同住宅	783	有	工事立会	72荒江	西新町遺跡群に隣接、ピット一個と弥生土器採集	7-2-137
196	西新町	西新7丁目709-2他	95.7.6	共同住宅	690	無		72荒江	遺構、遺物なし	7-2-142
197	四箇	田村5丁目1107	95.7.6	戸建住宅	1,341	有	慎重工事	84四箇	溝と縄文晩期の包含層を確認	7-2-107
198	四箇	重留7丁目1067-1	95.7.6	共同住宅	902	無	慎重工事	84四箇	遺構、遺物なし	7-2-145
199	原東	飯倉4丁目289-1、3	95.7.12	専用住宅	699	有	慎重工事	82原	地表下1.2mで甕棺破片採集、遺構なし	7-2-122
200	野芥	野芥5丁目6-377	95.7.13	病院建設	14,630	有	発掘調査	84四箇	調査番号9616	7-2-124
201	西新町	西新5丁目586-4他	95.7.13	店舗兼住宅	307	無		72荒江	遺構、遺物なし	7-2-130
202	有田	有田3丁目38-6	95.7.20	店舗兼住宅	225	無		82荒江	谷部にあたり遺構、遺物なし	7-2-156
203	野芥	野芥2丁目917-7	95.7.27	共同住宅	719	有	発掘調査	83野芥	調査番号9526	7-2-185
204	次郎丸	次郎丸5丁目563-3	95.7.27	整地	252	有	慎重工事	92戸切	古墳時代の溝を一条確認	7-2-190
205	次郎丸	次郎丸5丁目568-2	95.7.27	整地	9	有	慎重工事	83野芥	古墳時代の溝を一条確認	7-2-191

206	次郎丸	次郎丸5丁目567-1	95.7.27	整地	57	有	慎重工事	83野芥	古墳時代の溝を一条確認	7-2-191
207	有田	小田部2丁目102他	95.8.1	共同住宅	1,032	有	発掘調査	82原	調査番号9524	6-2-476
208	樋渡	大字東入部1766-5他	95.8.8	共同住宅	526	無		85入部	遺構、遺物なし	7-2-199
209	四箇大町	四箇地内	95.8.8	道路整備	930	無		93都地	遺構、遺物なし	7-1-43
210		田村1丁目829-1	95.8.9	共同住宅	1,456	有	慎重工事	93都地	田村遺跡群隣接、地表下0.5mでピット、土壙を確認	7-2-176
211	四箇	重留7丁目1070-1他	95.8.9	共同住宅	2,198	無		84四箇	遺構なし	7-2-177
212	原東	飯倉4丁目13-23	95.8.11	専用住宅	278	有	慎重工事	82原	遺構なし	7-2-197
213	次郎丸高石	賀茂4丁目427番1	95.8.21	店舗	3,866	有	慎重工事	83野芥	遺構なし	7-2-186
214	原	原5丁目12-16	95.8.22	公民館改築	660	有	慎重工事	82原	柱穴検出	6-1-102
215		重留884-1他	95.8.30	店舗	1,064	有	慎重工事	85入部	熊本遺跡群隣接、地表下1.5mでピット、土壙、溝を確認	7-2-179
216		飯倉2丁目495-1	95.9.5	共同住宅	403	無		73茶山	飯倉A遺跡群隣接、遺構、遺物無し	7-2-204
217	野芥	野芥2丁目840-3他	95.9.6	学生寮	713	無		83野芥	遺構、遺物無し	7-2-223
218		野芥7丁目540-1	95.9.6	戸建住宅	3,525	無		89姪浜	遺構、遺物無し	7-2-240
219	免	賀茂3丁目192他	95.9.14	共同住宅	1,331	有	慎重工事	83野芥	縄文時代包含層を確認	7-2-236
220	茶山	茶山6丁目188-1	95.9.27	共同住宅	1,958	無		73茶山	遺構、遺物無し	7-2-136
221	西新町	西新5丁目572番他	95.10.4	共同住宅	1,190	有	発掘調査	72荒江	調査番号9533	7-2-102
222	西新町	西新3丁目205-63	95.10.12	共同住宅	282	有	工事立会	71西新	地表下1.2m前後で黄色砂になりピットを確認	7-2-266
223		次郎丸4丁目375-1他	95.10.17	共同住宅	1,545	有	慎重工事	92戸切	次郎丸遺跡群隣接、地表下0.5mでピット、土壙、溝を確認	7-2-236
224	原	原5丁目9-7	95.10.19	共同住宅	222	有	発掘調査	82原	調査番号9534	7-2-125
225	松木田	早良地内	95.10.24	道路改良	1,440	有	発掘調査	16早良	調査番号9641	8-1-14
226	次郎丸高石	賀茂4丁目444-1	95.10.25	事務所兼住宅	704	無		83野芥	遺構、遺物なし	7-2-293
227	有田	小田部5丁目157-2	95.10.21	事務所兼倉庫	231	無		82原	削平を受け遺構は無いが少量の土器が出土	7-2-330
228		大字田330-1他	95.10.24	公園	2,000	無		93都地	河道、氾濫源	7-1-102
229	原	原5丁目1217-1	95.12.5	共同住宅	1,355	有	工事立会	82原	地表下0.4mで溝、土壙を検出	7-2-349
230	原	原6丁目186-1他	95.12.5	給油所	932	無		82原	遺構、遺物無し	7-2-363
231	次郎丸高石	次郎丸1丁目61-4	95.12.5	共同住宅	399	有	慎重工事	83野芥	地表下0.5mでピットを確認	7-2-359
232		田隈3丁目115-1他	95.12.13	緑地	1,860	無		84重留	遺構、遺物なし	7-1-107
233	原	原5丁目1343-2	95.12.13	専用住宅	186	有	慎重工事	82原	地表下0.8mで古墳時代の溝を確認	7-2-368
234	次郎丸高石	次郎丸1丁目30-1	95.12.20	共同住宅	689	有	慎重工事	83野芥	浅い窪みを検出するが遺物は出土していない	7-2-336
235	峰	大字西字中山1270他	96.1.16	通信施設	1,531	無		17早良	土師器が少量出土するが遺構は認められない	7-2-346
236	四箇	田村5丁目1098-2他	96.1.16	事務所兼診療所	818	有	工事立会	84重留	地表下1.9mでピット、土壙検出	7-2-419
237	有田	有田2丁目12-5	96.1.17	売買	568	有	協議中	82原	耕作土直下にピット、竪穴住居跡、土壙を検出	7-2-436
238	四箇大町	四箇地内	96.1.18	道路整備	1,230	無		93都地	遺構、遺物なし	7-1-43
239	松木田	早良地内	96.1.24	道路改良	1,440	有	発掘調査	16早良	調査番号9641	8-1-14
240	西新町	西新3丁目206-2他	96.2.6	共同ビル	3,690	無		71西新	遺構、遺物なし	7-2-411
241		内野西地内	96.2.15	圃場整備	23,000	無		17早良	遺構、遺物なし	8-1-395
242	西新町	西新5丁目637-1	96.2.17	共同ビル	3,690	無		71西新	遺構、遺物なし	7-2-438
243	原東	飯倉8丁目572-1他	96.2.20	共同住宅	2,186	無		82原	遺構、遺物なし	7-2-455
244		次郎丸5丁目389-10	96.3.7	共同住宅	266	無		83野芥	次郎丸遺跡群隣接、遺構、遺物なし	7-2-492

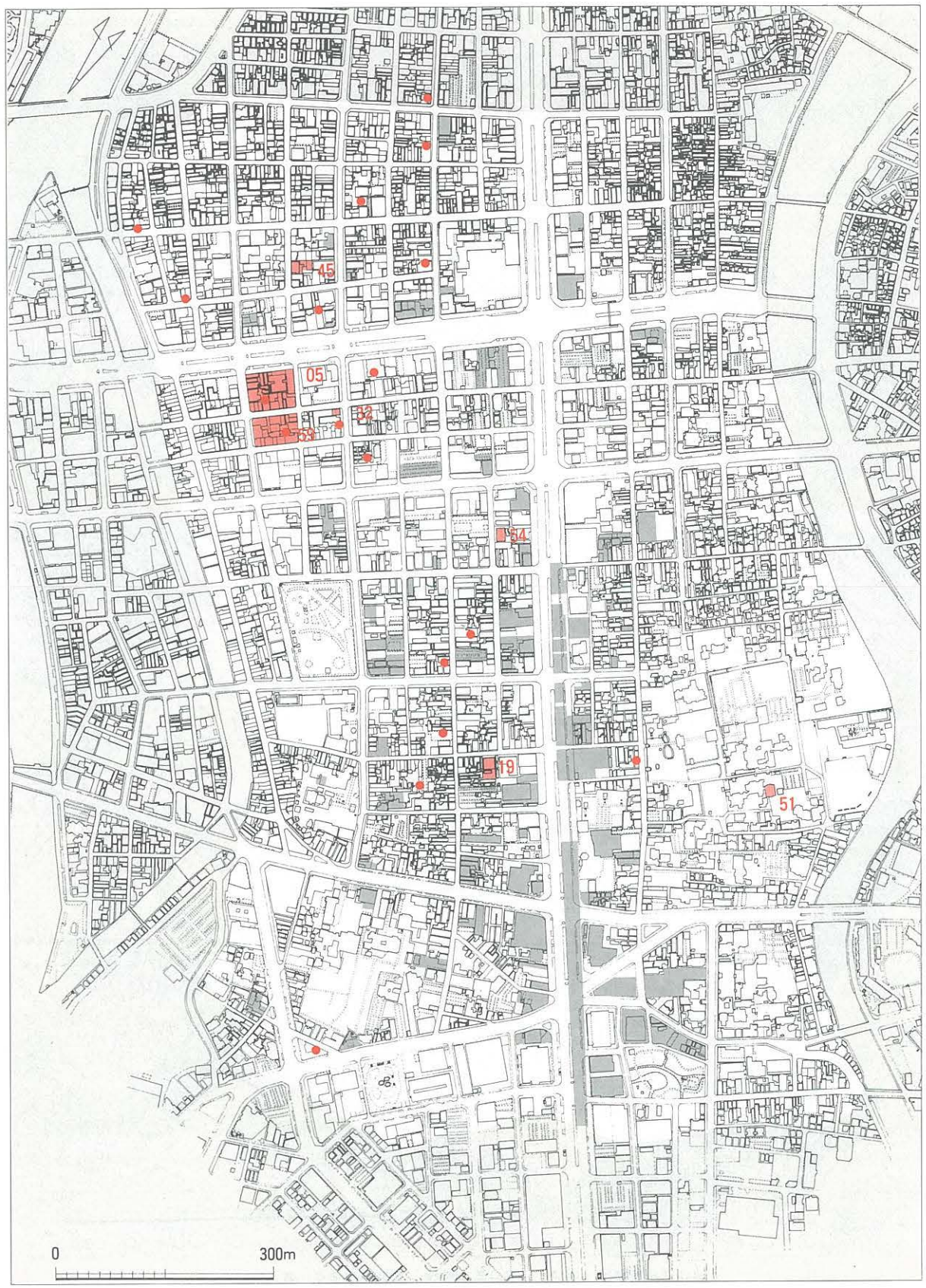
245		次郎丸４丁目399他	96．３．14	共同住宅	2,058	無		84重留	橋本、次郎丸遺跡群隣接	7-2-482
246	野　芥	野芥４丁目604-23	96．３．21	共同住宅	894	無		84重留	遺構、遺物なし	7-2-513

西区

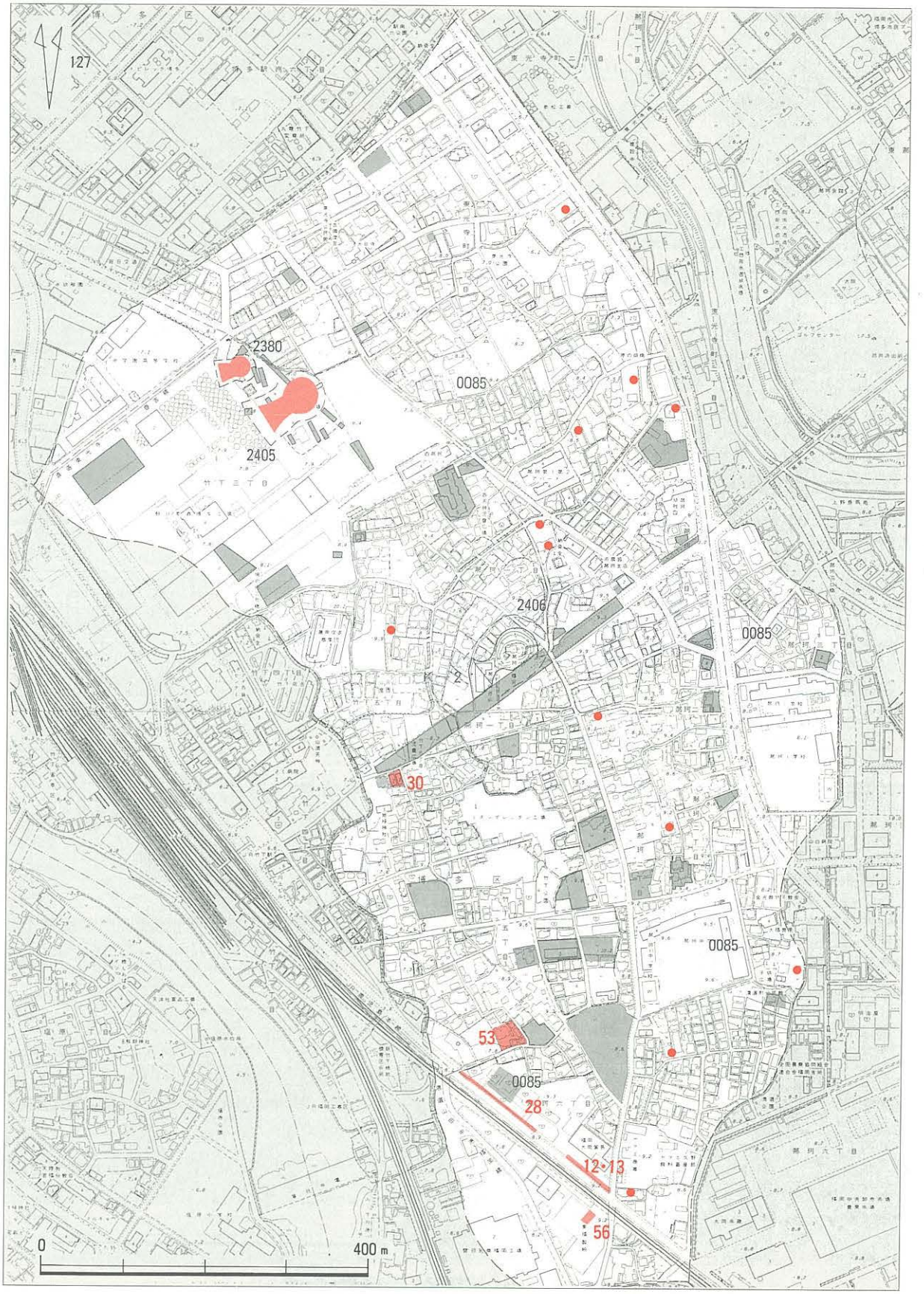
番号	遺跡名称	遺跡所在地	審査日	種別	面積(㎡)	遺跡の有無	調査後の措置	地図番号	調査の所見	審査番号
247	姪　浜	姪浜２・３丁目地内	95．４．11	街路整備	2,000	無		89姪浜	遺構、遺物なし	6-1-86
248	下山門南	下山門４丁目917番他	95．４．20	共同住宅	1,810	無		90石丸	遺構、遺物なし	7-2-13
249	野方岩名隈	野方７丁目768番地1	95．４．20	病院増築	679	有	発掘調査	104拾六町	調査番号9614	7-2-23
250	下山門	下山門４丁目776番5	95．５．18	共同住宅	1,153	有	慎重工事	103長垂	表土下0.5m～0.8mで二枚の水田が認められるが畦畔は認められない。	6-2-428
251		石丸１丁目地内	95．６．13	保育園増設	700	無		90石丸	遺構、遺物なし	6-1-627
252	周船寺	周船寺１丁目506-2他	95．５．26	共同住宅	780	無		90石丸	遺構、遺物なし	7-2-24
253	下山門敷町	石丸３丁目250番	95．６．28	共同住宅	1,142	有	慎重工事	90石丸	地表下0.6mでピット、溝検出	7-2-80
254	城ノ原	上山門２丁目1501-1他	95．７．５	売買	295	有	協議中	103長垂	地表下2.2mで古代の土器、瓦の包含層確認	7-2-114
255		横浜２丁目地内	95．７．19	道路整備	119	無		119今山	遺構、遺物なし	7-1-39
256	今　山	横浜１丁目1601-1	95．７．31	店舗兼住宅	383	無		119今山	遺構、遺物なし	7-2-138
257		今宿駅前１丁目644-2他	95．７．31	店舗	5,619	無		112今宿	今宿遺跡群隣接。遺構、遺物なし	7-2-143
258		橋本２丁目1146番4他	95．８．30	給油所	2,310	無		91橋本	遺構、遺物なし	7-2-95
259	羽根戸原C	大字羽根戸字小松70番地	95．８．30	店舗	442	無		92戸切	遺構、遺物なし	7-2-175
260	大原D	今津地内	95．９．５	埋立場整備	1,000	無		128大原	遺構、遺物なし	6-1-613
261	飯氏引地	周船寺地内	95．９．13	道路整備	1,500	有	発掘調査	120周船寺	調査番号9536	7-1-23
262	元岡B	大字元岡字原田2562他	95.10.12	厚生施設	5,943	有	慎重工事	140元岡	地表下２ｍでピットを確認	7-2-280
263	千里向河原	千里字帰り219-1他	95.10.25	専用住宅	398	無		121飯氏	遺構、遺物なし	7-2-292
264		下山門団地地内	95.11．８	共同住宅	10,500	無		103長垂	砂丘の後背湿地	7-1-72
265	橋本一丁田	拾六町1丁目26-1他	95.11．９	店舗	4,349	有	慎重工事	91橋本	地表下0.7mでピット、その下で水田を検出	7-2-304
266	高　崎	拾六町４丁目地内	95.11.14	道路整備	2,240	無		104拾六町	遺構、遺物なし	7-1-23
267	五島山古墳	姪浜町700-1	95.11.22	区画整理	45,000	無		90石丸	削平が著しく遺構、遺物なし	7-1-11
268	羽根戸原A	野方４丁目1054-1他	95.12.20	戸建住宅	2,698	無		105叶岳	遺構、遺物なし	7-2-340
269	羽根戸原A	野方４丁目1054-12	95.12.20	専用住宅	449	無		105叶岳	遺構、遺物なし	7-2-365
270	徳永A	大字徳永地内	96．１．11	道路整備	131	無		120周船寺	遺構、遺物なし	7-1-23
271	青　木	大字今宿青木地内	96．１．11	道路整備	112	有	発掘調査	112今宿	調査番号9642	7-1-23
272	今　宿	横浜１丁目3-5	96．１．13	専用住宅	382	無		111横浜	遺構、遺物なし	7-2-303
273	堀ノ内	今宿青木上ノ原ホリ内17-1	96．１．31	老人ホーム	2,301	無		113長垂	遺構、遺物なし	7-2-54
274	徳永古墳群H群	大字徳永アラタ384-20他	96．２．21	資材置場	942	有	協議中	121飯氏		7-2-409
275	羽根戸原A	野方７丁目747-2	96．２．21	戸建住宅	1,960	無		105叶岳	遺構、遺物なし	7-2-338



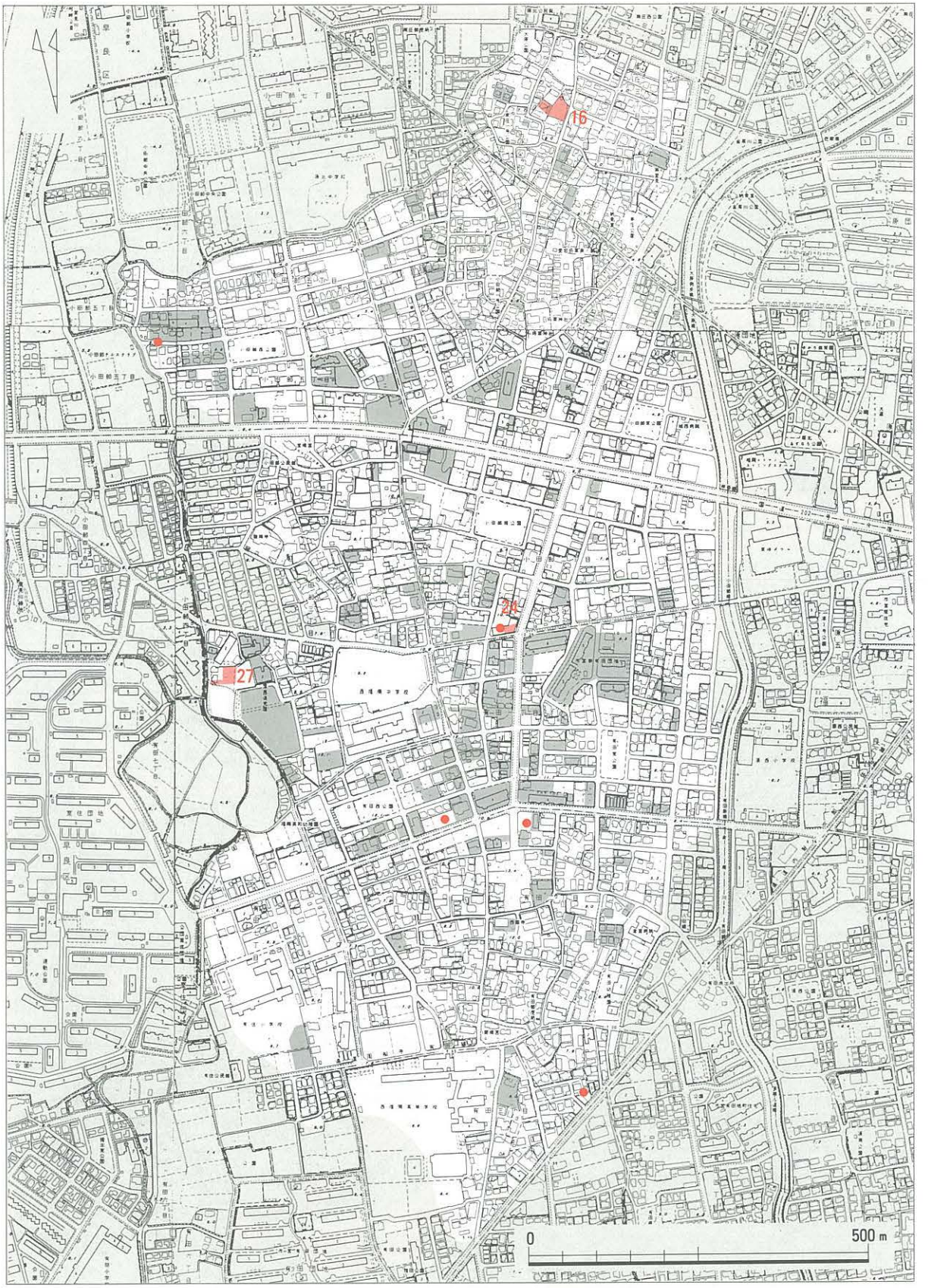
博多区比恵遺跡　平成７(1995)年度試掘・発掘調査地点一覧
●は試掘調査地点 ▭は発掘調査地点(番号は発掘調査一覧に一致)
▭は既発掘調査地点



博多区博多遺跡　平成７(1995)年度試掘・発掘調査地点一覧
●は試掘調査地点 ■は発掘調査地点(番号は発掘調査一覧に一致)
■は既発掘調査地点



博多区那珂遺跡　平成７(1995)年度試掘・発掘調査地点一覧
●は試掘調査地点 ■は発掘調査地点(番号は発掘調査一覧に一致)
■は既発掘調査地点



早良有田遺跡　平成７(1995)年度試掘・発掘調査地点一覧
●は試掘調査地点 ■は発掘調査地点(番号は発掘調査一覧に一致)
■は既発掘調査地点

II　発掘調査の概要

本市における埋蔵文化財の発掘調査は、西部地域（早良区、城南区、西区）を本課第一係、東部地域（中央区、博多区、東区、南区）を同二係が担当している。なお、年度の調査数の多少により係間で随時調査業務の補完を行っている。

また、本市では調査資料の保管、管理のため、個々の遺跡の発掘調査に固有の遺跡登録番号・調査番号をつけて登録し、数字・アルファベットで調査資料を検索するシステムを採用している。以下の概要記述で調査番号とするものはこの番号であり、西暦年の下２桁（上２桁）＋その年度の調査番号（下２桁）の４桁数字で表示する。さらに調査番号は調査開始のときに設定するため１遺跡の調査が複数年にまたがる場合、開始年度のみに番号が登録される。

１）　平成７(1995)年度の概要

平成７年度実施した発掘調査は、下表の61件と、前年度からの継続調査５件の計66件である。調査件数では博多区が圧倒的に多く27件、早良区と西区が12件、東区、南区、中央区が５件弱となる。調査原因でみると民間事業に伴う調査では分譲、共同住宅の建設に伴うのが19件と多く、専用住宅２件、自宅兼共同住宅３件、その他には自宅兼店舗、区画整理事業等がある。大型団地の造成に伴う調査は２件ではあるが、１年以上に及ぶ調査となり、苛酷な調査となっている。その中で香椎Ｂ遺跡１次調査では中世の居館が調査され、注目されよう。公共事業に伴う調査では道路の整備、改良に伴うものが９件、空港整備に伴うのが２件であるが、調査面積は広い。その他では住宅関連、公園整備が２件、となり、他に埋立場、水道整備、小学校建設に伴う調査等である。

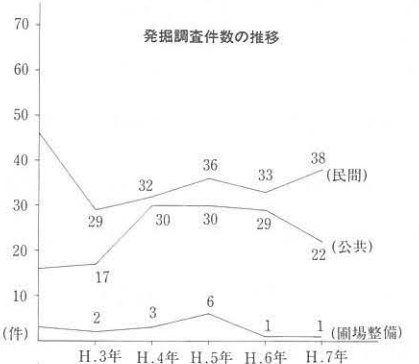
発掘調査は遺構が破壊される場合及び恒久的構築物（道路等）や盛り土が２ｍ以上に及ぶ場合等一定の基準に基づいて実施しているが、今後は九州地区文化財調査基準に準拠した形で進めていきたい。

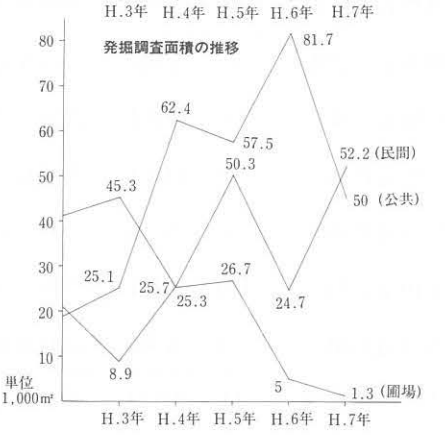
発掘調査件数の推移　（件）

	H.3年	H.4年	H.5年	H.6年	H.7年
民　間	29	32	36	33	38
圃場整備	2	3	6	1	1
公　共	17	30	30	29	22
計	48	65	72	63	61

発掘調査面積の推移　（㎡）

	H.3年	H.4年	H.5年	H.6年	H.7年
民　間	8,923	25,694	50,259	24,689	52,193
圃場整備	45,285	25,332	26,678	5,000	1,330
公　共	25,048	62,943	57,517	81,655	44,997
計	79,256	113,970	134,455	111,344	98,520





平成７（1995）年度埋蔵文化財発掘調査一覧

調査番号	遺跡名	次数	遺跡略号	調査原因	調査種類	原因者	調査地所在地
9501	井尻Ｂ遺跡群	6	ＩZB	商業ビル建設	民　受	白水敬子	南区井尻４丁目170,171-1
9502	三苫遺跡群	3	MTM	小学校建設	公　受	土地公社	東区三苫７丁目地内
9503	香椎Ｂ遺跡群	1	KSB	大規模団地造成	民　受	国際興業（株）	東区大字香椎字寺熊1519他
9504	周船寺遺跡群	8	SSJ	宅地分譲	民　受	東栄ホーム株式会社	西区大字千里字ミドリ441-2,3
9505	博多遺跡群	89	HKT	市街地再開発	民　受	下川端地区再開発組合	博多区下川端町179-1他
9506	雀居遺跡	9	SAS	空港西側整備	公　受	第四港湾建設局	博多区大字雀居正フリ川
9507	古田Ｂ遺跡群	2	FRB	公園整備	公　受	都整公園建設課	早良区重留5-265他
9508	南八幡遺跡群	6	MHM	自宅兼共同住宅	民受・補	原田豊秋	博多区元町１丁目19-4
9509	カルメル修道院遺跡	5	KMS	共同住宅建設	民　受	九州旅客鉄道株式会社	城南区神松寺３丁目1616-3
9510	橋本遺跡群	1	HMT	外環状道路建設	公　受	九州地方建設局	西区橋本地内
9511	立花寺Ｂ遺跡	2	RGB	都市高速道路	公　受	道路公社	博多区立花寺、下月隈、上月隈
9512	那珂遺跡群	51	NAK	水道整備	令　達	水道建設	博多区那珂６丁目20地内
9513	那珂遺跡群	52	NAK	道路拡幅	令　達	土木局街路課	博多区那珂６丁目地内
9514	野多目Ａ遺跡群	4	NMA	市営住宅建設	令　達	建築局住宅計画課	南区野多目１丁目地内
9515	下月隈Ｃ遺跡	2	SHC	調整地	公　受	空港周辺整備機構	博多区下月隈地内
9516	有田遺跡群	178	ART	分譲マンション建設	民　受	クリエート福岡	早良区南庄３丁目214
9517	蒲田部木原遺跡群	4	KHH	倉庫建設	民　受	駿和運輸株式会社	東区蒲田２丁目777-1
9518	大原Ｄ遺跡群	4	OBD	埋立場建設	令　達	環境局施設課	西区今津地内
9519	博多遺跡群	90	HKT	共同住宅建設	民　受	新栄住宅株式会社	博多区冷泉町216
9520	井尻Ｂ遺跡群	7	ＩZB	専用住宅建設	市単費	伊東ミエ子	南区井尻１丁目363-2・364-5
9521	席田青木遺跡群	3	MAK	共同住宅建設	民　受	盛立建設株式会社	博多区青木１丁目290番地
9522	香椎Ｅ遺跡群	1	KSE	宅地分譲	民　受	三興住宅企業株式会社	東区香椎３丁目885-1他7筆
9523	雑餉隈遺跡群	7	ZSK	共同住宅建設	民　受	山本綾子	博多区新和町２丁目14-1
9524	有田遺跡群	179	ART	店舗付共同住宅	民　受	佐田信義	早良区小田部２丁目102他
9525	比恵遺跡群	56	ＨＩＥ	共同住宅建設	民　受	松井スミ・田代喜代江	博多区駅南４丁目15-1
9526	野芥遺跡群	6	NOK	分譲共同住宅建設	民　受	東海住宅販売株式会社	早良区野芥２丁目917番地7号
9527	有田遺跡群	180	ART	専用住宅建設	国　補	守田恒彦	早良区小田部３丁目156-5他
9528	那珂遺跡群	53	NAK	道路整備	令　達	土木局街路課	博多区那珂６丁目地内
9529	東入部遺跡群	11	HGI	圃場整備	令達・国補	入部土地改良区	早良区大字東入部1268他

対象面積 (㎡)	調査面積 (㎡)	古墳	調査期間	担当者	分布地図番号	遺跡概要	事前審査番号
1,194	778		950403～950529	宮井・吉武	井尻25-A-3	弥生時代から古墳時代集落	6-2-353
3,630	2,260		950403～950728	長家・加藤	三苫27-A-3	〃	6-1-610
216,785	17,638		950403～960719	下村　智	浜男17-A-2	古代から中世居館址・寺院址	2-2-231
1,916	292		950424～950526	白井克也	千里132-A-1	弥生時代甕棺墓、集落	6-2-355
6,000	4,139		950425～951130	山崎・池崎・小林	天神49-0121	戦国から江戸時代の都市、護岸	6-1-611
310,000	4,450		950508～960228	松村道博	雀居23-A-4	弥生時代から古墳時代の集落	6-1-30
600	1,010		950510～950628	屋山　洋	入部85-C-4	古代から中世の墳墓・焼土坑	5-1-102
349	206		950516～950525	加藤・佐藤	麦野12-A-5	奈良時代集落	6-2-435
4,955	2,000		950515～950811	加藤良彦	長尾63-0257	弥生時代前期から後期の集落	6-2-262
1,050	577		950522～950614	杉山富雄	橋本91-0391	古代の河川	3-1-660
7,611	5,300		950522～960315	瀧本正志	金隈11-A-10	古代から中世の集落	4-1-225
38	42		950522～950527	佐藤一郎	塩原38-0085	中世の溝	6-1-638
384	156		950531～950627	〃	〃	弥生環濠、古代の官衙	5-1-647
10,898	9,839		950522～960228	吉武　学	老司40-0141	弥生時代～中世・近世の集落	6-1-616
18,000	10,000		950508～960319	宮井善朗	金隈11-A-11	古代の水田と中世の集落	5-1-748
966	747		950601～950811	白井克也	室見81-0309	弥生時代集落、古墳時代の墓地	6-2-478
7,602	2,915		950601～950919	加藤隆也	蒲田2-A-3	弥生時代中期から古墳時代前期集落	6-2-441
12,000	3,000	1	950605～951221	菅波正人	大原128-2593	縄文時代早期の住居址、古墳１基	6-1-613
476	476		950615～951031	佐藤一郎	天神49-0121	奈良から中世迄の集落	6-2-253
87	69		950707～950708	山口・山崎龍・池田	井尻25-A-3	古墳時代集落	7-2-100
2,042	1,170		950801～950914	長家・久住	上臼井22-A-2	弥生時代後期から古代集落	7-2-33
60	103		950810～950812	池田・山崎龍	浜男17-A-5	古墳～古代集落	7-2-11
82	54		950828～950901	大庭康時	雑餉隈13-A-2	奈良時代の集落	7-2-85
1,032	120		950828～950914	大塚紀宜	原82-0309	古墳時代後期住居、古代溝、包含層	6-2-476
800	524		950907～951027	大庭康時	東光寺37-0127	弥生中期の集落	6-2-458
719	231		950911～951011	白井克也	野芥83-0319	縄文土器から土師器を含む溝	7-2-185
759	293		950912～951009	加藤良彦	原82-0309	弥生時代から古墳時代集落	7-2-252
630	220		950918～951020	長家　伸	塩原38-0085	弥生時代二重環濠	5-1-647
2,606	1,330		951004～960214	荒牧宏行	入部85-0343	弥生時代から中世の集落	7-1-17

9530	那珂遺跡群	54	NAK	店舗兼住宅	市単費	八尋タネ子	博多区竹下５丁目8-2
9531	舞松原古墳	1	MMK	遺跡整備	国　補	福岡市	東区舞松原４丁目
9532	博多遺跡群	91	HKT	立体駐車場	民　受	福寿興産有限会社	博多区下川端134番
9533	西新町遺跡	10	NSJ	自宅兼共同住宅建設	民・補	山本儀七郎	早良区西新５丁目641-3他
9534	原遺跡群	18	HAR	共同住宅建設	民　受	中嶋進一	早良区原５丁目9-7
9535	飯氏遺跡群	6	ＩＩＪ	道路改良	公　受	九州地方建設局	西区大字飯氏地内
9536	飯氏引地遺跡群	1	ＩＪＨ	道路改良	公　受	九州地方建設局	〃
9537	福岡城址	31	FUE	史跡整備・範囲確認	市単費	教育委員会	中央区城内1-1
9538	五十川遺跡群	3	GJK	共同住宅建設	民　受	谷圭井子	南区五十川２丁目248、110-4,5
9539	井相田Ｃ遺跡群	4	ISC	埋文センター増築	令　達	教委埋文センター	博多区井相田２丁目1-62
9540	松木田遺跡群	2	MKD	道路建設	令　達	土木局道路建設課	早良区早良３丁目地内
9541	比恵遺跡群	57	ＨＩＥ	遊興施設建設	民　受	株式会社　新洋	博多区博多駅前６丁目11-4他
9542	浦江遺跡群	4	URE	大規模団地造成	民　受	西室見開発株式会社	西区大字金武・早良区大字西入部地内
9543	浦江谷遺跡群	1	UTN	〃	民　受	〃	〃
9544	博多遺跡群	92	HKT	共同住宅建設	市　単	新栄住宅株式会社	博多区冷泉町274他
9545	博多遺跡群	93	HKT	〃	民　受	東急不動産株式会社	博多区古門戸町83-7
9546	福岡城肥前堀	32	FUE	共同住宅建設	民　受	中江健三	中央区大名１丁目81他
9547	大橋Ｅ遺跡群	4	OOE	〃	民　受	末次正明・長谷川治子	南区大橋４丁目629-3他
9548	次郎丸高石遺跡	4	JRT	自宅兼共同住宅建設	民・補	田中正彦	早良区次郎丸１丁目61-4他
9549	谷上古墳群B-1号墳	1	TNK-B	遺跡確認	国　補	教育委員会	西区上ノ原イヤソノ778-1他
9550	雑餉隈遺跡群	8	ZSK	共同住宅建設	令　達	建築局住宅建設課	博多区新和町１丁目7
9551	博多遺跡群	94	HKT	納骨堂建設	民　受	順心寺	博多区御供所町19-2他
9552	徳永Ａ遺跡	4	TKA	道路改良	公　受	九州地方建設局	西区大字徳永字松尾678-2他
9553	那珂遺跡群	55	NAK	共同住宅建設	民　受	川辺ミユキ・野中五郎	博多区竹下５丁目379他
9554	博多遺跡群	95	HKT	自宅兼病院建設	民・補	森下産婦人科	博多区店屋町8-10
9555	広石南古墳群Ａ群	1	HIM-A	道路建設	令　達	土木局建設第一課	西区今宿青木1041-1
9556	那珂遺跡群	56	NAK	工場増設	公　受	山口油屋福太郎	南区五十川１丁目13-1
9557	那珂君休遺跡群	5	NKR	共同住宅建設	民　受	宗富美子	博多区那珂４丁目310
9558	天神森遺跡群	4	STM	店舗建設	民　受	光安正一	博多区下月隈484-1・2
9559	博多遺跡群	96	HKT	再開発ビル	民　受	下川端東地区再開発組合	博多区川端2番地
9560	南八幡遺跡群	7	MHM	共同住宅建設	民　受	藤義治	博多区元町１丁目20-1
9561	福岡城跡	33	FUE	史跡整備	令　達	都市整備局	中央区城内18-2

272	90		951009～951012	長家　伸	塩原38-0085	弥生時代中期井戸	7-2-253
2,400	109	1	951016～951220	久住猛雄	松崎18-B-1	古墳時代前期古墳	
99	67		951101～951108	加藤隆也	天神49-0121	中世末集落	7-2-189
550	462		951028～960203	屋山　洋	西新72-0240	弥生時代甕棺墓、古墳時代集落	7-2-102
222	68		951031～951107	大塚紀宜	原82-0861	中世の集落	7-2-125
3,639	2,516		951101～960328	杉山富雄	周船寺120-0685	古墳時代集落	7-1-23
222	376		950201～960328	〃	周船寺120-0687	〃	〃
450	450		951101～960315	田中寿夫	舞鶴60-0193	奈良時代官衙、福岡城	
1,100	905		951109～960113	佐藤一郎	板付24-A-2	弥生時代から中世集落	7-2-272
3,481	2,249		951106～960301	大庭康時	麦野12-A-1	古代集落	7-1-638
480	318		951109～951213	中村・白井	一ツ家早良16-0789	弥生時代から古墳時代集落	8-1-14
2,660	2,050		951120～960223	長家　伸	東光寺37-0127	弥生時代から中世集落	7-2-285
	3,500	1	951120～調査中	加藤・大塚	金武94-0444	弥生時代から平安時代の集落・古墳	6-2-112
	14,400	2	951120～　〃	〃　〃	〃	弥生時代から中世の墳墓群	6-2-112
891	185		951117～951128	山崎・池田	天神49-0121	弥生～中世集落	6-2-328
670	465		951201～960205	加藤隆也	千代博多48-0121	中世集落	7-2-127
131	154		951212～951227	瀧本正志	舞鶴60-0193	福岡城中掘石垣	7-2-226
615	530		951218～951228	中村・白井	三宅39-2382	縄文時代河川、古代溝	7-2-281
398	155		960108～960120	菅波正人	野芥83-2447	弥生時代から古墳時代集落	7-2-359
1,200	80	1	960109～960229	菅波・白井	青木113-2447	後期の前方後円墳	
600	395		960202～960327	宮井善朗	雑餉隈13-A-2	奈良時代の集落	5-1-50
568	568		960206～960703	佐藤一郎	天神49-0121	中世集落	6-2-432
300	300		960205～960328	屋山　洋	周船寺120-2584	古墳時代集落	7-1-23
520	530		960213～960328	加藤隆也	塩原38-0085	弥生時代から古代の集落	7-2-228
586	428		960304～960625	吉武・加藤	天神49-0121	中世集落	7-2-303
1,300	1,300	5	960214～960912	中村・荒牧・屋山	拾六町104-0527	後期群集墳	8-1-13
240	297		960301～960318	大庭康時	塩原38-0085	古代から中世の集落	6-2-402
1,077	680		960301～960327	松村道博	板付24-0086	古墳時代水田	7-2-202
200	203		960215～960313	長家　伸	下月隈10-0029	弥生時代墓地	7-2-388
2,500	1,080		960213～960512	小林義彦	天神49-0121	中近世集落	7-1-120
227	181		960304～960318	宮井善朗	麦野12-0051	奈良時代集落	7-2-421
1,000	500		960301～960329	力武卓治・田中壽夫	舞鶴60-0193	福岡城土塁	

9501　井尻B遺跡第6次調査（IZB-6）

所在地　博多区井尻4丁目170－1他
調査原因　共同住宅建設
調査期間　95.4.3～95.5.29
調査面積　778㎡
担当者　吉武学、宮井善朗
処置　調査後破壊

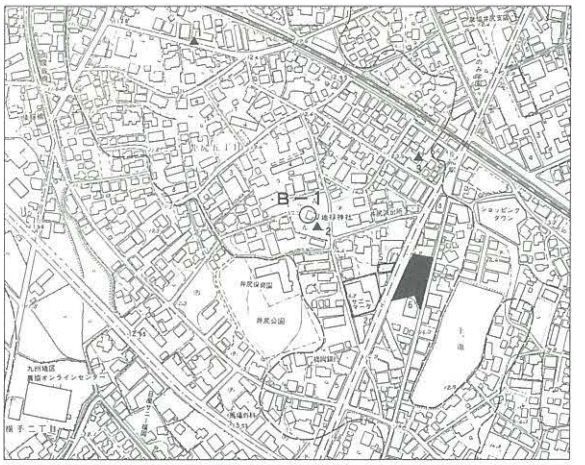
位置・環境　井尻遺跡は春日丘陵の北側に伸びる台地上に立地する。井尻大塚と見られる円墳が検出された2次調査、5次調査の東側に位置する。遺構面は鳥栖ロームである。

検出遺構　今回調査では井尻大塚関連の遺構が期待されたが、周溝は6次調査区には伸びていないことを確認した。検出した遺構は、弥生時代後期から古墳時代初頭にかけての竪穴式住居跡17基、土壙、ピット等、掘立柱建物（弥生時代末～古墳時代？）2棟、奈良時代の溝1条などである。

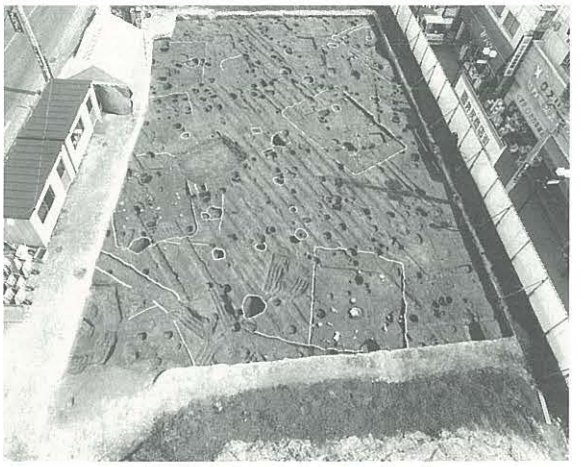
出土遺物　出土遺物は総量でコンテナ42箱である。住居跡出土の遺物は、弥生土器、古式土師器を主とする。また奈良時代遺構からは須恵器、土師器が出土している。注目される遺物として、青銅器鋳造のための石製鋳型が出土している。一点は片面に銅鏡、片面に銅鏃を彫り込んだ鋳型である。鏡鋳型が破損した後、鏃鋳型に転用したものと考えられる。鏃は2個の連鋳式である。鏡は内区と、紐座に連弧文をもつ。鏡鋳型は住居跡内で検出した土壙から出土し、後期中ごろ～後半に属する土器と共伴している。

ま と め　井尻遺跡群は江戸時代から銅矛鋳型出土の記録があり、今回の出土鋳型とあわせ、青銅器製作地の可能性は高まったと言えよう。また6次にわたる調査で、後期になって集落規模が拡大することも知られている。須玖遺跡群との距離的な近縁性からみても、奴国の直轄工房群の可能性も考えられる。

なお報告書は1996年度刊行予定である。



1．調査地点の位置（1:8,000）


2．調査全景（南から）

3．鏡鋳型出土状況

9502　三苫遺跡群第３次調査（MTM-3）

所在地　東区三苫７丁目地内
調査原因　小学校建設
調査期間　95.4.3～95.7.28
調査面積　2,260㎡
担当者　長家伸
処置　調査後破壊

位置・環境　本調査地点は玄界灘に面した洪積丘陵の東側最先端部に立地している。隣接する２次調査地点においては古墳時代後期の竪穴住居跡を中心とした生活遺構及び同時期の滑石工房跡を検出している。

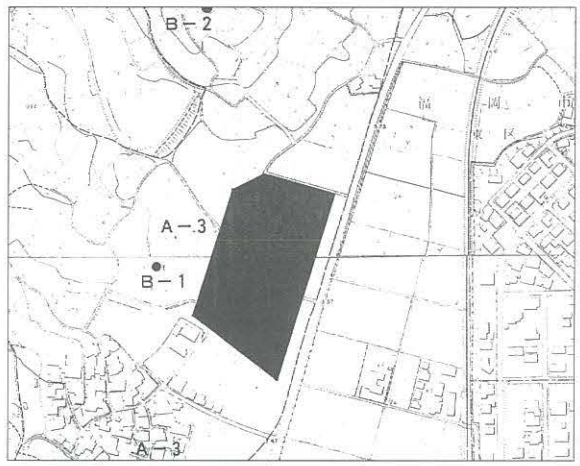
検出遺構　先土器時代に属する遺物には黒曜石製ナイフ形石器・水晶製三稜尖頭器、黒曜石製細石刃が出土している。なかでも水晶製尖頭器は稀少な遺物であり注目される。縄文時代に属するものとしては、中期以降の土器片・石鏃等が挙げられる。遺構は見られないが周辺の丘陵上にこの時代の遺構が存在する可能性が高い。

弥生時代としては円形住居跡・土坑・ピットがある。遺物としては土器片だけでなく、青銅製鉇が出土している。

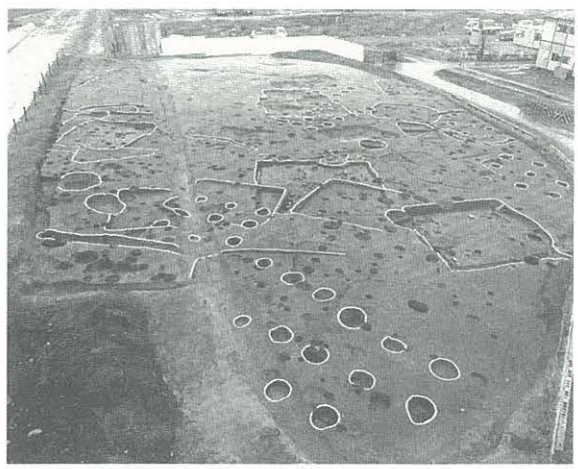
古墳時代は本調査区の主体を占める時期である。竪穴住居跡24棟、掘立柱建物７棟の他、土坑・溝・ピット等多くの遺構を検出している。遺構は６世紀代が中心で、竪穴住居の多くには竈が付設されている。また掘立柱建物は柱掘り方が径約80cmの円形で２間×２間の総柱が主体を占める。建物は規則的に配置されており、公的な性格を持った施設の可能性も考えられる。なお滑石工房は本調査区では認められなっかたが、遺構埋土からは滑石製品、滑石チップが多く出土し、滑石原材も出土している。

古代以降は遺物・遺構共に散漫となるが、輸入陶磁器・土師器等が出土しており、引き続き生活の場として利用されていたことを窺える。

まとめ　生活遺構だけでなく、滑石製品の生産に関連する遺構・遺物の検出は注目される。また古墳時代の集落は更に広がりを見せており周辺の調査が待たれる。1996年報告書刊行済。



１．調査地点の位置（1:8,000）


２．全景（南から）

３．南半全景（西から）

9503　香椎Ｂ遺跡群第Ｉ次調査（KSB-I）

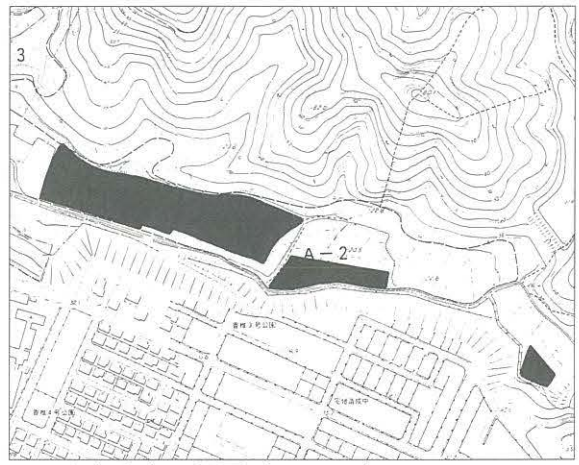
所　在　地　東区大字香椎字寺熊1519番地他　　**調査面積**　17,638㎡
調査原因　宅地造成　　**担　当　者**　下村智　田上勇一郎
調査期間　95.4.3～96.7.19　　**処　　置**　調査後破壊

位置・環境　香椎Ｂ遺跡は、東区にある勅祭社の「香椎宮」東側一帯に広がる遺跡である。「香椎宮」の北東側には武内宿祢の伝承を伴う「不老水」（石組井戸）があり、近くには仲哀天皇本宮跡や栄西が建久三年に建てた建久報恩孝光禅寺の伝承地がある。調査地点は城の越山と丸山（現香椎台団地）に挟まれた幅50～100m、長さ800mの細長い谷部で、標高は14～27mを測る。遺構は表土下40㎝～１mで検出され、検出面は谷地形の堆積土のため、シルト質土、ローム質土、砂礫質土と場所によって異なっている。遺跡中央部の約5,000㎡については黄褐色の頁岩風化土（山土）を厚さ40～80㎝程度盛土して土地造成を行なった後、遺構が掘込まれている。

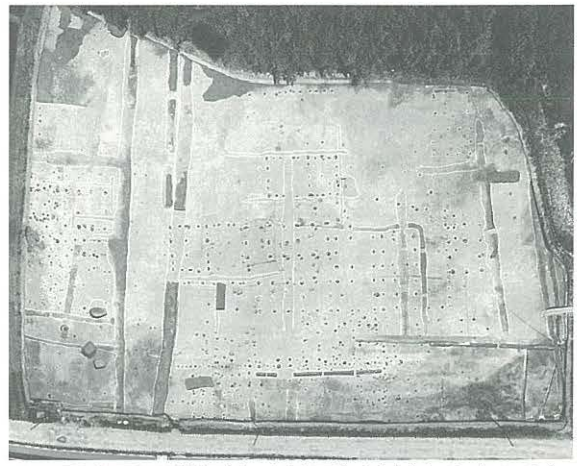
検出遺構　・平安時代末～中世：掘立柱建物71棟以上、土坑103基、井戸16基、溝240条、柵18条　墓８基、門２ヵ所、性格不明遺構56基、焼壁土坑４基、道路状遺構９条、水田跡８枚、ピット3356穴

調査面積が広く、中央部は遺構面が２、３面存在したため遺構数がかなり多くなっている。掘立柱建物は調査区東側で２間×２間の総柱建物２棟が平安時代末に出現し、鎌倉時代初期には調査区中央部で梁行２間、桁行５間（桁行長10m）の大型掘立柱建物が造営される。これには４面の廂が付き、中心的な建物と考えられる。周囲にはこの建物よりやや規模は小さくなるが廂付の建物や廂を持たない建物群が軸線を揃えて規則正しく配列されている。室町時代には調査区西側で、大型の区画溝を伴った掘立柱建物群が検出されている。梁行２間、桁行５間で桁行長10mのものが３棟、、それに厩、持仏堂、倉庫などの建物群が規則正しく配列されている。

井戸は平安時代末の瓦を多量に投入した素掘



Ｉ．調査地点の位置（I:8,000）


２．調査区西端部(生水地区)全景(南上空から)

３．生水地区SB088建物出土状況（西から）

りの井戸、鎌倉時代に属するものとしては大木の刳り貫き井側を使用した井戸、曲物を井筒にした井戸などがある。室町時代の井戸は、桶組、石組、瓦積＋石組、石組＋木組方形、木組方形等のタイプがあり変化に富んでいる。溝は幅５m、深さ1.4m前後のＶ字溝やそれよりやや規模が小さくなるが断面Ｖ字、Ｕ字、逆台形を呈する大溝群などがある。これらは半町あるいは一町ごとに掘立柱建物群を区画する溝である。規模の小さな溝は大区画内をさらに小区画化する溝、排水溝、建物周囲に巡らされた雨落ち溝などである。

また、大溝で区画された内外には柵列が巡らされ、区画内には数基単位の墓地が形成されている。区画の入り口には門が設置され、区画内の空間地には石組あるいは素掘りの池と考えられる遺構が２ヵ所出土している。平安時代末の倉庫と考えられる掘立柱建物には道路状遺構が取り付き、調査区中央部は地元で寺跡の伝承があるところであり、上層から礎石に使用されたと考えられる大石、石列、瓦列などが検出され、多量の瓦が出土している。木簡に「寺前」と書かれていたり、禅僧の墓石が出土していることなどから寺の存在は間違い無いと考えられる。

4．調査区中央部（寺隈地区）全景（東上空から）

出土遺物　遺物の総量は木製品も含めてコンテナ1207箱である。各遺構群から多量に出土している。

最も古いものは縄文時代後期の粗製深鉢、打製石鏃、石匙、石斧、凹石、石核などである。古墳時代のものはごく少量で須恵器の甕が単独で出土している。平安時代末に属するものは土師器坏・皿、瓦器椀・皿、白磁碗・皿、木製品の箸、下駄、杓文子、木札、題箋、曲物などがあり、大宰府系の軒丸瓦、軒平瓦、丸瓦、平瓦などがある。中世では、土師器坏・皿、瓦器椀・皿・火舎などがあり、陶磁器は白磁、青磁、青白磁、磁灶窯の緑釉水注、磁州窯系の鉄絵大鉢などがある。その他、石製品、木製品、鉄製品、青銅製品、鬼瓦を含む各種の瓦類が出土。

5．寺隈地区寺院址状況（南から）

ま と め　香椎Ｂ遺跡は、区画溝を持ち、規則正しく配列された掘立柱建物群と寺院址とからなっている。今後、太宰府や香椎宮との関係、武士の居館との関係など検討が必要であろう。1998年度に報告書刊行予定。

6．調査区東端部（小作地区）谷水田出土状況（北から）

9504　周船寺遺跡群第８次調査（SSJ-8）

所在地　西区大字千里字ミドリ441-2、3
調査原因　宅地分譲
調査期間　95．4．24～95．5．26
調査面積　292㎡
担当者　白井克也
処置　調査後破壊

位置・環境　周船寺遺跡群の西より、標高約9.7m地点に位置する。周船寺川により形成された扇状地の先端近くに当る。水田耕作のため現状は平坦だが、以前は北高南低の緩傾斜面をなしていたという。

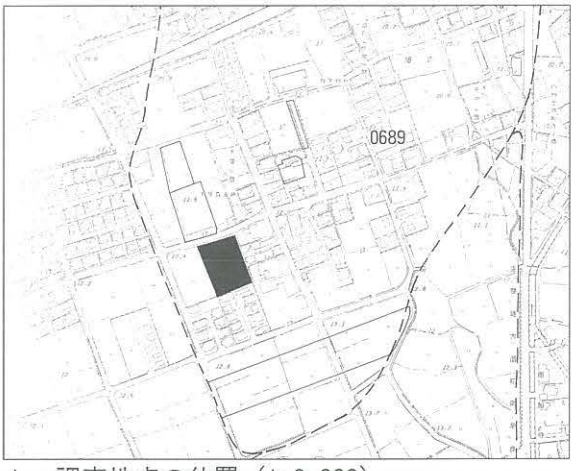
約20cmの水田耕作土下で遺構を検出した。但し、一部では耕作土下に薄い黄色粘質土層を挟む。検出面は弱い粘質の黄褐色土またはその下のシルト層であるが西側では砂礫層が検出面に露出している。検出面は標高約9.5mである。

検出遺構　弥生時代前期　甕棺墓４基
弥生時代中期　掘立柱建物１棟
溝状遺構４条
土壙11基
柱穴約100基
遺構は南に濃く、北に薄い。

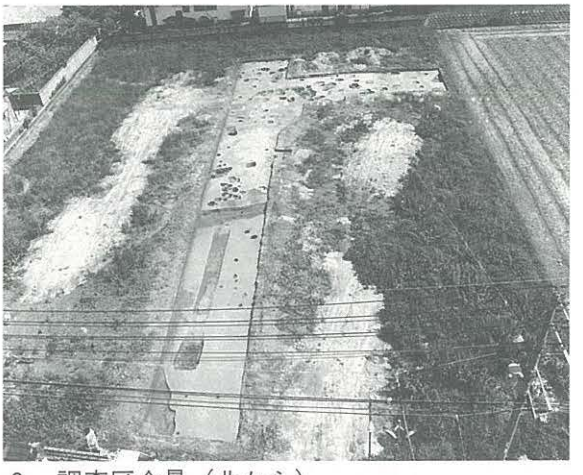
出土遺物　遺構より、コンテナ22箱の遺物が出土した。遺物は弥生式土器がほとんどであるが黒曜石チップや磨製石剣、磨製石斧も少量みられた。磨製石斧峰は甕棺墓ST-02棺内より出土した。折損した状況で残存長は６cmである。灰白色の石材を用いており、刃こぼれや再加工はない。

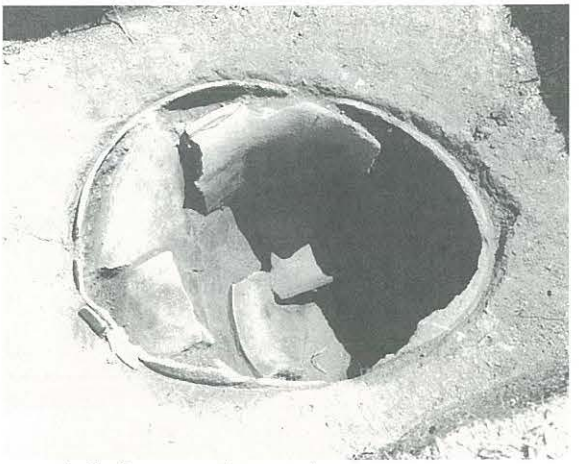
ま と め　今回の調査地点は、弥生時代前期には墳墓、同中期には集落であったことがわかった。中期の集落は中期中頃の短い時期に集中しており、そのせいもあってか、遺構の疎密がはっきりしている。

調査報告書は1996年度に刊行予定である。



１．調査地点の位置（1:8,000）


２．調査区全景（北から）


３．甕棺墓ST-02（北から）

9505　博多遺跡群第89次調査（HKT-89）

所在地　博多区川端町６番地
調査原因　市街地再開発ビル
調査期間　95.4.25～95.11.30
調査面積　4,139㎡
担当者　小林義彦
処置　調査後破壊

位置・環境　調査地は、ふたつの古砂丘からなる博多遺跡群の北西部、博多湾に面したいわゆる「息の浜」の南西縁にあたり、その南域には西から湾入する浅い潟が拡がっている。

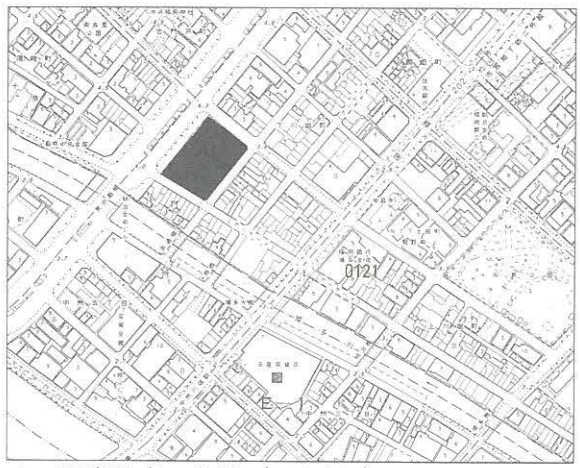
検出遺構　室町時代から江戸時代までの遺構があり、調査区の東側では上下２面に亘って検出された。

室町時代中期～安土・桃山時代
　土壙　柱穴　護岸石積跡
江戸時代中～後期
　建物跡　井戸跡　土壙　石組土壙
　溝遺構　柱穴

江戸時代の建物跡には、角礫を基壇状に数段積み重ねて礎石列としたものと円礫を並べて礎石としたものがある。また、石組土壙には方～長方形プランのものと径１m程の円形プランのものがある。

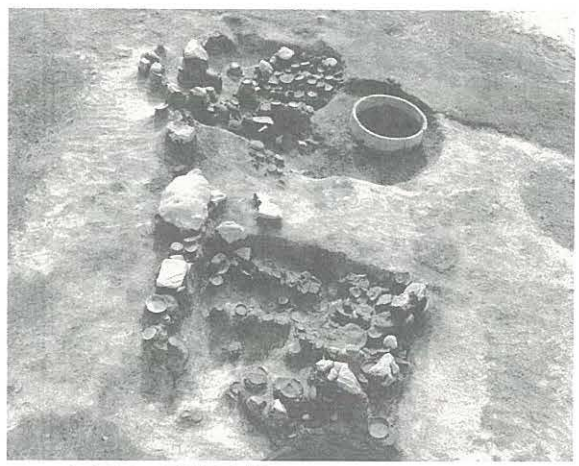
出土遺物　井戸跡や土壙等から土師器、李氏朝鮮系や備前窯・肥前窯系の陶磁器がコンテナ477箱が出土した他に漆製品や木札、土製品、石製品、鉄器、青銅器等がコンテナ48箱出土している。また、護岸の埋立て土層中からは海豚の頭骨10数体と鮫の下顎骨等が出土しており、往時の食文化の一端を窺える。

ま と め　第89次調査では「息の浜」の南西縁の海岸線が西から東へ弧を描くように検出され、その砂丘縁には円礫を積み重ねた護岸施設が構築されていた。また護岸の西北端には浜底に角礫を敷き積めており、簡便な船着場的施設の存在を想起させる。この護岸から南は江戸時代の初めに比較的短時日の内に埋め立てられており、拡大する商都「博多」の形成過程を知る上で極て貴重な資料である。1997年度に報告書刊行予定。



１．調査地点の位置（1:8,000）

２．護岸跡全景（西より）


３．土師皿の廃棄土壙

9506　雀居遺跡第９次調査（SAS-9）

所　在　地　福岡市博多区雀居（福岡空港内）
調査原因　福岡空港西側整備事業に伴う調査
調査期間　95.5.8～96.2.28
調査面積　4,450㎡
担　当　者　松村道博
処　　置　調査後破壊

位置・環境　空港西側の旧米軍キャンプ跡地にあり昨年度調査（雀居7次調査）の第２面及びその北側（２区）の調査である。７次調査と同様に沖積微高地に占地し、標高５～5.5mほどである。

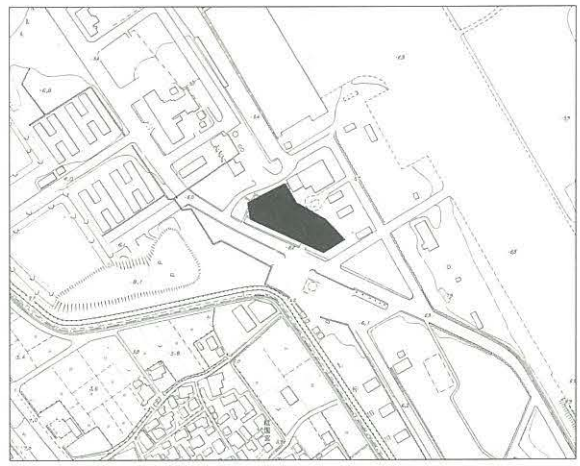
検出遺構　１区２面の調査は地表面から1.5m前後下がった面の、沖積微高地（標高4.2m前後）から遺構が検出される。１面で検出できなかった縄文時代晩期から弥生時代前期にかけて以下のように各種の遺構が検出された。土壙17基。縄文時代晩期から弥生時代前期。土壙墓２基。弥生時代前期。貯蔵穴３基。弥生時代前期。竪穴住居跡１基。古墳時代前期。土壙墓は前回の７次調査で出土した地点のすぐ東側で確認できた。１面の調査の掘り残しで前回調査の土壙墓群と同一の群を形成し計８基の土壙墓と８基の甕棺墓の弥生時代前期の小規模な墓地群を形成している。

２区（北側）も２面の調査を実施した。立地などの状況は１区と同じである。１面では古墳時代前期の住居跡を中心に井戸、土壙、掘立柱建物等の各種の遺構が検出された。

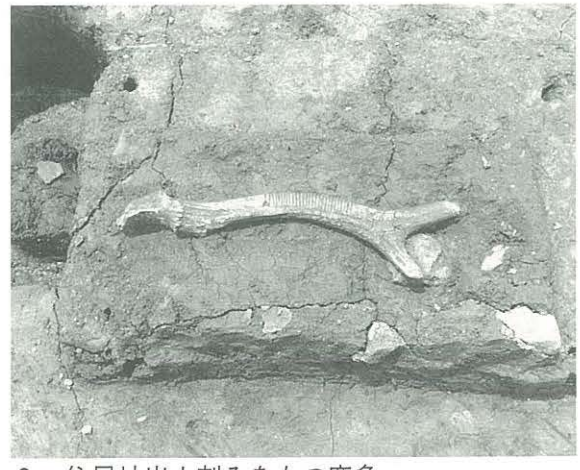
２面では弥生時代前期の貯蔵穴を中心とした遺構群で竪穴住居跡、貯蔵穴、土壙、掘立柱建物等がある。この建物は１間×２間、柱間距離は長く梁行2.65m、桁行5.26mを測る。柱穴の掘り方は隅丸長方形でその中央に柱が遺存していた。

出土遺物　縄文時代晩期から古墳時代前期にかけての土器、石製品がコンテナ650箱出土している。

ま　と　め　今回の調査で縄文時代晩期から古墳時代前期に至る集落をほぼ完掘できた。このような有り方は南へ200mの位置にある４、５次調査地点とまったく同様な状況である。５次調査では環濠を巡らすがこの地点では微高地の縁に土器を投棄しているだけで濠は設けていないなど、当時の集落形態を研究する上で貴重な資料を得ることができた。


１．調査地点の位置（1:8,000）

２．調査区全景（東から）


３．住居址出土刻みをもつ鹿角

9507　古田Ｂ遺跡群第２次調査（FRB-2）

所　在　地　早良区重留５丁目265他
調査原因　公園整備
調査期間　95.5.10～95.6.28
調査面積　1010㎡
担　当　者　屋山洋
処　　置　調査後破壊

位置・環境　古田Ｂ遺跡群は油山山塊から西北の早良平野に向けて延びる尾根から一段下がった台地上に位置する。本調査区の標高は50.750m～52.750mを測る。南隣の１次調査で古墳１基・古代～中世の掘立柱建物・中世～近世の火葬墓や焼土壙が出土している。

検出遺構　中世～近世：火葬墓　３基
焼土壙　１基
溝　３条
土壙　17基

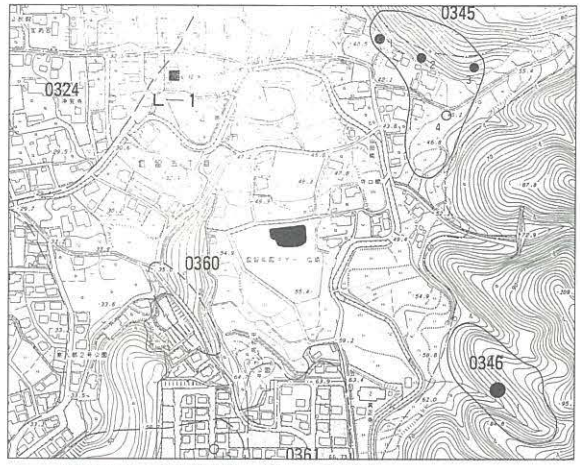
削平が激しく、殆どの遺構の遺存状態は良好ではない。事前の試掘調査により、調査区の西端に谷が埋没しているのが確認されたが、火葬墓と焼土壙は谷の落ち際近くで検出した。１次調査でも同様で、谷に沿って墓道があった可能性が考えられる。火葬墓は小判形を呈し、底面に平らな石を３～５個敷いており、その直上に細かな骨混じりの炭化物層が堆積していた。

出土遺物　遺物の出土量は少なく、総量でコンテナ１箱に満たない。土壙等から須恵器大甕片や土師椀・土師坏・土師鉢・白磁・鉄滓が出土している。

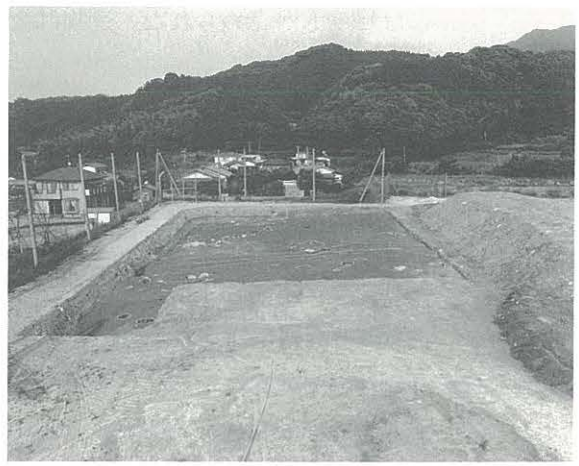
いずれも小片である。その他では火葬墓から土師坏が１点出土した。人骨は焼けて細片となっており、３基あわせてコンテナに２箱出土している。

ま　と　め　本調査区は早良平野を望む北西に傾斜する台地上に位置する縄文時代から中世の集落の一部である。削平が著しいが、近辺の人の話によると以前は当調査区内に古墳があったらしい。中世以降に谷に沿って火葬墓がつくられるようになるが、丘陵下の妙福寺と関係があるものと思われる。

報告書は1997年刊行予定である。



１．調査地点の位置（1:8,000）


２．全景

３．火葬墓

9508　南八幡遺跡群第６次調査（MHM-6）

所　在　地　博多区元町１丁目19-4
調査原因　自宅兼共同住宅建設
調査期間　95.5.16～95.5.25
調査面積　206㎡
担　当　者　加藤隆也
処　　置　調査後破壊

位置・環境　南八幡遺跡群は那珂川と御笠川に挟まれた台地上に位置する。本調査地は遺跡群の中央よりやや東側にあたる。遺構は表土下約40～50cmの鳥栖ローム上で検出され、標高は19.8～20mを測る。

検出遺構
・縄文時代　落し穴状遺構　３基
・奈良時代　竪穴住居　３基
　　土坑　１基
　　ピット　多数

落し穴状遺構は調査区の北側に位置し、平面は長方形を呈し、長軸は北西方向に向く。深さは80～120cmをはかる。３基のうち１基の底面にはピットが認められた。遺物は全く見られなかった。

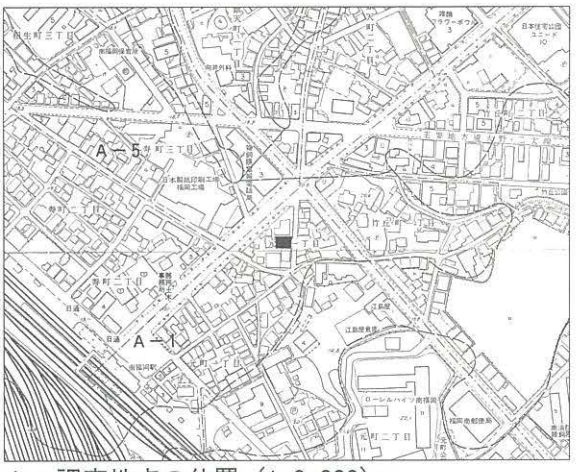
竪穴住居は調査区西側と北側において見られた。西側のものは２基が切り合っており小型の住居廃絶後、大型の住居がつくられている。この住居のカマドは東側につくられており、主柱穴は４本である。土坑は南側に位置し、直径３mを測り、浅い円形を呈する。

出土遺物　遺物の総量はコンテナ３箱である。竪穴住居から出土したものが最も多く、土師器甕・甑・皿、須恵器坏・坏蓋・甕・壷などがある。

ま　と　め　落し穴状遺構は、遺物が出土していないことと、調査面積が限られるため相互の関係はつかめなかった。

竪穴住居は、近接する麦野遺跡群、雑餉隈遺跡群において調査されている複数の奈良時代集落のひとつである。

なお、報告書は1997年に刊行予定である。



１．調査地点の位置（1:8,000）

２．調査区全景（東から）

３．住居址SC-01（東から）

9509　カルメル修道院遺跡第５次調査（KMS-5）

所在地　城南区神松寺3丁目1616-3他
調査原因　共同住宅建設
調査期間　95.5.15～95.8.11
調査面積　2,000㎡
担当者　加藤良彦
処置　調査後破壊

位置・環境　本調査地点は西福岡平野の東側、油山から北に広がる花崗岩バイラン土の低丘陵上に位置する。対象地は丘陵の東端部、標高27mの主丘陵上と北東から開析した谷に区分される標高20mの支丘上にわたる。金海式甕棺に切られ、３個の錫釧が出土した木棺墓や前期末～後期初頭の甕棺墓群が検出された第１次～４次調査区は、本調査区の西側20～120mの主丘陵中央～南側斜面に位置している。

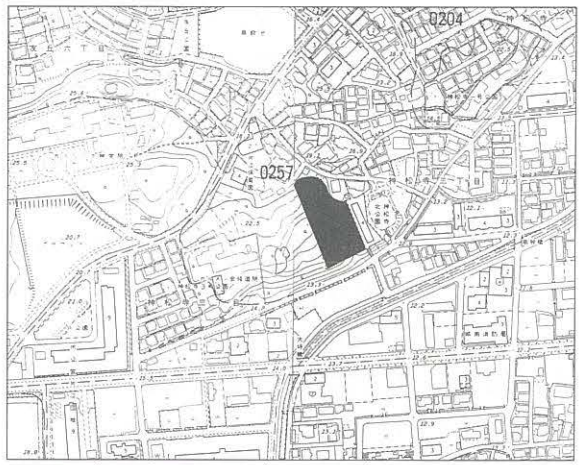
検出遺構　検出した遺構は、小支丘上で稜線に沿った弥生中期末～後期前半の土壙墓75基、箱式石棺墓４基、主丘陵上で一辺17m以上の方形に区画する弥生中期後半以降の溝を検出、他に土壙26基、古墳時代以降の焼土壙７基、谷中央部で弥生後期前半の４×1.8mの方形土壙を検出している。

出土遺物　遺物は土壙と溝、谷部包含層から弥生中期末～後期前半の土器、21基の土壙墓と１基の箱式石棺墓からそれぞれ凝灰岩製管玉30点、ガラス小玉624点・65点を検出している。他に包含層より細石核、石鏃、古墳～中世の土師器を検出総量でコンテナ３箱分である。

ま　と　め　小支丘上の土壙墓・石棺墓群は12～34基の４群に分かれ、79基中25基から水銀朱・玉類が検出され、ほぼ３基に１基の高い割合で副葬している。また玉と水銀朱を同時に副葬するものはなく、同期では副葬品の分散所有から首長の単独所有が進行する時にあって、特異な集団であった事を示している。また中央部には90×40cm、深さ１mの三段の階段状の掘り方をもつ柱穴が１基あり、木柱の可能性が考えられる。

主丘陵上では３次の調査で前期後半～後期初頭の墓群が確認されており、今回の調査では墓域の北、東端を区画する溝が確認された。

調査報告書は1997年に刊行予定である。



１．調査地点の位置（1:8,000）

２．調査区全景（南から）

３．44号土壙墓（東から）

9510　橋本遺跡群第Ⅰ次調査（HMT-Ⅰ）

所在地　西区橋本１丁目地内
調査原因　道路建設
調査期間　95.5.22～95.6.14
調査面積　577㎡
担当者　杉山富雄
処置　調査後破壊

立地・環境　調査地は、早良平野を平行して流れる室見川と十郎川との間の、河成の沖積低地であり、周囲を、室見川分流の旧流路と判断される低地に取り囲まれた状況が、空中写真の判読により観察されている。分流と考えられる部分は、戦時中まで、低湿地のままで、耕作がおこなわれていなかったことが知られている。標高は６ｍの位置である。

検出遺構　発掘調査は、道路用地に沿って、南北方向に長いトレンチ上の調査区を設定して進めた。調査区南辺部は砂礫層となっており、これが一帯の基盤層である。これを刻み込む様にして、砂層～シルトより成る堆積の単位、さらに北へ寄って砂、砂～砂礫から成る堆積の単位が不整合に順次堆積したことが分かる。

出土遺物　調査した河川堆積のうち、シルト部には有機物を多く含み、その部分から、土師器高台椀、杭が出土した。他にこの部位からの出土遺物はない。また、調査時の基盤を構成する砂礫層中には弥生時代以降、古代までの土器破片が、磨耗した状態で包含されていた。

ま と め　以上のような状況から、調査地においては室見川分流が流路を頻繁に変更しながら下刻と埋積を繰り返していた姿を復原することができよう。そのなかで直接この地点における人間活動を示す資料は、古代末に限られている。その痕跡もわずかなものではあるが、ごく近接して遺構等の遺存も期待できよう。

1998年報告書刊行予定。

１．調査地点の位置（082-0391　1:8,000）

２．調査区全景（北から）

３．土層（北東から）

6511　立花寺B遺跡第2次調査（RGB-2）

所在地　博多区上・下月隈・立花寺
調査原因　都市高速道路建設
調査期間　95.5.22～96.3.15
調査面積　5,300㎡
担当者　瀧本正志
処置　調査後消滅

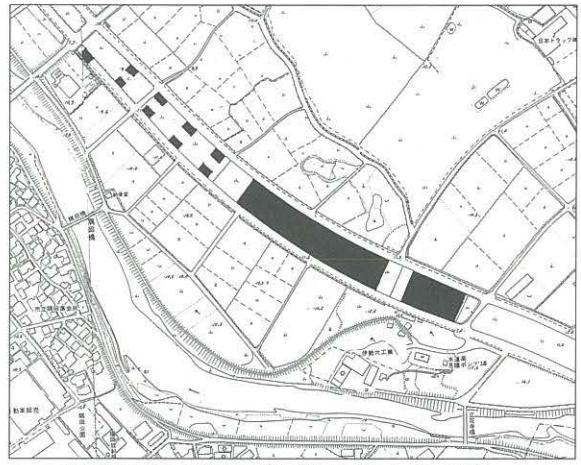
位置・環境　調査地は、御笠川の沖積作用によって形成された福岡平野の東南部、御笠川中流の東岸に位置し、標高9～10mの微高地上に立地する。

検出遺構　遺構は、古代～中世の掘立柱建物2棟、土壙173基、溝83条、井戸22基、土壙墓5基、水田、杭列、柱穴多数である。

出土遺物　出土遺物は、弥生時代中期～近世までの広範囲にわたるが、大半が9世紀後半～14世紀に比定される中国産陶磁器、国産の緑釉陶器、須恵器、瓦質陶器、土師器、石製品、木・竹製品、瓦、羽口、銅銭である。総量はコンテナ212箱。中国産陶磁器は、9世紀後半～10世紀代の越州窯系産の青磁・褐釉陶器、12世紀後半～14世紀代の龍泉窯、同安窯産の青磁が多く出土した。国産の緑釉陶器は京都産と推定される。木・竹製品は、井戸の枠に使用された曲物や桶、その他に木づち、笊(ざる)、笠、下駄等である。瓦は奈良～平安時代の丸・平瓦である。

ま と め　今回の調査では、平安時代後期の官衙施設と中世(12世紀後半～14世紀)の集落を検出した。平安時代の遺構は、一般的集落とは異る官衙的施設であると判断した。これまで福岡市内近郊をも含めた地域において越州窯産の陶磁器が100点を超えて出土した遺跡は、鴻臚館を代表として数ケ所の官衙的性格の遺跡に限定される。さらに、多くの中国産の緑釉陶器や京都産の緑釉陶器の出土は、本調査地が他の遺跡例と同じ特異性を有することを示すものである。中世の集落は、遺構などから遺跡の南半部にその中心が想定される。出土遺物が日常雑器、特に炊事関係の遺物点数が顕著であり、集中する井戸の状況や建物跡などから屋敷の中で炊事を用務とする施設であることも想定される。

発掘調査報告書は、1997年に刊行予定である。



1．調査地点の位置（金隈11他 1:8,000）

2．B区全景（南から）

3．馬埋葬土壙（北から）

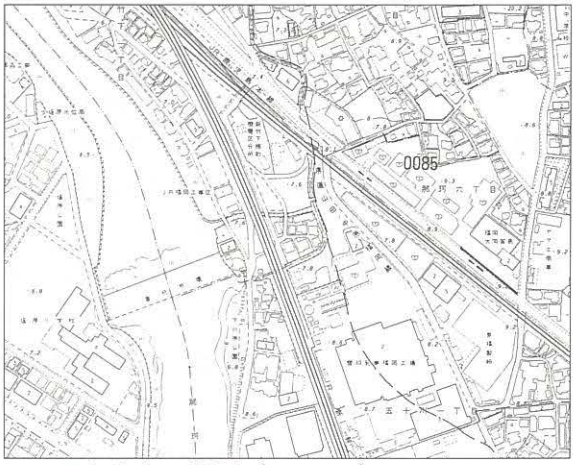
9512　那珂遺跡群第51次調査（NAK-51）

所在地　博多区那珂６丁目20地内　　**調査面積**　42㎡
調査原因　水道管埋設　　**担当者**　佐藤一郎
調査期間　95.5.22～95.5.27　　**処置**　調査後破壊

位置・環境　福岡平野を貫流する三笠川と那珂川にはさまれた洪積台地、中位段丘上の先端近くに位置する。日本最古の二重環濠が検出された第37次調査地の南西に近接する。標高８ｍを測る。現況は現道で、後世の削平が著しい。幅1.6mのトレンチを環濠の南北の延長部４ヵ所に入れた。

検出遺構　環濠の北側延長部は現地表下３ｍまで時期は不明であるが開析を受けており、検出できなかった。環濠の南側の延長は後世の削平により失われており、現地表下0.8mのレベルで15世紀代の溝が１条検出されたのみである。

出土遺物　溝からは龍泉窯系青磁花生片が出土した。



１．調査地点の位置（1:8,000）

9513　那珂遺跡群第52次調査（NAK-52）

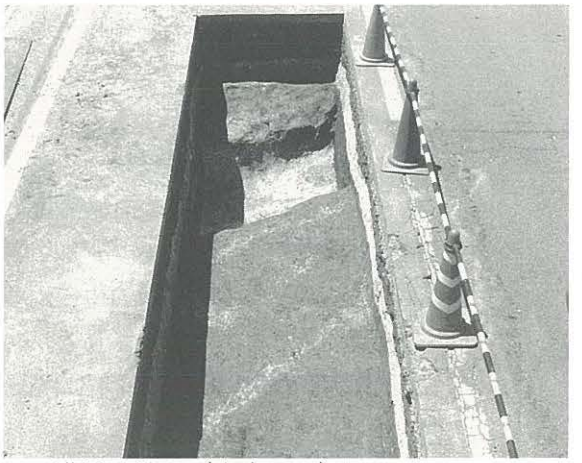
所在地　博多区那珂６丁目地内　　**調査面積**　156㎡
調査原因　道路拡幅　　**担当者**　佐藤一郎
調査期間　95.5.31～95.6.27　　**処置**　調査後破壊

位置・環境　那珂遺跡群第51次調査に同じ。遺構面（鳥栖ローム）は客土直下で確認された。

検出遺構　弥生時代早期の二重環濠の南側の延長にあたる溝２条。６世紀後半の溝２条。７世紀中頃の掘立柱建物１棟。個々の柱穴は1.2×1.0mの方形の掘り方を有し、柱痕跡の直径は約35㎝を測り、柱抜取り跡がみられるものもある。11世紀後半～12世紀前半の溝２条。

出土遺物　各遺構からコンテナ８箱の遺物が出土した。遺物としては突帯文土器片、土師器、須恵器等がある。大半が６世紀後半の溝から出土。

ま と め　今回の調査では、直径150mの正円に復元される集落を廻る環濠の延長部分が検出され、他に７世紀中頃の官衙施設とみられる大型建物の一部が検出された。1997年に報告書刊行予定。


２．溝検出状況（南東から）

9514　野多目A遺跡群第4次調査（NMA-4）

所　在　地　南区野多目1丁目地内
調査原因　共同住宅建設
調査期間　95.5.22～96.2.28
調査面積　9,839㎡
担　当　者　吉武学
処　　置　調査後破壊

位置・環境　那珂川中流域西岸の中位段丘上から沖積微高地上にかけて位置する。調査区の北西約1/4が段丘面、他は沖積微高地で、前者では弥生時代～古墳時代、後者では中世～近世の遺構を主に検出した。調査前は水田と畑地に盛り土して均した造成地となっており地表面の標高は約13.5mであった。

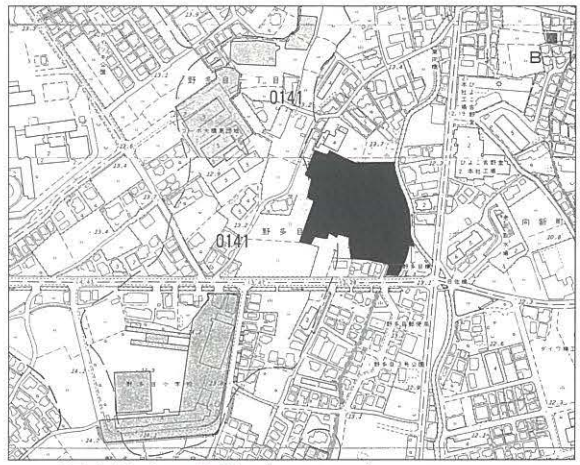
検出遺構　検出した遺構は以下の通り。

弥生時代末～古墳時代初頭	竪穴住居跡7
	掘立柱建物3
	溝2
古墳時代後期	大溝2
中世後期～近世前期	掘立柱建物31
	土壙12
	溝2
	道路側溝1組
	井戸2

出土遺物　古墳時代前期の土器を中心にコンテナ約170箱分が出土した。特筆すべき遺物には、古墳時代前期の製塩土器、古代の製塩土器、越州窯系青磁・鴻臚館式軒丸瓦、中近世の大量の摺り鉢、時期不明の銅製柄杓などがある。

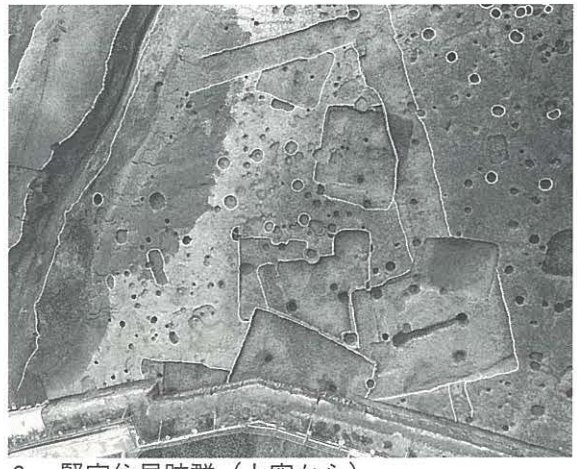
ま　と　め　今回の調査では弥生時代終末から古墳時代前期の竪穴住居跡と掘立柱建物がまとまって検出され、小規模ながら集落の存在を確認できた。当該期の墳墓は西側の和田B遺跡で調査されており、当集落と係るものであろう。7世紀後半に属する大溝は幅が5mを測る直線的なもので、大規模な灌漑工事がおこなわれていたことを示す。中世末から近世初頭の集落は多数の掘立柱建物と土壙から構成され、大量の摺り鉢の出土から、何らかの工房の存在を示すものと見られる。

1997年に報告書刊行予定である。



1．調査地点の位置（1:8,000）

2．調査区北半部全景（南上空から）


3．竪穴住居跡群（上空から）

9515　下月隈C遺跡第2次調査（SHC-2）

所在地　博多区下月隈(空港用地F-1)
調査原因　調整池建設
調査期間　95.5.8～96.3.19
調査面積　10,000㎡
担当者　宮井善朗、久住猛雄
処置　調査後破壊

位置・環境　下月隈C遺跡2次調査地点は、福岡空港の南側に位置する。地形的には月隈丘陵西側に広がる沖積地に立地する。この低地は御笠川水系の小河川によるものである。

検出遺構　今回調査では上面で中世の集落、下面で古代と考えられる水田を検出した。集落内には、方形に巡る溝や、掘立柱建物、井戸、土壙墓、土壙等が多数検出された。時期的には古代末から中世後期まで存続すると考えられる。

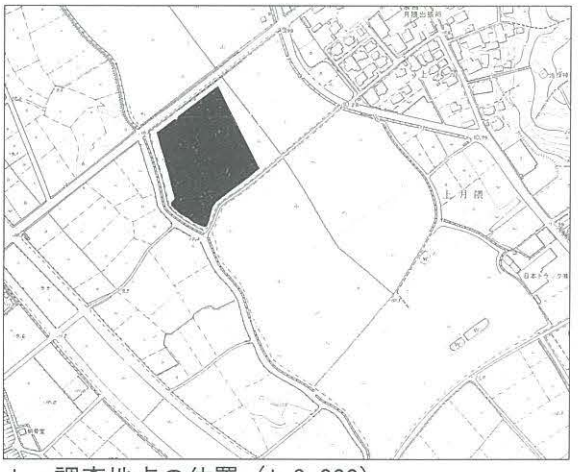
古代末の遺構としては2基の土壙墓がある。近接して検出され、黒色土器、土師器を副葬する。中世前期の遺構として、方形に巡る溝と、それに伴う掘立柱建物がある。溝は陸橋部を持ち、その箇所に建物があり、門跡と考えられる。中世後期の遺構として、この溝を切るV字溝がある。上層に大量の遺物が投棄されていた。ほとんどが土師器坏、皿類であるが、高麗青磁などの陶磁器類も見られる。

下層の水田は2ないし3面と考えられる（3次調査の土層観察では近代を含めて4面確認している)。区画は長方形を基本とするが、一部地形に応じて不規則になる。

出土遺物　出土遺物はコンテナ40箱である。土師器、須恵器が多いが、陶磁器も相当量出土している。また木器、漆器等も出土している。

まとめ　今回調査の集落は、比較的小規模で且つ長期にわたるところに特徴がある。方形区画を持つものの、防御の用にはなさないものである。また内部の建物も小規模で企画性に乏しい。いわゆる居館とは考えがたいものである。

なお報告書は1997年度刊行予定である。



1．調査地点の位置（1:8,000）

2．下層水田（北から）

3．上層中世集落全景（北から）

9516　有田遺跡群第178次調査（ART-178）

所在地　早良区南庄３丁目214番他
調査原因　共同住宅建設
調査期間　95.6.1～95.8.11
調査面積　747㎡
担当者　白井克也
処置　調査後破壊

位置・環境　有田遺跡群のうち、最も北に延びる台地上に位置する。南庄３丁目地内の舌状の台地は、細かくみれば浅い谷を挟む２条の低い尾根からなる。178次調査地点は西尾根の頂部と東斜面の標高７～８m地点に位置する。調査区東半ではローム上に包含層が良好に遺存していた。

検出遺構　弥生・古墳時代の集落と墳墓群である。

・弥生時代集落　掘立柱建物跡１棟、竪穴住居跡５棟、土壙１基。

・古墳時代墳墓群　円墳１基（主体部は木棺墓か）円形周溝墓６基（１基は複数主体、主体部の内訳は竪穴式石室１、木棺墓１、石棺墓２、石蓋土壙墓１、土壙墓２）木棺墓１基、石棺墓１基、木蓋石棺墓２基（１基は円形周溝内埋葬）土壙２基（１基は円形周溝内埋葬）、壺棺墓１基（円墳の周溝内埋葬）

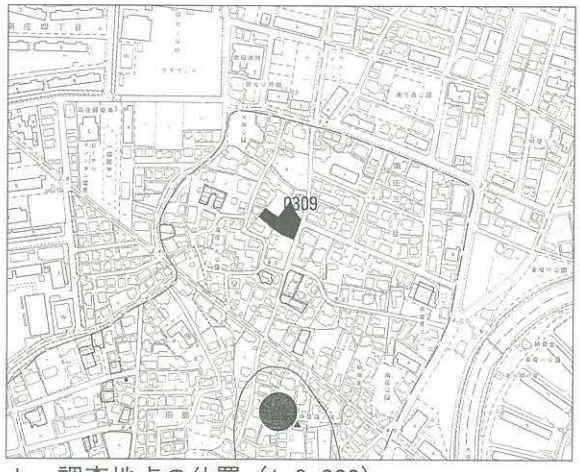
・古墳時代集落　竪穴住居跡４棟、溝状遺構１条、粘土貯蔵穴１基、土壙１基

・時期不明土壙１基。

出土遺物　墳墓から銅鏡、玉類、碧玉片、赤色顔料、住居跡から当該期土器が出土した。また、遺構覆土から旧石器時代と思われる黒曜石の剥片や石器が出土した。遺物はコンテナ17箱分であった。

ま と め　有田遺跡群のうち、南庄地区が古墳時代において墳墓地域であることは、以前から想定されていたが、今回の調査で円墳と円形周溝墓などからなる４世紀末から５世紀前半にかけての墳墓群が存在することが明らかとなった。主体部も多様であり、当該期における北部九州の古墳群構成の１例として浅からぬ意義を有する。

調査報告書は1997年に刊行。



１．調査地点の位置（1:8,000）

２．調査区全景（上空から）

３．竪穴式石室 SQ-141（南から）

9517　蒲田部木原遺跡群第４次調査（KHH-4）

所　在　地　東区蒲田２丁目777-1
調査原因　物流用倉庫建設
調査期間　95.6.1～95.9.19
調査面積　2,915㎡
担　当　者　加藤隆也
処　　置　調査後破壊

位置・環境　蒲田部木原遺跡群は多々良川支流の久原川の東側に位置し、調査地は東から緩やかにのびる丘陵先端部にあたる。遺跡群の東側には多くの甕棺が発見された水ヶ元遺跡、南東側には部木八幡古墳群、かけ塚古墳群などが位置する。

検出遺構
・竪穴住居　　14基
・掘立柱建物　４棟
・小型竪穴状遺構　８基
・貯蔵穴　　１基
・溝、土坑、ピット

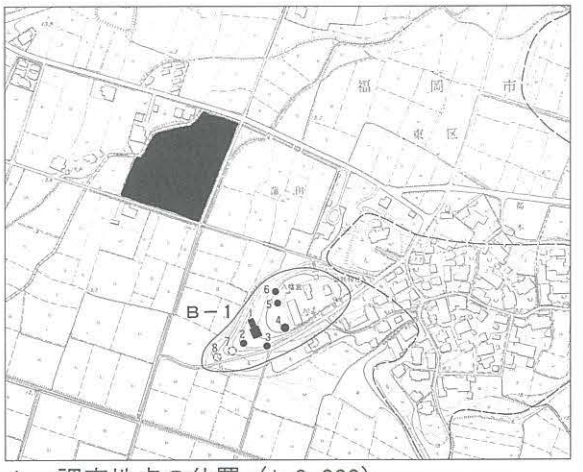
調査地の地形は北側が高く、南側に向けて緩やかに傾斜している。弥生時代前期の遺構は貯蔵穴１基のみで調査地のほぼ中央に位置している。北東側の微高地上に位置する竪穴住居、小型竪穴状遺構は弥生時代中期のものが主体をなし、２条の溝は丘陵線を切るように掘られている。古墳時代の竪穴住居は南側にあり、居住域の拡大がみられる。

出土遺物　弥生時代の土器・石器、古墳時代の須恵器・土師器が大量に出土した。弥生時代の土器は２条の溝からのものが最も多く、他に石包丁・石戈・石剣などの石製品もみられる。古墳時代の遺物においても多くは溝から出土した。

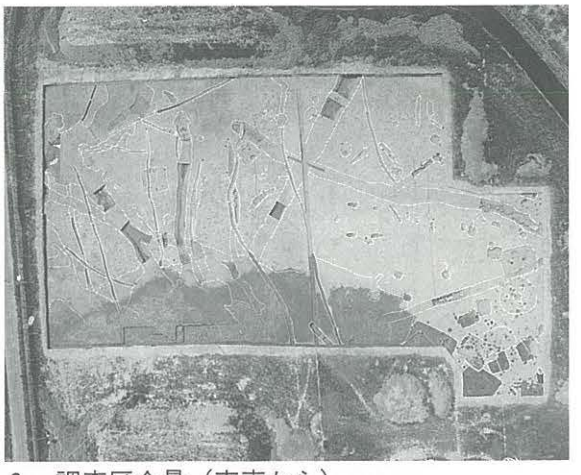
ま　と　め　弥生時代前期から古墳時代にいたるまで連続する遺構を検出した。なかでも弥生時代中期から後期に属する遺構には竪穴住居、小型竪穴状遺構、溝、土坑などがあり、この期の遺構が最も多く、遺物量も豊富である。

出土遺物で最も新しいものは５世紀末から６世紀代のもので、遺構は少ないが南側の低地に遺物が多く出土しており、周辺に遺構の存在が予想される。

なお、報告書は1997年に刊行予定である。



１．調査地点の位置（1:8,000）


２．調査区全景（南東から）

３．調査区北東側全景（東から）

9518　大原D遺跡第4次調査（OBD-4）

所在地　西区大字今津地内
調査原因　ゴミ埋め立て場建設
調査期間　95.6.5～95.12.21
調査面積　3,000㎡
担当者　菅波正人
処置　調査後破壊、一部継続調査

位置・環境　大原D遺跡は柑子岳から北東に派生する丘陵の裾に位置する。丘陵には狭い谷が入り込み、博多湾に面した東側には扇状地が形成される。これまで第1～3次調査が行われ、丘陵や谷部で古墳や古代の製鉄遺構、低地部で縄文時代後、晩期の遺物が数多く検出されている。今回の調査地点の第Ⅰ区－標高60mの丘陵上、第II区は標高26～33mの谷部斜面に当たる。

検出遺構　・第Ⅰ区－古墳1基。古墳は横穴式石室の円墳で、径約10mを測る。石室は大半が破壊されており、奥壁が残るのみである。時期は7世紀代に位置づけられる。

・第II区－縄文時代草創期の住居跡3軒＋α、土坑、奈良～平安時代の掘立柱建物、製鉄炉、焼壁土坑、溝他。

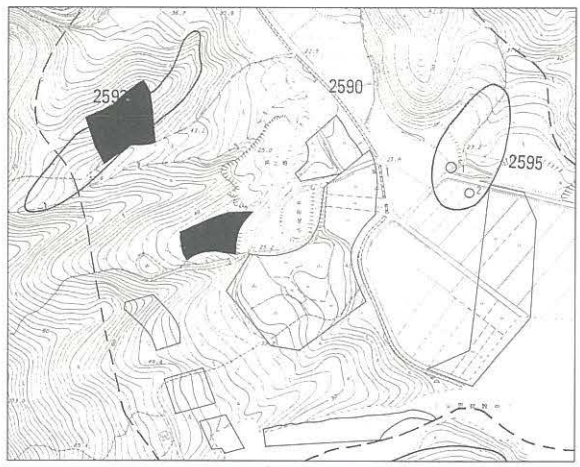
縄文時代草創期の遺構は南向きの段丘面で検出した。住居003 、014 は径約4mの不整円形のプランで、深さは10～20cmを測る。住居003は床面全体に炭化物が見られ、焼失住居と考えられる。床面で20数点の石鏃、スクレーパーがまとめられている状態を検出した。なお、これらの遺構は一部調査し、一旦埋め戻した。

奈良～平安時代の掘立柱建物、製鉄炉は斜面を造成して造られている。製鉄に係わる集団の施設と考える。

出土遺物　遺物は縄文時代草創期の土器、石鏃、スクレーパー、古墳時代の須恵器、奈良～平安時代の土師器、須恵器、黒色土器、輸入陶磁器、瓦、炉壁、鉄滓等が出土した。（ コンテナ82箱）

まとめ　今回の調査で特筆されるのは縄文時代草創期の住居を検出したことである。これまで南区柏原F遺跡で該期の住居が検出されているが、北部九州での出土例は少なく、貴重な発見である。

1996年度概要報告を刊行する。



1．調査地点の位置（1:8,000）

2．II区全景（南から）

3．II区SC003（南から）

9519　博多遺跡群第90次調査（HKT-90）

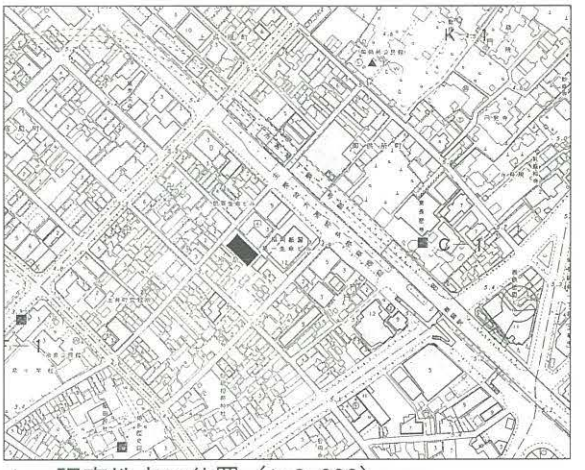
所在地　博多区冷泉町216
調査原因　共同住宅建設
調査期間　95.6.15～95.10.31
調査面積　476㎡
担当者　佐藤一郎
処置　調査後破壊

位置・環境　調査地は博多区冷泉町２１６、博多浜のほぼ中央に位置する。

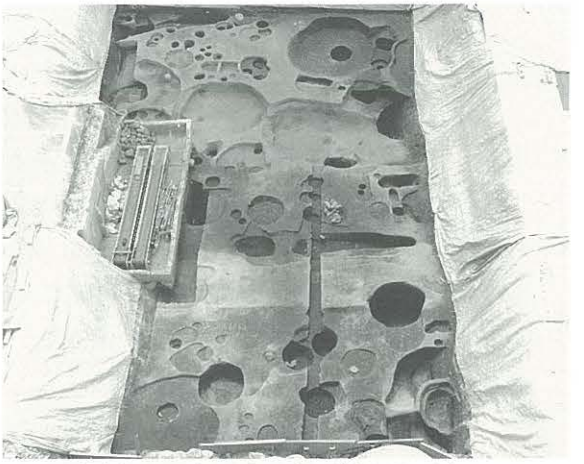
検出遺構　現地表下３ｍまでを重機で除去、その下面から層位を大きく３層に分け、各層の上面で遺構の検出にあたった。時期は、第Ｉ層（灰褐色砂、標高約2.5m）が11世紀後半～12世紀前半、第II層（黄褐色砂、同2m）が９世紀後半～11世紀前半、第III層（黄褐色砂、同1.5m）は８世紀。第Ｉ層上面で井戸２基、溝３条、道路、土壙数基、柱穴多数を検出。遺構の時期は13世紀後半から16世紀前半。道路SF46は12世紀後半以降の普請で、第62次調査検出の道路とつながる。第II層上面では井戸６基、土壙・柱穴多数を検出。土壙ＳＫ74は板石を立て竈状の施設を構築し、最下層に炭化物、その上面に貝殻が堆積している。底面全体に焼けた赤褐色砂がひろがる。第III層上面では柱穴・土壙少数、溝１条を検出。

出土遺物　道路の側溝SD40から土製人物像、土壙SK01から瑠璃釉小壷、SK10で黒釉水注が完全な形で出土。Ｉ層中からは中国風瓦の瓦当部が数点出土。Ｉ層、II層上面の遺構からは丸玉等のガラス製品や内面にガラスが溶着した坩堝として使用された無釉陶器片の出土が目立つ。SK74上面では黄釉鉄絵盤が伏せた状態で出土した。外底に「謝」・「林小□□」の墨書が記されている。II層からは五代末～北宋初の越州窯青磁がまとまった量出土。III層上面検出の溝からは斜格子目叩きの瓦がコンテナ４箱出土。瓦当をもつものは８点。遺物総量はコンテナ480箱。

まとめ　中世前半にはガラス工房、平安初期～中期には官衙関連施設が周辺に存在したとみられる。



１．調査地点の位置（1:8,000）


２．II層上面調査区北西部（北西から）

３．土壙遺物出土状況（北東から）

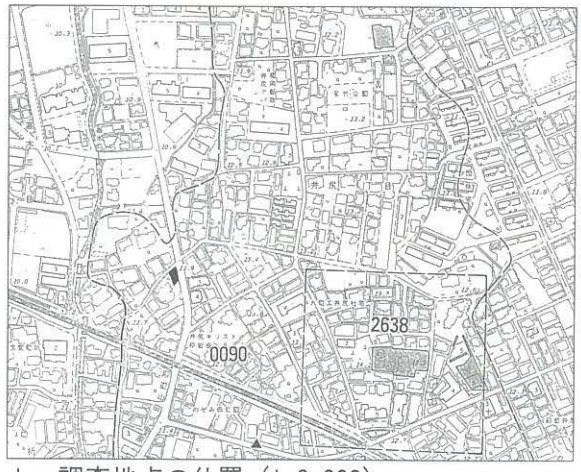
9520　井尻B遺跡群7次（IZB-7）

所在地　南区井尻1丁目363-2、364-5
調査原因　専用住宅建設
調査期間　95.7.7～95.7.8
調査面積　69㎡
担当者　山口譲治、山崎龍雄、池田祐司
処置　調査後破壊

位置・環境　調査地点は井尻B遺跡群の西側隅に位置する。現況の標高は約11.8mを測る。遺構面は厚さ30～40cmの表土を除去した鳥栖ローム層である。

検出遺構　遺構面は近現代の井戸、溝等による撹乱が大きく、調査面積の大半を占める。遺構は土坑1基，ピット7基のみである。撹乱により削平された遺構もあると思われるが、元々遺構の分布は薄かったと考えられる。SK01は調査区の端にかかり平面形の全体は不明だが、円形のピット状になると思われる。覆土は黄茶褐色土である。径55cm、深さ37cmを測る。遺物は出土していない。ピットは黒褐色土を覆土とし、深さ5cm～30cmを測る。柱痕跡は見られない。撹乱が多いこともあって、規則性も見られない。須恵器の小片1片と土師器片が少量出土した。

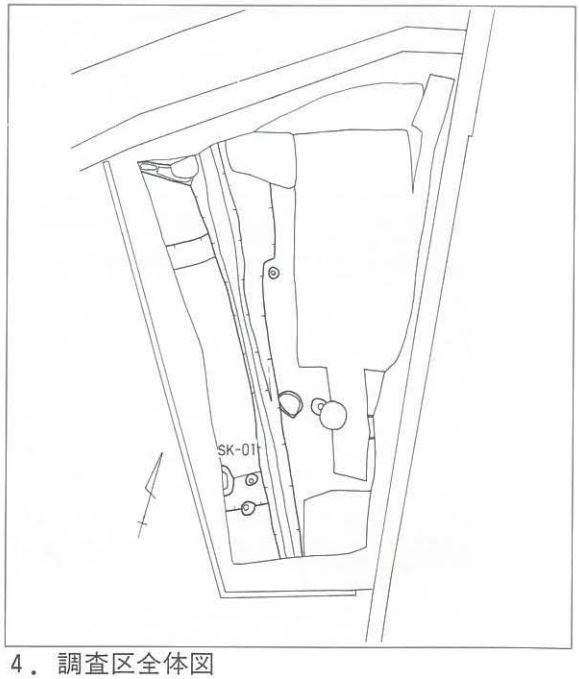
ま と め　今回の調査では、遺跡群の端まで遺構が広ががる事を確認することができた。調査範囲が狭く、かつ撹乱が激しいためはっきりしないが、遺構はかなり薄くなるものと考えられる。また、遺構の時期は、遺物が少なく、いずれも小片であるためはっきりしないが、古代の可能性がある。今回の報告を本報告とする。



1．調査地点の位置（1:8,000）

2．調査区南半

3．調査区北半



4．調査区全体図

9521　席田青木遺跡第３次調査（MAK-3）

所　在　地　博多区青木１丁目290-1他
調査原因　共同住宅建設
調査期間　95.8.1～95.9.14
調査面積　1,170㎡
担　当　者　久住猛雄・長家　伸
処　　置　調査後消滅

位置・環境　席田青木遺跡は、福岡平野の東を画する月隈丘陵の北端付近に位置する。第３次調査地点はこの丘陵の頂部から西へ下りる緩斜面のやや下方、標高８m前後の所にある。これまで、丘陵頂部で２回の調査が行われ、弥生時代の甕棺を主体とする集団墓地や近世墓地、中世の集落の存在が確認されている。

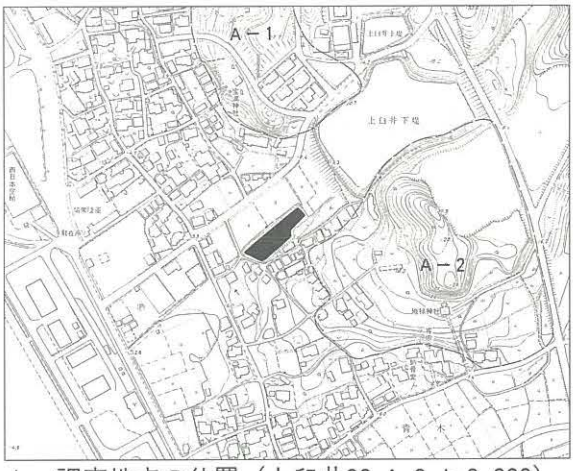
検出遺構　現地表下１m前後において遺構を確認した。検出した遺構は、竪穴住居跡１、掘立柱建物跡27以上、井戸４、溝状遺構53、土壙40および柱穴多数である。竪穴住居跡は壁周溝のみの遺存で遺構は全体として１m前後の削平が推定される。１×１間の掘立柱建物としたものの一部や、柱穴群の一部は、削平された竪穴住居の主柱穴になる可能性がある。これらは弥生時代中期から古墳時代のものであろう。掘立建柱建物は出土遺物などから弥生時代後期から古墳時代、古代、中世の各時期に存在するようである。

溝状遺構のうちSD01は方形環溝の可能性があり、７世紀初頭の須恵器を出土する。これに切られるSD02は弥生時代終末頃の環溝で、以上のいずれかに２×４間の建物が伴う。調査区中央南端のSD20は、一部のみの確認だが方形周溝墓の可能性もある。また、SD34～38は一連のもので古墳時代前期の住居を囲む溝と推定するが、竪穴住居は確認されていない。

出土遺物　弥生土器、古式土師器、須恵器、古代～中世の土師器皿、黒色土器、瓦器椀、滑石製石鍋等が出土した。

ま　と　め　今回の調査では、弥生時代中期以降、中世まで連綿と集落が継続していることが判明した。このうち、弥生時代終末～古墳時代前期の集落と７世紀初頭前後の環溝が注目されよう。

調査報告書は1997年に刊行予定である。



１．調査地点の位置（上臼井22-A-2　1:8,000）

２．東半調査区全景（西から）

３．西半調査区全景

9523　雑餉隈遺跡群第７次調査（ZSK-7）

所在地　博多区新和町２丁目14-1
調査原因　共同住宅建設
調査期間　95.8.28～95.9.1
調査面積　54㎡
担当者　大庭康時
処置　調査後破壊

位置・環境　雑餉隈遺跡群の西南側で、丘陵が西に向って傾斜する緩斜面上に立地する。

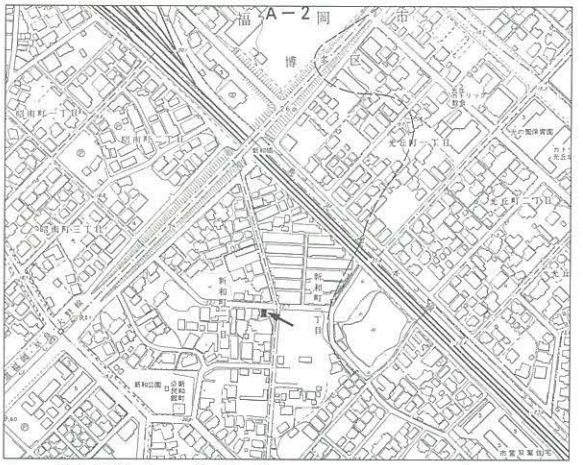
すでに大規模な削平を受けており、表土・バラス・うすい盛土の直下はローム面で、遺構の遺存状態は良くなかった。

検出遺構　土坑２基、柱穴42基、溝２条を検出した。調査範囲がせまく、掘立柱建物等を復元するには至らなかった。

出土遺物　土坑から須恵器片・土師器片などが出土したほか、柱穴からも若干の土器片が出土している。出土量は少なく、コンテナ１箱にすぎない。

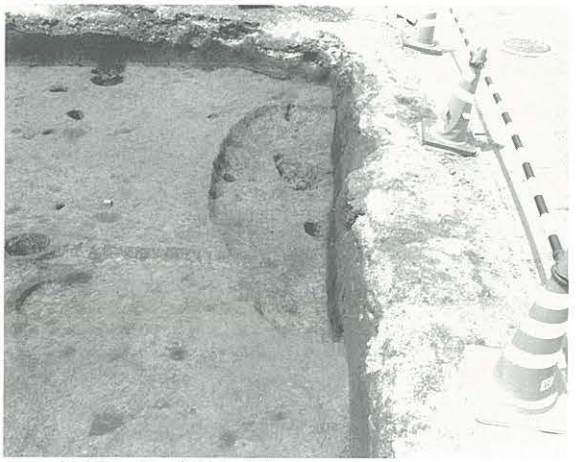
ま と め　限られた面積の調査ではあったが、出土遺物からみて、奈良時代を主とした集落であろう。

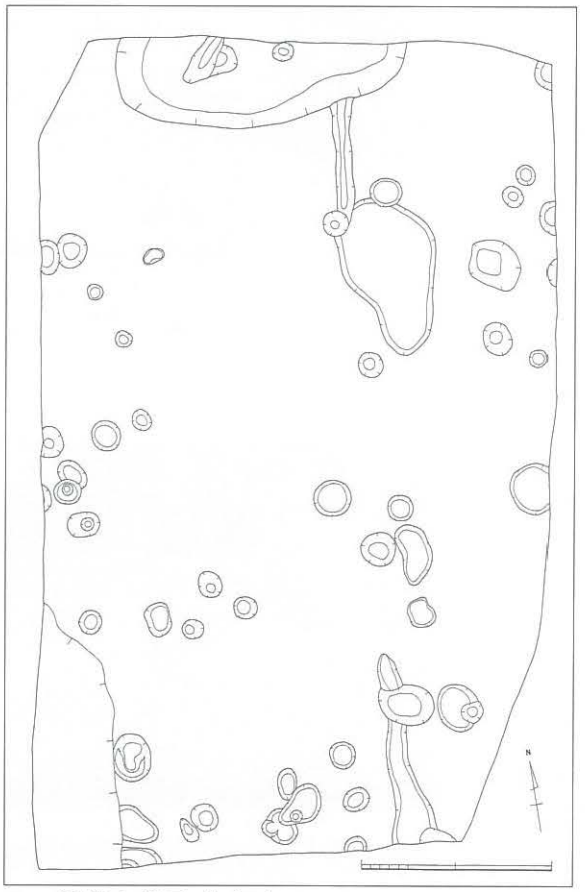
1997年に報告書刊行予定。



１．調査地点の位置（013-A-2 1:8,000）

２．調査地点全景（東より）


３．１号土坑（東より）


４．遺構全体図（1/80）

9524　有田遺跡群第179次調査（ART-179）

所在地　早良区小田部２丁目102他
調査原因　店舗付共同住宅
調査期間　95.8.28～95.9.12
調査面積　120㎡
担当者　大塚紀宜
処置　調査後破壊

位置・環境　有田台地のほぼ中央部に位置し、北側へ開析する谷の谷頭部分にあたる。旧況では水田として利用され、現在では水田面から１m以上客土して住宅を建設している。

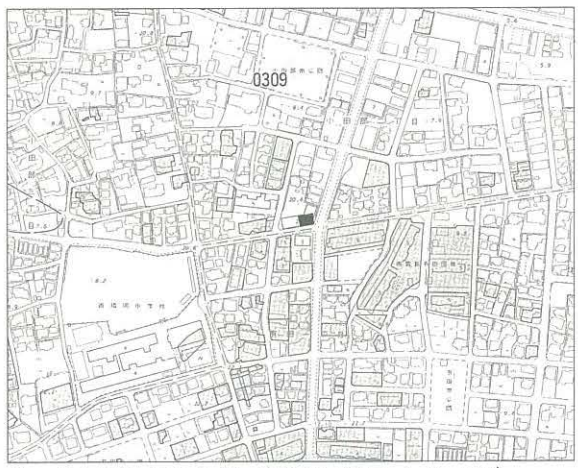
検出遺構　遺構は現地表下２～３mの八女粘土面で検出した。全体に遺構の密度は薄い。遺構の種類は以下の通りである。

竪穴住居１
溝状遺構２
土壙・井戸４
柱穴４

竪穴住居跡は調査区東隅に位置しているが、西側で削平を著しく受け、壁面の一部が残存するのみで、正確な規模は不明である。溝状遺構は２条検出したが、南北に走る溝は谷筋を流れていた自然流路の可能性が高い。また東西方向に走る溝は、周辺の調査で検出された溝に平行するもので、調査区南側に隣接して東西に走ったとされる「官道」に伴うものと考えられる。また南北の溝状遺構に沿ってピットや杭が検出され、何らかの水利施設あるいは護岸施設の存在が推定できる。

出土遺物　遺物はコンテナ17箱であるが、遺構に伴う遺物はほとんどない。遺物の多くは谷が埋没するときに堆積した黒色粘質土から出土した。土器の多くは弥生時代中期～古墳時代前期のものである。これらの土器に混じって銅鉾基部の鋳型が出土した。また小河川や井戸から木器数点が出土している。

ま と め　調査区が谷部にあたり、全体に遺構が希薄で台地上の集落外と考えられる。また後世の耕作による削平が著しい。一方包含層から比較的多くの遺物が出土し、台地上の集落に関連するものとして、これまでの調査結果を補うものといえる。1998年度に報告書刊行予定である。



１．調査地点の位置（原82-0309　1:8,000）

２．調査地点全景（北西から）

３．竪穴住居址（北から）

9525　比恵遺跡群第56次調査（HIE-56）

所在地　博多区博多駅南４丁目15-1
調査原因　事務所ビル建設
調査期間　96.9.7～96.10.27
調査面積　524m²
担当者　大庭康時
処置　調査後破壊

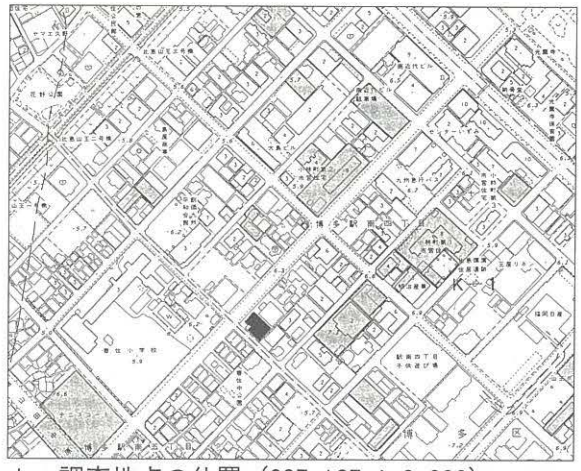
位置・環境　福岡平野中央部の、東を御笠川、西を那珂川に開析された比恵丘陵上に立地する。丘陵上には、さらに数筋の谷が見られるが、そのひとつの西向き緩斜面にあたる。

検出遺構　遺構としては、すでに大規模な削平を受けており、遺存状態は良くない。しかし、柱穴では深いものが多く、その配置から見て、弥生時代中期の円形竪穴住居跡２棟程度、掘立柱建物１棟以上が推定できる。また、溝１条が、調査区西辺から検出された。

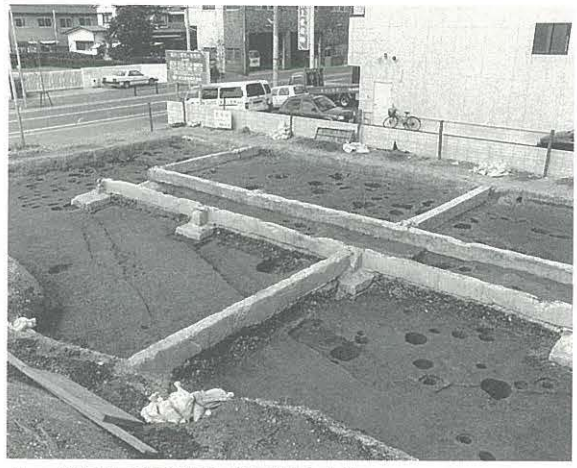
出土遺物　遺物は、弥生時代の土器片がコンテナ８箱、石器類が同１箱弱出土した。弥生式土器では、前期のものが若干見られたが、大半は中期中頃に属する。石器では扁平片刃石斧１、磨製石剣切先１、石包丁１および剥片が出土した。

ま と め　立地が小規模な谷地形の西斜面にあたるためか、遺構密度が東に濃く西で極端にうすい傾向がある。また、調査区西辺に接してわずかに検出した溝状遺構が、集落の西縁を画したものとすると、住居跡群から西に15m程の空白部分を設けていたことになる。なお、この空白部分では、全く建て替えのない掘立柱建物１棟を検出した。

1997年に報告書刊行予定。

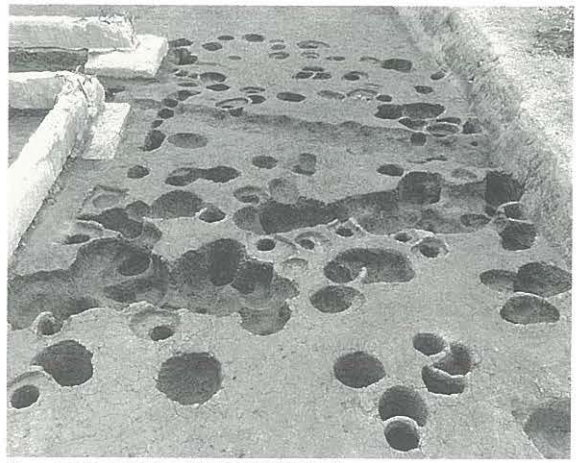


１．調査地点の位置（037-127 1:8,000）



２．調査区東半部（西南から）

４．調査区西半部（東より）



３．弥生時代中期円形住居址

9527　有田遺跡群第180次調査（ART-180）

所　在　地　早良区小田部３丁目156-5、7、8
調査原因　個人専用住宅
調査期間　95.9.12～95.10.9
調査面積　293㎡
担　当　者　加藤良彦
処　　置　調査後破壊

位置・環境　本調査区は有田・小田部台地の北半、八手状に開析する支丘群の西端に位置し、先端近くの西側緩斜面に位置する。

周辺では第59・60・91・150次調査が実施され、弥生～古墳時代の住居跡・甕棺・袋状竪穴・掘立柱建物、中世の溝などが検出されている。

表土下20㎝程で鳥栖ロームの基盤層に達するが削平が著しく、北西部の縄文時代晩期～古墳時代の包含層部分に遺構が残存するのみである。

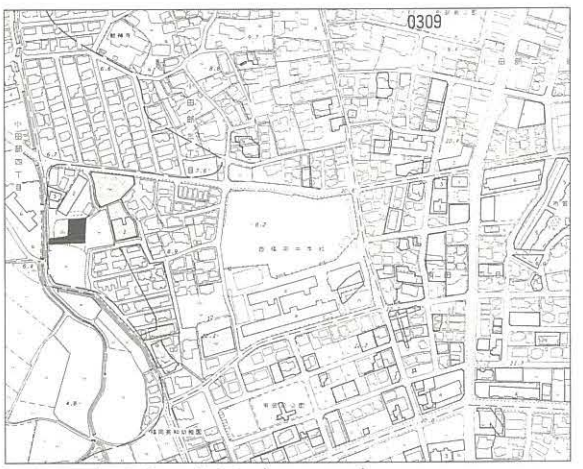
検出遺構
・縄文時代晩期（夜臼式）　：土壙１基
・古墳時代前期　：竪穴住居跡１軒
・古墳時代後期　：竪穴住居跡２軒・土壙５基
　自然流路１条
・近世　：土壙２基
他に古墳時代～中世の柱穴多数。

出土遺物　遺物は包含層中から多量の弥生時代中期の土器と、少量の縄文時代晩期の夜臼式土器、古墳時代の土師器・須恵器等、古墳時代前期の住居跡からはまとまった土師器と多数の滑石小剝片を、古墳時代後期の住居跡からは少量の土師器・須恵器を検出している。総量はコンテナで５箱分である。

ま　と　め　夜臼式期の円形土壙は長径4.3mで、斜面下側で半分近くが流失しているが、壁に沿って10個の柱穴が円形に巡っており、円形竪穴住居跡である可能性が高い。

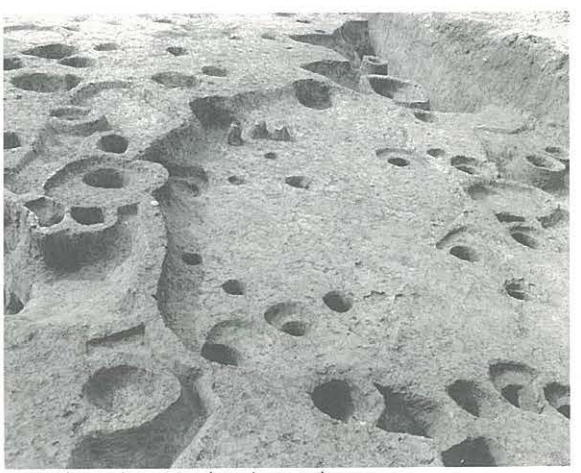
古墳時代前期の住居跡床面からは砂岩の砥石と多数の滑石小片が検出されており、滑石製玉類の工房と思われる。

調査報告書は1997年に刊行予定である。



１．調査地点の位置（1:8,000）

２．調査区全景（南から）


３．夜臼式土壙（北東から）

9528　那珂遺跡群第53調査（NAK-53）

所在地　博多区那珂６丁目地内
調査原因　道路整備
調査期間　95.9.18～95.10.20
調査面積　220㎡
担当者　長家伸
処置　調査後破壊

位置・環境　那珂遺跡群は福岡平野を北流する那珂川東岸の洪積台地上に立地する。調査対象地は福岡大同青果株式会社の西隣に位置し、周知の埋蔵文文化財包蔵地である那珂遺跡群の西端部に当る。大同青果株式会社内では既に第37次調査が行われており、ここでは国内でも最古段階に位置づけられる二重の環濠を持つ環濠集落の一部が確認されている。なお二重の環濠については福岡市指定文化財として認定され敷地内において埋め戻し後に保存されている。

今回の対象地は第37次調査に隣接した部分であり、環濠の西側延長部分の確認及び環濠内施設の調査を主たる目的として発掘調査を行った。

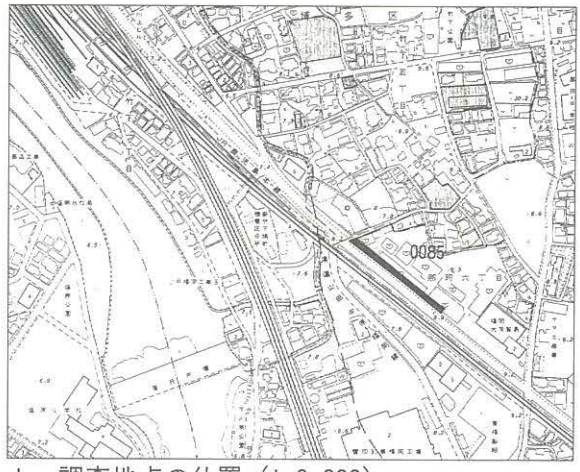
検出遺構　遺構は表層の砂礫を除去した直下のローム層上面で検出した。遺構面はすでに大きく削平を受けており、遺構の在り方はやや希薄であった。

調査の結果、二重環濠の外側部分については遺構面から２m以上の削平を受けており、調査区内では検出できなかった。1940年代の地図にはこの段落ちが表現されており既に外濠は欠失していたようである。内濠については延長部分が確認され、濠の幅約1.6m、深さ0.6mであった。この他古墳時代の溝が１本見つかっている。

出土遺物　出土遺物はコンテナ３箱である。

まとめ　今回の調査により、環濠の一部がさらに明らかとなったが、外濠は検出されておらず、欠失したのであれば時期、原因など不明である。近隣の調査を待ちたい。

調査報告書は1997年に刊行予定である。



１．調査地点の位置（1:8,000）

２．北半全景（北から）

３．南半全景（北から）

9529　東入部遺跡群第11次調査（HGI-11）

所在地　早良区東入部1268他
調査原因　圃場整備
調査期間　95.10.4～96.2.14
調査面積　1,330㎡
担当者　荒牧宏行
処置　調査後消滅

位置・環境　荒平山西麓の扇頂付近に位置し、西北方向へ舌状に延びた砂礫台地の尾根線上に占める。地山は標高33.5m前後を測り、南東から西北側へ低くなる。現況の水田面下70㎝で地山の明黄褐色砂ないし砂礫に達する。南東隣接地の第２次調査・８区で弥生時代前期後半から後期初頭の甕棺墓や方形区画墓等を検出している。

検出遺構　弥生時代中期と中世の隔絶した２時期の遺構が極めて密度濃く検出された。

弥生時代中期：円形竪穴住居跡10棟、方形竪穴住居跡25棟以上、掘立柱建物２棟

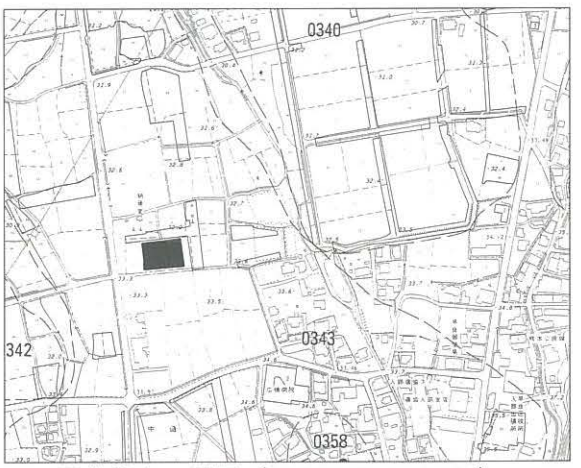
中世：掘立柱建物６棟以上、井戸１基、土壙墓１基、土壙９基、大溝１条

弥生時代中期の円形竪穴住居跡は径約6.5mの規模で、尾根線上に北西方向へ連なって分布し、対して小規模な方形竪穴は主軸をほぼ真北に取り、調査区の全域に分布している。中世の遺構は黒色包含層を切って掘り込まれ、埋土に灰色砂層が堆積する。調査区の北側に並行する大溝は周辺調査から幅９m、一辺74mの方形区画溝と考えられる。またコの字に囲む小規模の周溝墓もある。掘立柱建物は２×３間で総廂である。

出土遺物　総量でコンテナ72箱分が出土。中世の土壙墓に青磁碗、皿が副葬されていた。また、土壙２基から廃棄された土師器坏、皿を多量に出土。

ま と め　本調査地点の南東部に形成された甕棺墓群に対応する弥生時代中期の中頃を主とした集落が確認できた。遺構の密度、地形から中心部を占めるものと考えられる。その後、遺構は中世まで断絶するが、その要因に洪水があるものと思われる。

発掘調査報告書は、1997年に刊行予定である。



1．調査地点の位置（085-0343 1:8,000）

2．調査区全景（南西から）

3．中世方形周溝（墓）（東から）

9530　那珂遺跡群第54次調査（NAK-54）

所　在　地　博多区竹下5丁目119他
調査原因　店舗兼住宅
調査期間　95.10.9～95.10.12
調査面積　90㎡
担　当　者　長家伸
処　　置　調査後破壊

位置・環境　那珂遺跡群は福岡平野を北流する那珂川東岸の洪積台地上に立地する。調査対象地は台地の西端部分に当たり、周辺においても道路拡幅・共同住宅建設等に伴い発掘調査が行われてきている。

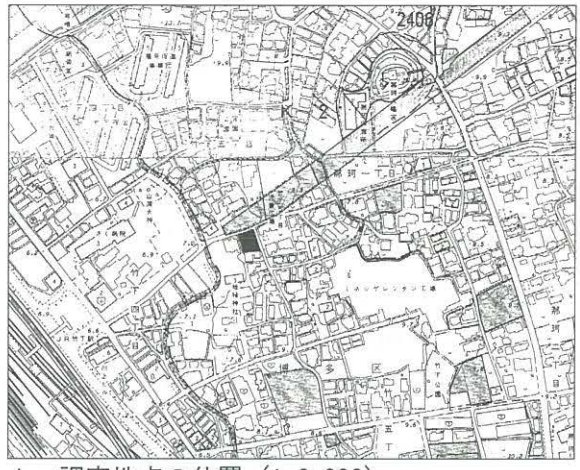
検出遺構　遺構は現況から70cm程の造成土を除去したところで現れる鳥栖ローム層上面で検出した。この遺構面は既に大きく削られており、柱穴等の相対的に浅い遺構は残っておらず、井戸を2基検出したのみである。

1号井戸は上面径1m程度で、調査区の端に位置していたため深さは2.2m迄しか確認できていない。埋土から日常・祭祀用土器の小破片が出土している。2号井戸は径はやや大きく1.3mであるが、深さは1.3mと1号井戸に比べて浅くなっている。2号井戸は井戸底から甕が2点横倒しになって出土した。また埋土から甕棺の破片がまとまって出土している。いずれも井戸を廃棄する時に投げ込んだものと考えられる。1号井戸・2号井戸共に弥生時代中期後半に位置づけられる。

出土遺物　出土遺物はコンテナ5箱である。

ま　と　め　今回の調査で弥生時代に位置づけられる生活遺構の広がりが台地の縁辺部分で確認できた意義は大きい。

1997年報告書刊行予定。



1．調査地点の位置（1:8,000）

2．全景（北西から）

3．井戸完掘状況

9531　舞松原古墳第Ⅰ次調査（MMK-Ⅰ）

所在地　東区舞松原４丁目
調査原因　遺跡確認調査
調査期間　95.10.16～95.12.20
調査面積　109㎡
担当者　久住猛雄
処置　埋め戻し保存

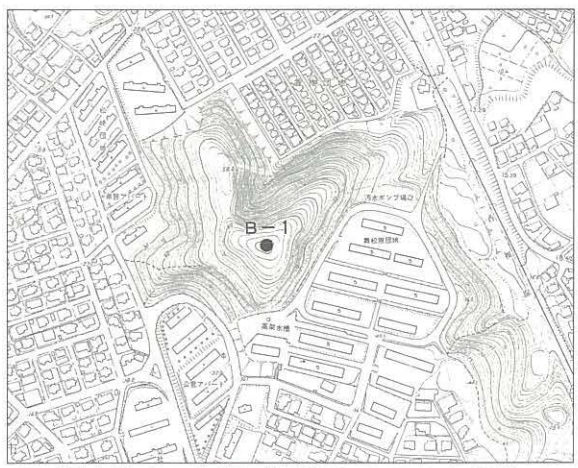
位置・環境　多々良川北岸の八田から香椎の海岸際に及ぶ低起伏丘陵（粕屋丘陵の一部）のほぼ中央の山塊に位置する。南方丘陵には多々良大牟田遺跡北方には香椎神宮が所在する。

検出遺構　古墳は単独に立地し、現状では円墳に見える。周囲は後世の改変を受け、特に墳丘北側は削られ、墳頂部は陥没している。調査の結果、北西方向の尾根筋に造り出部を付設する帆立貝式の古墳と判明した。全長37m、円丘径29.5m、高さ約４m、くびれ部幅約８m、造出部前端幅推定約11.4mを測る。墳丘は第三紀層の地山を削り出し、さらに若干の盛り土をして構築される。墳丘斜面は基壇と中段にテラスが存在する二段築成である。主体部は木棺直葬１基を検出したが攪乱により大破していた。頭位はほぼ北で木棺の痕跡は北側小口のみ残存し、若干の副葬品が出土した。墓壙は約4.0×3.4mの規模と推定される。なお西側のくびれ部において、平安時代の土壙墓を単独で１基検出した。

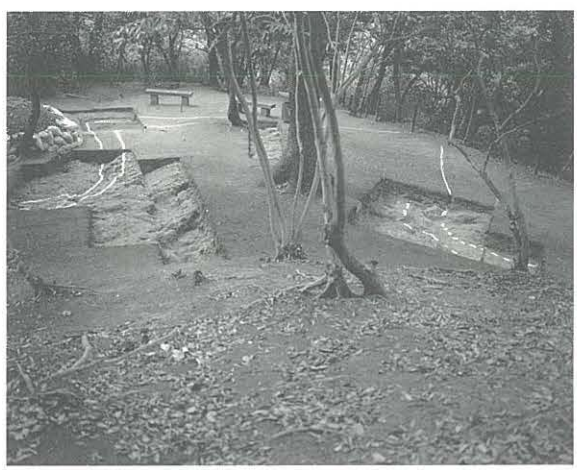
出土遺物　主体部からは鉄斧１、鉄鎌１、鉄鏃先２が出土した。墳頂部からは二重口縁壺が１点出土したが、古墳に関係する他の遺物は、土器細片が少量あるのみである。平安時代（10世紀）の土壙墓からは、瑞花双鳳八稜鏡１、越州窯系青磁碗１、土師皿数点が出土している。

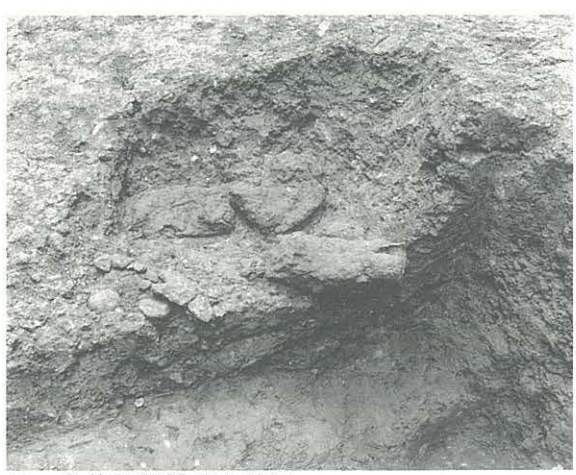
ま と め　古墳の時期は、墳頂出土の二重口縁壺と、主体部の鉄器の様相より４世紀末前後と考えられ規模、立地、墳形からこの地域の首長墓と考えられるが、帆立貝式の墳形としては古い事例になることが注目される。また、平安期の土壙墓の副葬品も特筆できよう。

調査報告書は1997年に刊行予定である。



1．調査地点の位置（松崎18-B-1　1:8,000）


2．造出部検出状況（墳頂部から）


3．主体部鉄器出土状況

9532　博多遺跡群第91次調査（HKT-91）

所　在　地　博多区下川端町134番
調査原因　立体駐車場建設
調査期間　95.11.1～95.11.8
調査面積　67㎡
担　当　者　加藤隆也
処　　置　調査後破壊

位置・環境　博多遺跡群は那珂川の右岸に形成された砂丘上に立地する遺跡群である。本調査地は遺跡群の北西に位置し、遺構を検出した砂丘面は南方向に緩やかに傾斜している。

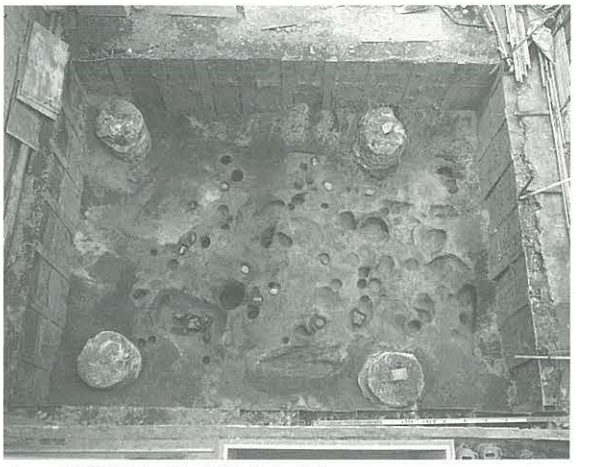
検出遺構　今回の調査は面積が狭く、砂丘上面の遺構のみの調査であった。検出面の標高は1.5～1.6mをはかる。検出された遺構は廃棄土坑、桶組井戸、根石をもつものを含む柱穴群がある。廃棄土坑は、長辺２m、短辺1.1m、深さ40cmをはかり隅丸長方形を呈する。桶組井戸は検出面にて径約4.5mの掘り方がみられ、中央に幅約10cmの板材を組み合わせた桶が２段残存していた。桶の直径は上部で約60cmをはかる。

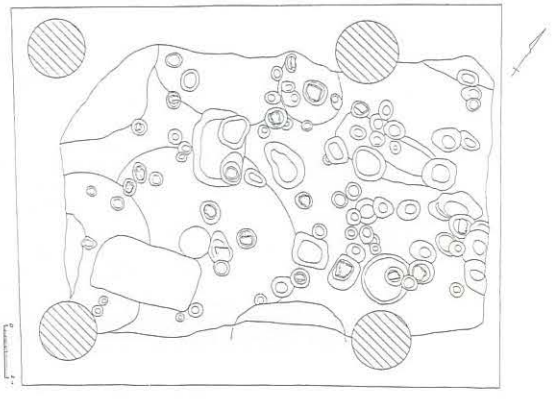
出土遺物　主な遺物は廃棄土坑、桶組井戸から出土したものがもっとも多く、土師器小皿・坏、輸入陶磁器、瓦質の壷、砥石、銅銭などがある。

ま　と　め　本調査地は砂丘の落ちの南端付近に位置すると思われるが、急激な地形の変化はみられなかった。調査面積の限界から建物の規模等は不明であるが井戸、廃棄土坑などから15世紀当時の生活環境が伺えられる。

なお、報告書は1997年に刊行予定である。

１．調査地点の位置（1:8,000）


２．調査区全景（南東から）


４．遺構全体図（1/300）

３．SE-01 完掘状況（南東から）

9533　西新町遺跡第10次調査（NSJ-10）

所在地　早良区西新５丁目641-3他
調査原因　共同住宅建設
調査期間　95.10.28～96.2.3
調査面積　462㎡
担当者　屋山洋
処置　調査後破壊

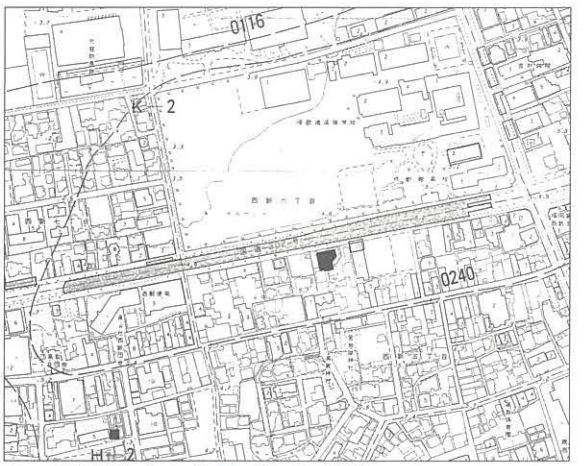
位置・環境　本調査地点は早良平野の北東端の博多湾に面する古砂丘上に位置する。調査区は南側に緩やかに傾斜する。北側の地下鉄の調査で住居跡と甕棺が確認されている。

検出遺構　弥生時代　甕棺38基、その他
古墳時代　住居跡３軒、土壙２基
近世　井戸1 基
時期不明　土壙数基、溝２条、住居跡１軒、ピット多数

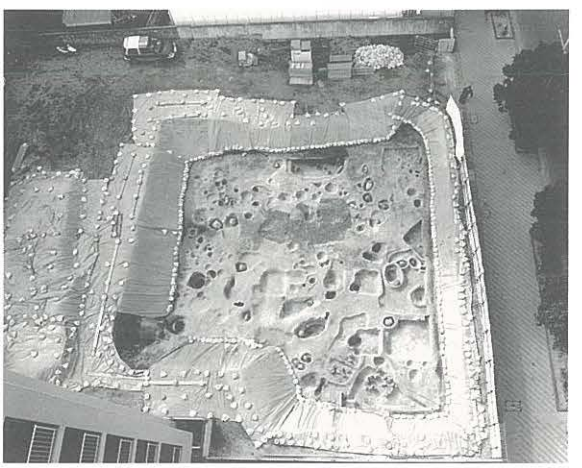
出土遺物　コンテナで76箱出土した。そのほとんどは甕棺であるが、人骨は残りが良く、全身骨格が残っているものが３基、上半身が１基、頭蓋骨や歯だけなど一部残存を含めると12人分が出土している。また成人棺からは青銅の小片も出土している。住居跡は弥生時代終末～古墳時代の住居を３棟確認した。覆土はどれも黒色を呈し、炭化物を含んでいる。遺物は少ないが、SC78は高坏・甕・袋状鉄斧等がまとまって出土した。石錘・蛸壷等の漁労具も数点出土している。近世の井戸からは瓦・土師皿・青磁器等多くの遺物が出土した。

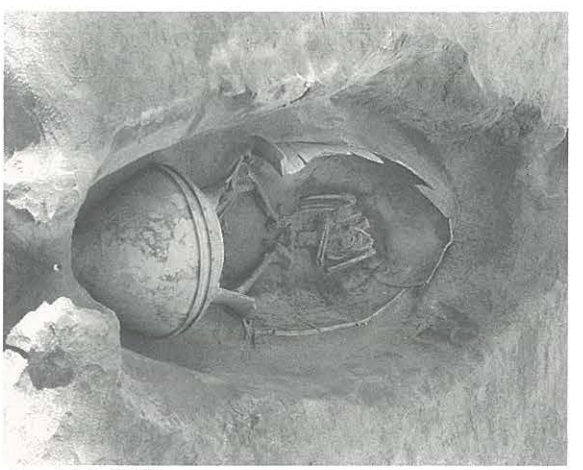
ま と め　甕棺38基中大型棺は５基であるが、ST018は同じ墓壙中に小型の甕を伴い、その小型棺に頭蓋骨、大型棺に胴体と別々の甕に埋葬が行われていた。また頭蓋骨に赤色顔料を塗布した成人棺の他に割った甕を上から被せる土器蓋土壙墓４基や、壺の倒置棺など多種多様の埋葬形態がみられ、西新町遺跡の弥生時代中期の社会や葬送儀礼を知る上で非常に貴重な資料である。甕棺は調査区の北寄りに分布するが、北側の調査では出土していないので、砂丘に沿って東西の帯状に分布するものと思われる。

報告書は2000年に刊行予定である。



１．調査地点の位置（1:8,000）


２．全景


３．18号甕棺

9535　飯氏遺跡群第6次調査　（IIJ-6）

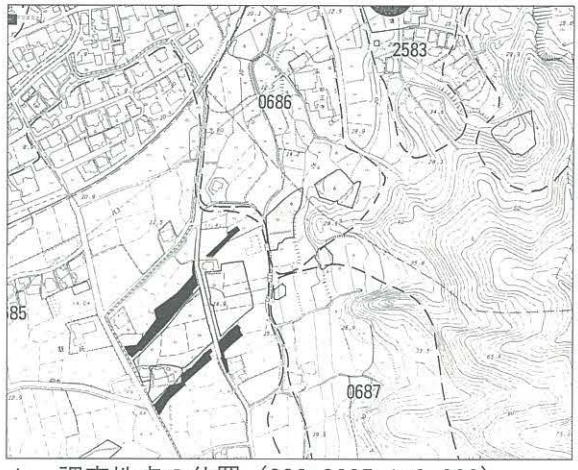
所在地　西区大字飯氏地内
調査原因　道路改良
調査期間　95.11.1～96.3.28
調査面積　2,516㎡
担当者　杉山富雄
処置　調査後破壊

位置・環境　高祖山麓から北方へ延びる、砂礫台地及び、一部土石流扇状地の末端部、沖積扇状地平野にかかる位置に立地している。台地は、低位段丘にあたる。標高は調査区北側で13.6m、南側では一段高く、16mの高さがある。現況は、水田である。調査区は、先回調査区(3次、4次調査)の両側にあたる位置となった。

検出遺構　縄文時代　晩期　甕の埋置遺構 3、壺棺 1
弥生時代　中期　甕棺9(小児棺4)、土壙 1、土器投棄遺構(谷部)など
古墳時代　前期　掘立柱建物 1×1間 24棟、1×2間1棟、竪穴住居1棟、土器投棄遺構(谷部)？
古墳時代 中期～後期 竪穴住居6棟

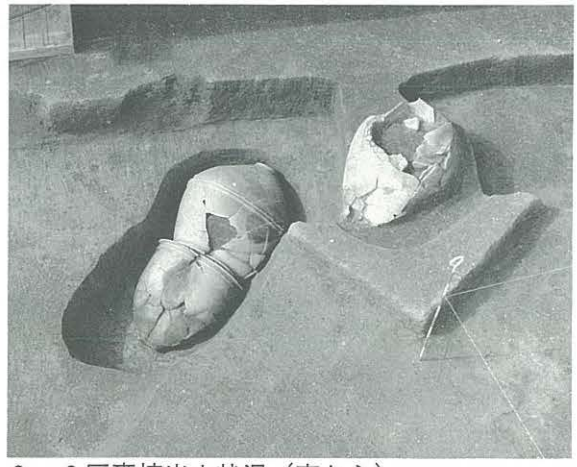
出土遺物　北側の調査区では、わずかに残っていた黒褐色粘土層から縄文土器が出土している。弥生時代の遺物は、弥生土器が、調査区の全体から出土するが、とくに投棄遺構からは、完形に近い大破片の資料を含む多量の土器が出土している。石包丁を始めとする石器類も散見される。古墳時代の遺物も調査区の全体から出土するが、特に、川岸への投棄遺構とみられる部分からの出土のほかに、竪穴住居から一括出土した資料がある。

まとめ　縄文時代の遺構は、調査区全体に疎らに分布する。弥生時代の遺構としては、谷部への土器の投棄遺構を確認した。甕棺墓地の領域は、前回調査で出土したように調査区の西端に限られたものとなっている。古墳時代の竪穴住居群からやや間を置いて、同時期かと思われる掘立柱建物がやはり、群を形成、分布している。竪穴住居には、竈を作り付ける、6世紀代のものが含まれている。1998年報告書刊行予定。



1．調査地点の位置（082-0685 1:8,000）

2．1区（西半部）全景（東から）


3．3区甕棺出土状況（南から）

9536　飯氏引地遺跡群第Ⅰ次調査　（IJH-Ⅰ）

所在地　西区大字飯氏地内
調査原因　道路改良
調査期間　96.2.1～96.3.28
調査面積　376㎡
担当者　杉山富雄
処置　調査後破壊

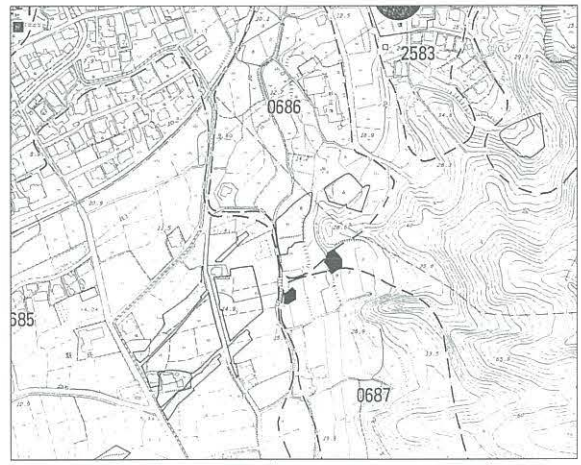
位置・環境　福岡市西郊、今宿平野の西を限る飯氏地区は、地形区分上、高祖山北麓の山麓地およびその間の砂礫台地とからなる。現地はその末端部に近く、山麓地裾部から砂礫台地（低位段丘）へかけて遺跡の広がりが推定されている。飯氏遺跡群とは、谷によって隔てられて、遺跡範囲は、段丘崖で終わっている。調査区は、試掘の結果により、山麓地裾部と段丘崖際に設けた。標高23mと17mの位置にある。

検出遺構　山麓地裾部では、谷頭状の地形が埋没した状態で検出され、遺物が流れ込み、堆積している状況が観察された。埋没の過程で、貝の投棄がおこなわれたことがあり、そのブロックが出土した。段丘面部では、柱穴と見られる小穴群、何らかの区画を示すと思われる小溝を調査した。柱穴には、中世を考えられるものがあり、根石を据えている。これらから掘立柱建物等を復原することはできなかった。こういった遺構が掘り込まれる以前に弥生時代後期の遺物までを出土する包含層が形成されている。

出土遺物　谷頭部の埋積土中からは、中世の擂鉢類の出土が目立った。大形の破片が含まれている。全体の遺物量は少ない。段丘上の調査区からの出土遺物は、小穴から中世の土師器坏・皿の類が少量出土したほかは、殆どが弥生土器の破片である。全体での出土量は少なく、コンテナ1/2程の分量である。

ま と め　山麓の斜面にかかる部分では明確な遺構を検出することができなかったが、遺物の出土状況から、この付近あるいは、より上方の位置に遺構が分布していたことが推測できる。

1998年報告予定。



1．調査地点の位置（082-0687 1:8,000）

2．5区全景（東から）

3．6区全景

9537　福岡城跡第31次調査－鴻臚館跡－(FUE-31)

所在地　中央区城内1-1
調査原因　確認調査
調査期間　95.11.1～96.3.15
調査面積　450㎡
担当者　田中壽夫
処置　調査後盛土保存

位置・環境　鴻臚館跡は、博多湾に突き出した丘陵上に占地する国史跡福岡城跡三ノ丸東南郭に位置する。

今年度は、鴻臚館跡第Ⅲ期調査の初年度にあたり、平和台野球場北西部(第１区)と鴻臚館跡南面(第２区)における関連遺構の有無確認を目的として調査を実施した。

検出遺構　第１区　当該地点は宝暦７年以降に作成された「福岡城絵図」では、浦上三太夫邸敷地内の北東隅に位置している。当該区からは江戸期の柱穴20、土壙４、溝２、明治期の溝１、建物跡１、土壙２を検出した。検出遺構は浦上邸内の施設の一部と考えられる。

第２区　当該地点は推定鴻臚館跡域の南西隅部に位置しており、西側小子房的礎石建物跡の南側推定延長上にあたる。福岡城土塁を南北に横断してトレンチを設定し、主として土層堆積状況の観察をおこなった。

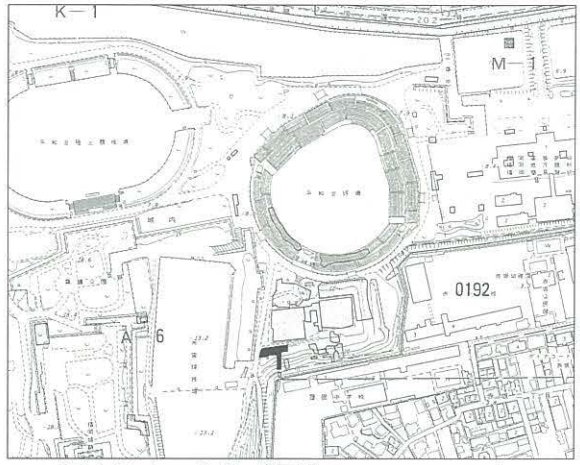
検出遺構は中世期の地下式横穴１、平安期の溝２、奈良期の土壙１、柱穴である。

土層は17世紀後半以降の土塁盛土が2～2.5m厚でみられ、その下部に江戸時代の地表土がある。この地表土下に中世後期、平安時代後期、奈良～平安時代の包含層が順次堆積している。

出土遺物　１区からは18世紀後半以降の肥前系および高取系陶磁器、２区の平安時代後期の包含層から鴻臚館式軒瓦、平瓦、丸瓦の破片を主として、越州窯系青磁、定窯白磁、新羅土器がコンテナ27箱出土。

まとめ　今回の調査で注目されるのは、奈良時代の土壙(SX865)である。ほぼ垂直に掘削し、標高8.5mの面で地山を平坦にならしている。その掘り方は既調査の塀跡(布掘遺構SB150等)に類似しており、掘削方向も一致することから、鴻臚館跡第１期遺構群(奈良時代)の外郭を画する周縁平坦面か、築地塀等の地業跡と考えられる。

調査概要を1997年刊行予定である。



1．調査地点の位置（舞鶴60K-1　1:8,000）

2．第１区の調査（南から）

3．第２区 SX865検出状況（北から）

9538　五十川遺跡群第３次調査（GJK-3）

所　在　地　南区五十川２丁目248
調査原因　共同住宅建設
調査期間　95.11.09～96.011.3
調査面積　905㎡
担　当　者　佐藤一郎
処　　置　調査後破壊

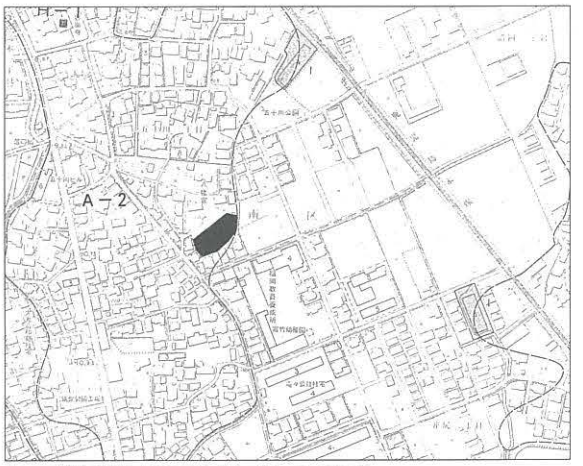
位置・環境　福岡平野を貫流する御笠川と那珂川にはさまれた洪積台地、中位段丘上の先端近くに位置する。第３次調査区は五十川遺跡群の東縁にあたり、標高9.7mを測る。

検出遺構　遺構面（鳥栖ローム）は調査区の東側では耕作土直下に、西側では厚さ約10cmの包含層をはさんで確認された。検出された遺構は弥生時代中期後半の貯蔵穴１基、弥生時代終末の竪穴住居１棟、掘立柱建物１棟、４世紀前半の土壙３基、６～７世紀の掘立柱建物数棟、８世紀の井戸１基、土壙１基、11世紀前半の土壙墓１基（土師器小皿１、越州窯青磁碗１、砥石１が埋納）、14～15世紀の溝５条、井戸１基（銅銭５出土）、土壙３基、掘立柱建物数棟の他柱穴多数である。

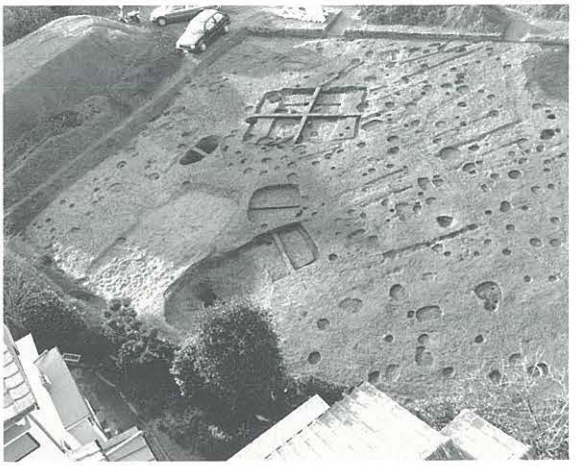
出土遺物　総量コンテナ50箱の遺物の遺物が出土した。８世紀の井戸１基からは、須恵器・土師器の椀・皿類の他、甑、甕、移動式竈片などコンテナ30箱分の土器、鉄鎌、銅鏡片が出土している。

ま　と　め　那珂・比恵と井尻遺跡群にはさまれた一連の台地上での調査である。中世に大規模な削平を受けてはいるものの、弥生時代から中世後半まで間断なく営まれていた集落の一部分を検出することができた。

なお、1998年の報告書刊行の予定である。



１．調査地点の位置（1:8,000）


２．調査区中央区（南東から）

３．土壙墓検出状況（南から）

9539　井相田C遺跡群第4次調査（ISC-4）

所在地　博多区井相田2丁目1-62
調査原因　倉庫建設
調査期間　95.11.6～96.3.1
調査面積　2,249㎡
担当者　大庭康時
処置　調査後破壊

位置・環境　御笠川中流域左岸の微高地、および小河川の流路にあたる。遺構の基盤になっているのは、旧河川上に堆積した砂質土である。

検出遺構　調査地点の南半分は、小河川の旧流路である。流路内から杭列なども出土しているが、河川埋積後に営まれた水田に伴うものであろう。

生活遺構は、調査地点北半の微高地上から検出した。柱穴・土壙・井戸・竪穴住居跡・溝などである。

柱穴には、柱根を残すものが見られた。また、掘りかたを埋めるのに、粘土を用いていた。掘立柱建物跡としてまとめたのは、5棟にとどまる。おおむね、古墳時代から奈良時代か。

井戸は、素掘りで円筒形を呈する。5世紀から6世紀に属する。埋土上部に、完形品の甕、高坏を数点埋め込んだ例もみられた（5世紀）。

竪穴住居跡の遺存状態は悪く、二棟を検出したにとどまる。ただし、これに加えて柱穴の配置から二棟を確認しており、更に数棟が存在したであろうことは推測できる。いずれも四本主柱で、柱穴出土遺物から奈良時代と思われる。

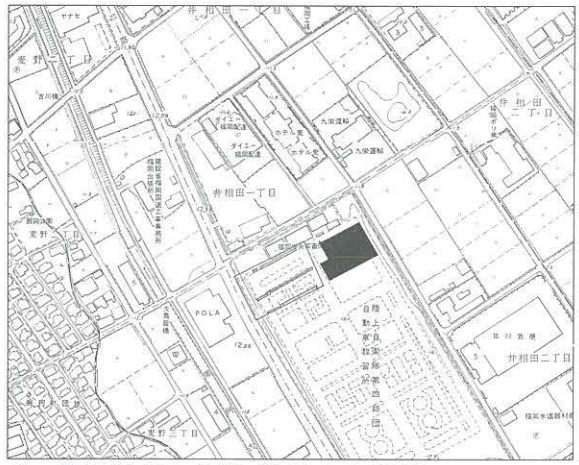
出土遺物　土器類コンテナ180箱、石器類1箱、木製品および自然遺物12箱が出土した。

土器類は、縄文時代晩期の夜臼式土器、弥生式土器、土師器、須恵器等で、旧流路からは弥生時代前期の彩文土器も数点出土している。また、須恵器の坏には内面に漆がべったりと付着したものがあり、漆器生産に関係した遺物の可能性がある。

木製品は、柱根を除いて、すべて旧流路から出土した。平鍬未製品、槽、舟形、板塔婆、曲物などで、一部中世に下るものも含んでいる。

まとめ　以上から、奈良時代を主とした集落遺跡であると考えられる。

1997年に報告書刊行。



1．調査地点の位置（012 1:8,000）

2．旧流路部分全景（北より）

3．微高地上集落部分全景（南より）

9540　松木田遺跡第２次調査（MKD-2）

所在地　早良区早良３丁目地内
調査原因　道路建設
調査期間　95.11.9～95.12.13
調査面積　318㎡
担当者　白井克也・中村啓太郎
処置　調査後破壊

位置・環境　調査地は、早良平野南部の狭隘部に位置し、早良平野を貫流する室見川の左岸、標高45mの沖積微高地上に立地する。

検出遺構　弥生時代中期から古墳時代前期にかけての生活遺構が検出された。

遺構は、弥生時代中期・古墳時代前期の竪穴住居跡５軒、土壙、井戸、柱穴などである。

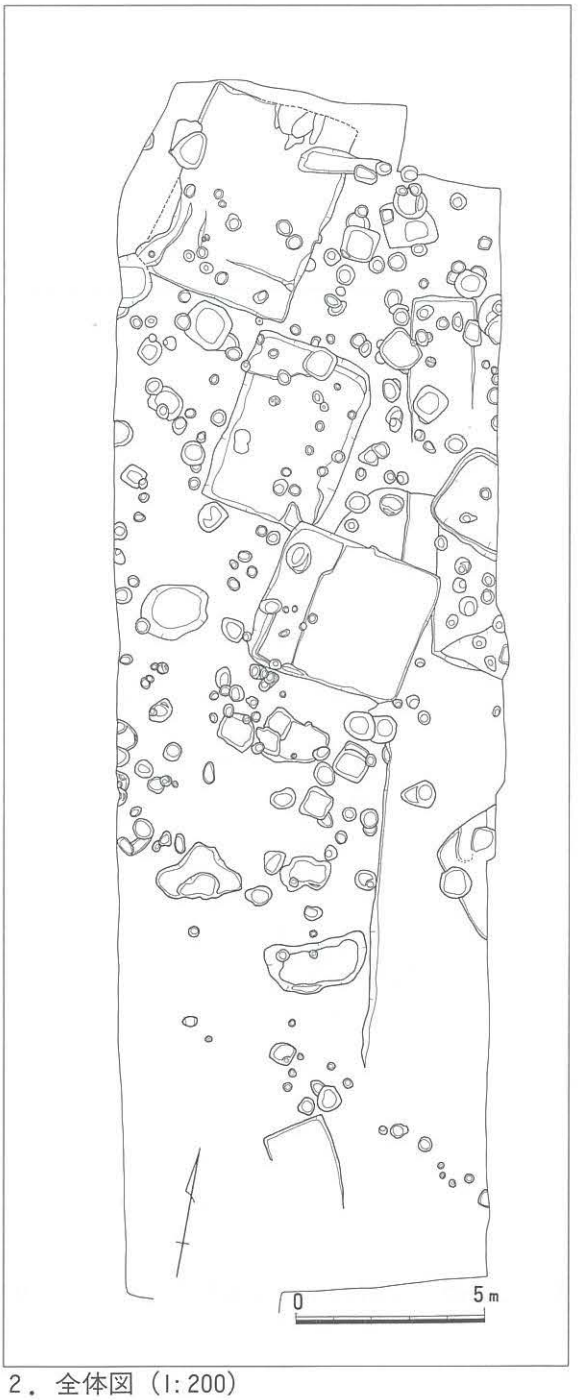
特に、古墳時代前期の竪穴住居跡であるＳＣ001は、焼失住居であり、多くの炭化した建築材とともに土師器の一括遺物が良好な組み合わせで出土した。

出土遺物　遺物は、弥生式中期土器、土師器・須恵器などの土器類を主にコンテナ10箱程が出土した。この中には古墳時代初頭の住居跡ＳＣ001の良好な一括土器がある。また、磨製石剣を再利用した磨製石鏃、石匙なども出土した。

ま と め　今回の調査では、早良平野の最も奥部(南部)で弥生時代中期および古墳時代前期の集落遺跡が検出されたことが大きな成果である。

両時代の集落はいずれも数軒を単位とする小型の集落であったと考えられ、集落として継続しない。しかしながら、各遺構より出土した遺物の構成は同時代の他の遺跡のものと同様であり、遜色は見られない。

1．調査地点の位置（1:8,000）



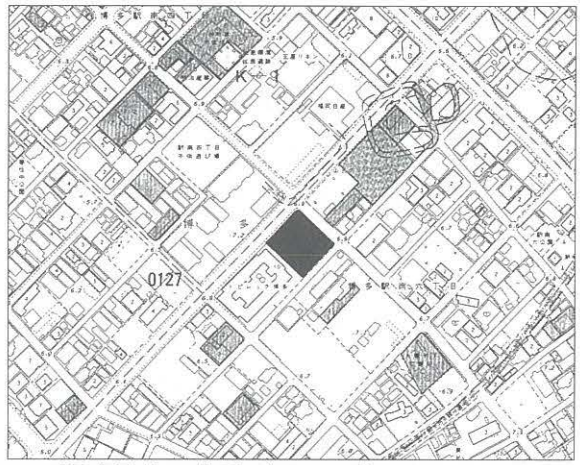
2．全体図（1:200）

9541　比恵遺跡群第57次調査（HIE-57）

所　在　地　博多区博多駅南６丁目11番4
調査原因　店舗建設
調査期間　95.11.20～96.2.23
調査面積　2,050㎡
担　当　者　長家伸
処　　置　調査後破壊

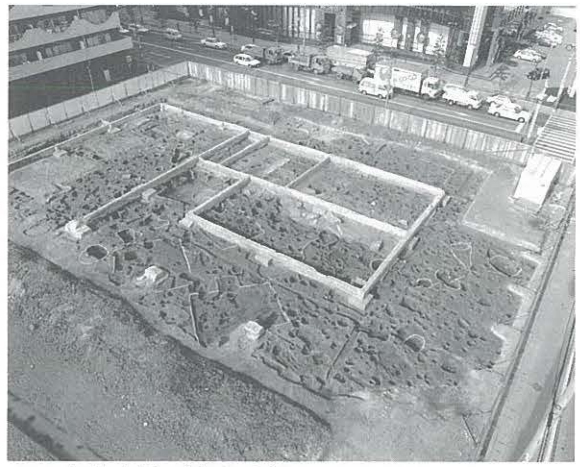
位置・環境　比恵遺跡群は福岡平野を北流する那珂川東岸部の洪積台地に立地し、調査対象地は遺跡群の南側に位置している。

弥生時代中期～中世に属する遺構・遺物を検出した。検出遺構は竪穴住居跡30棟以上・掘立柱建物２棟以上・井戸30基程度・この他土坑・柱穴が多数があり、この中から多くの遺物が出土している。調査地内は削平による遺構の欠失も多いと考えられ本来はこれ以上の遺構が存在していたであろう。



１．調査地点の位置（1:8,000）

出土遺物　主体を占めるのは弥生時代中期後半～後期の遺物である。この中では先ず柱穴から出土した辰砂をあげることができる。拳大の塊で出土しており注目される。また円形住居の周溝及び中央土坑から銅矛鋳型各１点（接合し１個体であることを確認）が出土。また青銅製品としては鋤先３点が出土している。鉄器では素材の可能性を有する板状の製品のほか袋状斧、刀子等が出土する。古墳時代の遺構・遺物も多く土師器・須恵器・鉄器等が出土している。ほかに中世の埋葬遺構１基が検出されている。龍泉窯系の鎬連弁椀・土師器皿が出土している。出土遺物総量はコンテナ192箱である。


２．北半全景（南から）

ま　と　め　以上の様に本調査で得ることの出来た成果は弥生時代を中心にして幅広い時代に渡っている。中でもピット内から出土した辰砂は類例も少なく、出土量も多いこともあり注目される。また鉄素材状の板状製品は金属学的な分析を行っていないが表面の観察では鋳造品と考えられる。鍛冶関連遺構は検出していないが鉄器製作に関連する遺物であろう。

1997年報告書刊行。

３．南半全景（北から）

9542　浦江遺跡群第４次調査（URE-4）

所在地　西区大字金武・早良区大字西入部261番地
調査原因　団地造成
調査期間　95.11.20～調査継続中
調査面積　3,500㎡
担当者　加藤良彦　大塚紀宜
処置　調査後破壊

位置・環境　本調査区は早良平野の西を画する、背振山系から北に延びる山塊のうち、西山から東に派生する舌状に開析された段丘上に位置する。標高は54～60m程である。

表土下25～80cm程で水成堆積の混土礫～粘質土の基盤層に達する。

検出遺構　96年度まで調査継続中のため遺構の全体は把握されていないが、現状で縄文～弥生時代後期の落し穴・土壙、古墳時代後期の横穴式石室墳奈良時代の５×２間以上の大型建物・焼土壙・鍛冶炉・土壙・平安時代の掘立柱建物・木棺墓溝などを検出している。

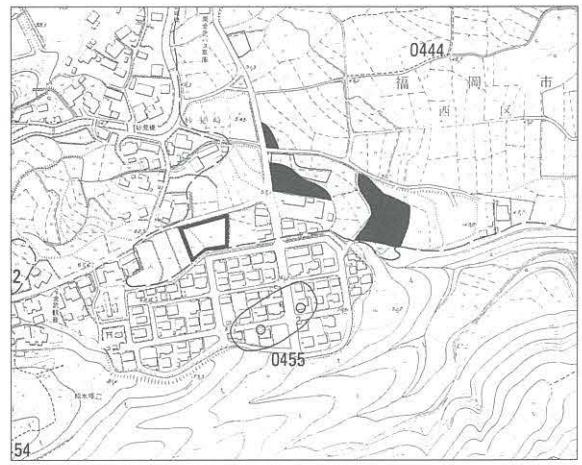
出土遺物　検出した遺物は、縄文時代の石鏃・剥片・土器小片、弥生土器片、古墳の周溝内より破砕された須恵器大甕・坏・高坏・平瓶等、土師器高坏等が出土、石室内よりⅣ～Ⅴ期の須恵器・鉄鏃・金環・水晶切小玉・管玉・滑石製勾玉・ガラス小玉・鉄滓、縄文時代晩期の磨製石斧等

奈良～平安時代の遺構からは須恵器・土師器・白磁・青磁・鉄滓が出土している。

ま と め　古墳は削平され周溝底と腰石が残るのみで、周溝底で径16mを測り、西山一体の古墳群中最大規模である。石室は全長５mの単室両袖の横穴式石室で南西に開口し丘陵稜線に沿っている。玄室は幅2.1m、長2.25mの正方形に近く、羨道は幅2.1m、長2.75mを測る。床面には扁平な川原礫を二面に敷き詰めている。最低一回の追葬がなされ、鉄滓の供献も認められる。

奈良～平安時代の遺構や包含層からも少量の鉄滓が出土している。早良平野西部の山塊沿いには下山門から内野まで多くの製鉄遺跡が確認され、北側の都地遺跡では多量の製錬滓とともに巡方が出土しており、本調査の大型建物との関連も示唆される。

調査報告書は1999年に刊行予定である。



１．調査地点の位置（1:8,000）

２．３区全景（東から）

３．１号墳石室（南西から）

9543　浦江谷遺跡群第Ⅰ次調査（UTN-Ⅰ）

所在地　西区大字金武・早良区大字西入部地内
調査原因　宅地造成
調査期間　95.11.20～調査中
調査面積　14,400㎡
担当者　加藤良彦　大塚紀宜
処置　調査後破壊

位置・環境　室見川中流域西側に広がる河岸段丘の先端部に位置し、標高40～60m。３本の尾根及び谷筋に沿って展開している。開発地区内に１～７区までの調査区を設定し、調査を行った。

検出遺構　１区：溝、柱穴、土壙等多数。奈良時代の１×２間の掘立柱建物、古墳～奈良時代と思われる住居跡を検出。

２区：甕棺墓87基、中世墓56基、焼土壙11、落穴状遺構７、他土壙多数。甕棺墓は遺存状態が良好で、中期後半のものが主。中世墓は三段の墓列を構成する。

３区：鍛冶炉１、焼土壙８、竪穴住居２。他土壙、ピット等。竪穴住居はいずれも古墳時代。また縄文晩期の土壙と包含層を検出する。

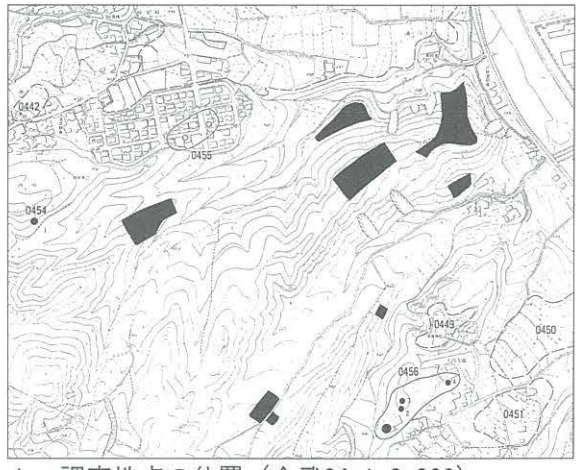
４区：古墳１、中世墓１、焼土壙15。古墳は墳丘径９m、玄室長２m、羨道長２m。６世紀末～７世紀前半。中世墓は古墳北側に隣接し、一辺2.5mの方形区画。

５区：古墳１基。墳丘径8.5m、玄室長1.6m、玄室幅1.4m。墳丘構築物として２列の外護列石を認める。６世紀末～７世紀初。

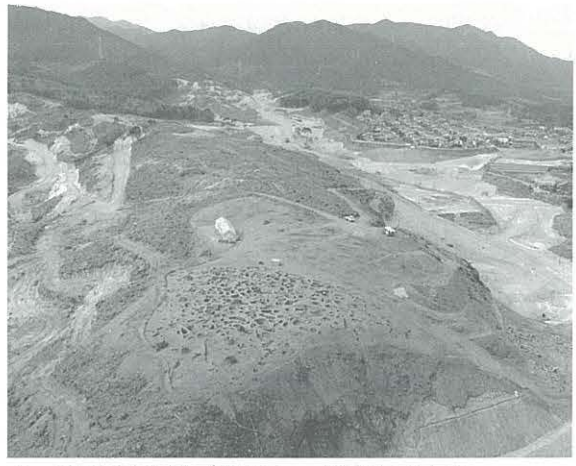
６区：古墳２、溝６、製鉄炉１、横穴式炭焼窯１。古墳はいずれも小型で終末期の様相。溝は古墳～中世。製鉄炉は箱型炉で両側に排滓壙を設ける。炭窯は斜面に直交する形で築かれ、主体部全長８m。煙道、横口を一つ設ける。

出土遺物　総量でコンテナ200箱。２区甕棺墓からは甕棺以外には副葬遺物はほとんどなし。中世墓群から多数の龍泉窯系青磁、土師器の他、湖州鏡２面が出土。５区古墳からは鉄刀、刀子等出土。６区から縄文早～前期の遺物が多く見られた。

ま と め　甕棺墓・中世墓群の調査で多くの成果が得られた。甕棺墓群は中期後半の短期間で営まれたもので、中世墓は屋敷墓的な様相が認められ、副葬品が豊富。1998年度報告書刊行予定である。



１．調査地点の位置（金武94 1:8,000）


２．調査区全景（東から・手前は２区）

３．２区甕棺出土状況

9544　博多遺跡群第92次調査（HKT-92）

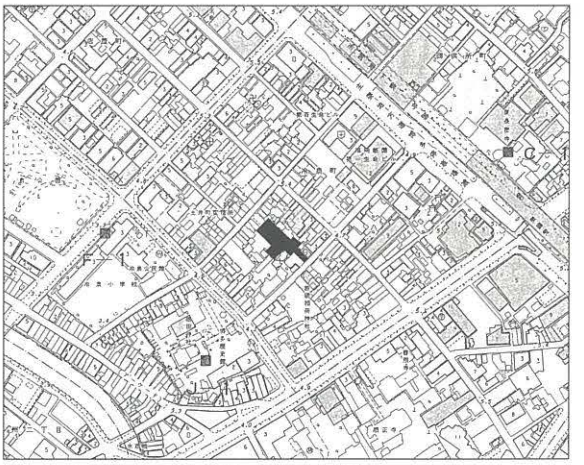
所　在　地　博多区冷泉町274他
調査原因　共同住宅建設
調査期間　95.11.17～95.11.28
調査面積　185㎡
担　当　者　山崎龍雄　池田祐司
処　　置　調査後破壊

位置・環境　調査地点は博多浜の南西部、櫛田神社の東側に位置し、標高は地表で約５ｍを測る。調査区の西側は第80次調査区で、その調査では弥生時代後期から各時代の遺構が検出されている。

検出遺構　試掘では中世の遺構面を約４ｍの深さで検出し、また設計変更で工事掘削による遺構の破壊が最小限に押さえられたので、立会調査となり杭打ち後の表土掘削時に立会した。立会調査は深く掘削する地下駐車場部分である。遺構面は地表から3.3mぐらいから確認でき、黄白色の地山面と合わせて二面で遺構を確認した。検出した主な遺構は溝、井戸、土壙である。

出土遺物　出土した遺物はコンテナ５箱である。主に井戸からの出土が多い。種類としては弥生式土器、古墳時代の土師器、中世の土師器、輸入陶磁器、などがある。中世の井戸から漆塗の鞘に入った短刀が１点出土している。

ま　と　め　西側の第80次地点と同様、古くは弥生時代からの遺構を確認した。検出した遺構の時代は12～13世紀の中世と弥生時代ごろである。ただ近世以前の遺構面は周辺の調査データーから見ても深くなり、砂丘の斜面に立地するのであろうか。1997年度に報告書刊行予定。



１．調査地点の位置（1:8,000）

２．７区全景

３．SE01検出状況

6545　博多遺跡群第93次調査（HKT-93）

所在地　博多区古門戸町83番外7筆
調査原因　共同住宅建設
調査期間　95.12.1～96.2.5
調査面積　465㎡
担当者　加藤隆也
処置　調査後破壊

位置・環境　福岡平野には南北方向に貫流する御笠川と那珂川の河川があり、博多湾岸には砂丘を形成している。砂丘には北側の「息の濱」と南側の「博多浜」に大別され、今回の調査地は「息の濱」に位置する。また、北側には元寇防塁が確認された68次調査が位置する。

検出遺構　遺構面は、現地表面から約２m剝ぎ取った灰褐色砂質土層の上面を第１面とし、40～50cmを測る灰褐色砂質土層を除去した砂丘上面を第２面として調査を行った。

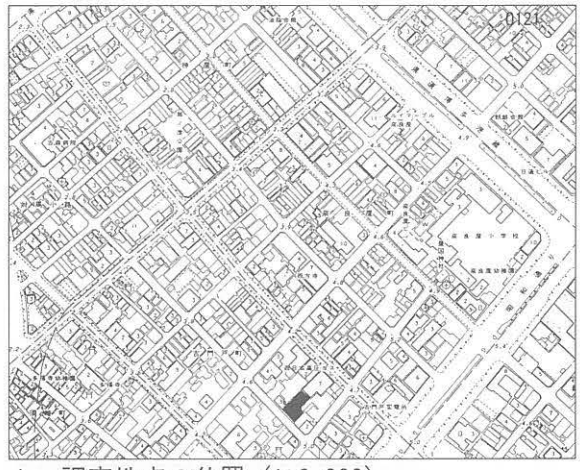
第１面は標高2.5～2.8m、第２面は２～2.4mをはかる。第１面では井戸、土坑、柱穴などを検出した。井戸においては桶、石組のものがある。また、土坑では廃棄土坑と考えられる不定形を呈するものが主体をなす。柱穴は地盤が砂質のため根石、礎石を用いるものがみられるが、建物として規模などが決定できたものは少ない。

第２面の調査においても土坑、柱穴などがみられた。

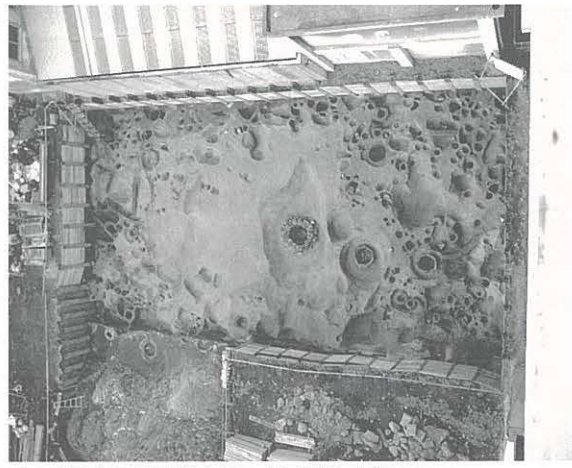
出土遺物　遺物は土師器、陶磁器、銅銭、瓦、輸入陶磁器などが出土した。もっとも遺物量が多かったのは石組井戸からのもので巴文・卍文の軒丸瓦、獣骨、鉄鏃などが出土している。

まとめ　第１面は16世紀以降のものが主体をなし、第２面は13世紀以降の遺構が検出された。第２面調査終了後、砂丘層に南北方向にトレンチを設定し、土層の観察を行った。土層の堆積状況は北側の海からの堆積がみられ、砂丘の形成と安定後の急速な都市化を裏付ける資料を得た。

なお、報告書は1997年に刊行予定である。



１．調査地点の位置（1:8,000）



２．調査区北側全景（北東から）

３．調査区南側全景（北西から）

9546　福岡城跡第32次調査（FUE-32）

所在地　中央区大名1丁目81他
調査原因　共同住宅建設
調査期間　95.12.12～95.12.27
調査面積　154㎡
担当者　瀧本正志
処置　調査後破壊

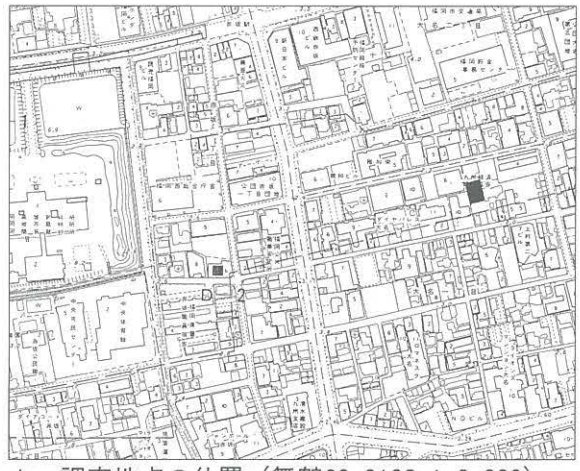
位置・環境　1601年より築城された福岡城は、赤坂山から北へ突き出した丘陵の先端部、博多湾を望む高台の地に立地する。堀は城の周囲に内堀、城から那珂川まで1.3kmの間に外堀が掘られた。外堀には、西端に赤坂門、中央に薬院門、東端に数馬門（春吉門）の三門が置かれ、赤坂門～薬院門を中堀（紺屋町堀）と呼ばれていた。中堀は、当初は素掘りの堀であったが、文化9年(1812)～同10年(1813)に能古島の石を用いて土塁石垣に改築した記録が残っている。外堀は明治後半～昭和初期に埋められて宅地や道路となり、現在では地境に堀の岸跡が推定される。調査地は、赤坂門から東へ260mに位置し、中堀南岸の存在が予想された。

検出遺構　東西方向に掘られた堀と護岸の石垣を検出した。石垣は、延長14m・高さ2.2mを検出したが、さらに調査区の外へ続いている。野面石を使用した穴太積みによる石垣の構築は、白色砂の地山を浅く地形根切りし、径25cmの松の丸太（胴木）を一列に置き、その上に根石を前上がりの状態に並べている。根石は１本で配置され、他の築石よりも大きいものの際立った差は無い。根石上にはコンテナ箱程の転石を6～7段に積む。

出土遺物　堀の底から肥前系の染付、堀の覆土からは近代の雑器などがコンテナに10箱出土している。

ま と め　本調査で、初めて中堀の位置を確認するとともに、堀の改築記録を裏付ける資料をえた。石垣の86%の石材は、記録のとおり能古島から供給可能な玄武岩、砂岩、礫岩、角閃岩であった。しかし、石垣の構築に当っては、島外産の石も多く使用され、元寇防塁の石も使用されている可能性が高い。

調査報告書は1997年に刊行予定である。



１．調査地点の位置（舞鶴60-0193 1:8,000）

２．中堀南岸石垣検出状況（北から）

３．石垣胴木検出状況（北から）

9547　大橋E遺跡群第4次調査（OOE-4）

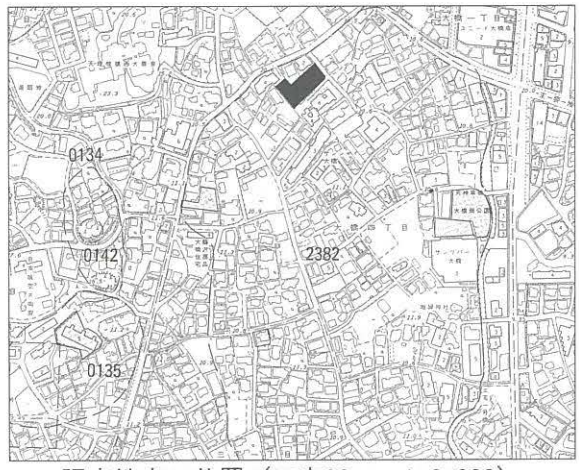
所　在　地　南区大橋4丁目629-3他
調査原因　共同住宅建設
調査期間　95.12.18～95.12.28
調査面積　530㎡
担　当　者　中村啓太郎・白井克也
処　　置　調査後破壊

位置・環境　大橋E遺跡の北端近く、標高約10mに所在する。三宅廃寺推定地の東北400mにあたる。地山は黄色シルトである。

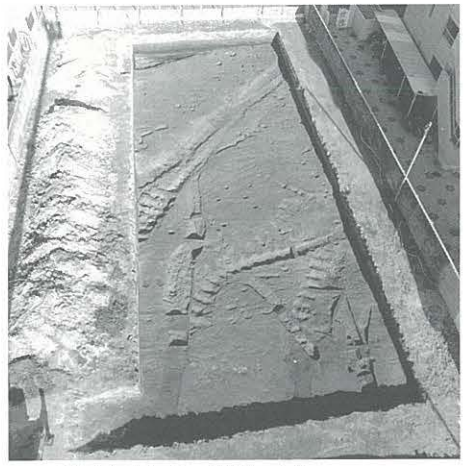
検出遺構　縄文時代　　旧河川1条
古代（7世紀頃）溝状遺構及び畝状遺構12条
（道路状遺構を構成するらしい）
生活関連遺構がまったくみられないことが特徴である。

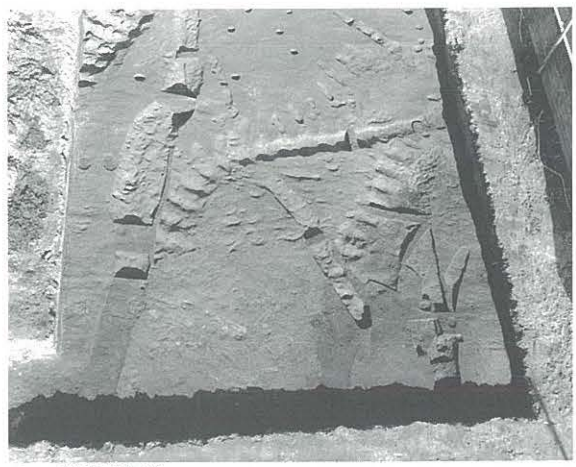
出土遺物　・縄文時代　石器（石鏃、石匙、打製石斧）
縄文式土器
・古代　　須恵器、土師器
計コンテナ2箱分出土した。

ま　と　め　溝状遺構、畝状遺構の形態、溝状遺構の並走関係、その遺構の組合せから2条の道路が復元できる。単独の畝状遺構も道路関連遺構の可能性が強い。
道路状遺構は、いずれも正方位を指さず、湾曲することから、主要な官道ではあるまいが、水城、鴻臚舘を結ぶルートや三宅廃寺と至近の位置にあり、それらに関連する支道の可能性がある。
調査報告書は1996年に刊行予定である。



1．調査地点の位置（三宅39-　1:8,000）


2．調査区全景（西から）


3．道路遺構

9548　次郎丸高石遺跡第４次調査（JRT-4）

所　在　地　早良区次郎丸1丁目61-4
調査原因　自宅兼共同住宅
調査期間　96.1.8～96.1.20
調査面積　155㎡
担　当　者　菅波正人
処　　置　調査後破壊

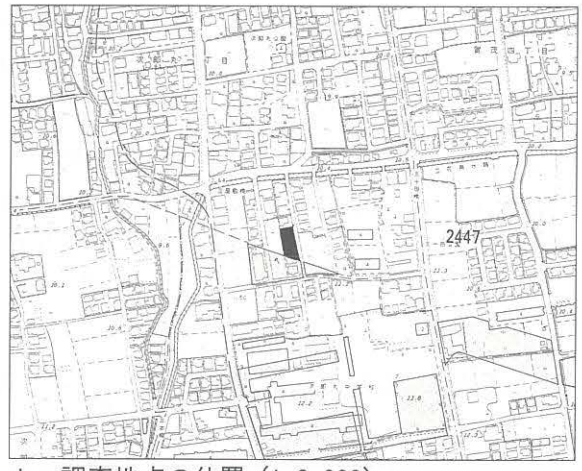
位置・環境　本遺跡は室見川と金屑川の間の沖積微高地上に位置する。標高10.5mを測る。調査区の南側隣接地は外環状線建設に伴って調査が行われている。調査は約90cmの客土、旧耕土を除去した暗黄褐色粘質土を遺構面として行った。

検出遺構　遺構は弥生時代から古墳時代の掘立柱建物２棟、弥生時代から中世の柱穴を検出した。今回の調査では200余りの柱穴を検出したが、建物として復元できたのは２棟である。

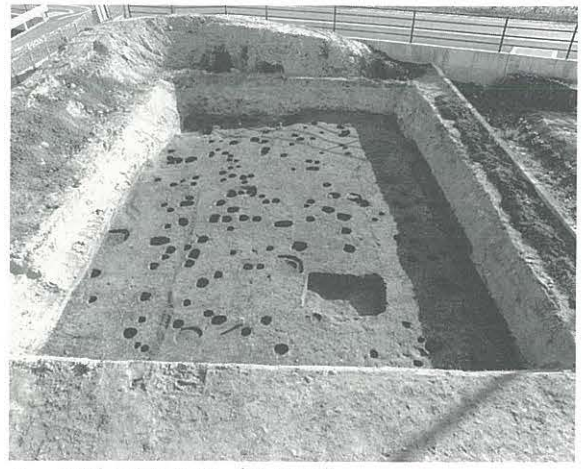
出土遺物　遺物は柱穴から弥生土器、土師器等が出土した。（ コンテナ　１箱）

ま　と　め　今回の調査では弥生時代から中世の建物、柱穴を検出した。これまでの調査でも該期の遺構、遺物が検出されており、室見川と金屑川の間の微高地上に集落が形成されたと考えられる。

1997年度報告書を刊行する予定である。



１．調査地点の位置（1:8,000）


２．調査区西全景（北から）

３．次郎丸高石遺跡第３次調査全体図（1/200）

４．調査区東半全景（北から）

9549　谷上古墳群B-1号墳第1次調査（TNK-B-1-1）

所在地　西区今宿上ノ原字イヤゾノ
調査原因　重要遺跡確認調査
調査期間　96.1.9～96.2.29
調査面積　80㎡
担当者　菅波正人、白井克也
処置　調査後保存

位置・環境　谷上B-1号墳は高祖山から北に派生する舌状の丘陵上に位置する。平野にせりだした丘陵の先端には今宿大塚古墳、山の鼻1号墳、若八幡古墳等の前方後円墳が築造される。本墳は相原古墳群、谷上古墳群等の群集墳に囲まれる、標高73～78mの丘陵尾根上に立地する。

検出遺構　本墳は主体部に横穴式石室をもつ前方後円墳である。墳丘の主軸方位はN-7°-Eをとり、前方部を尾根の先端に、後円部を尾根の上方に配置する。墳丘の全長約37m、後円部径約20m、墳丘高約3mを測る。

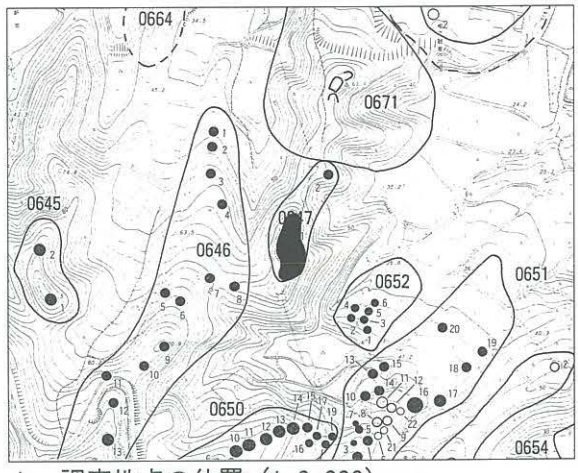
石室は単室両袖型の横穴式石室である。主軸方位はN-14°-Wをとり、前方部の向きと反対の南側に開口する。天井石は既に抜き取られ、側壁の一部も崩落している。平面形は幅広の羽子板形を呈し、玄室長2.6m、奥壁幅2.2m、袖石側の幅1.6mを測る。玄室内は撹乱が著しく、敷石も一部残るのみである。遺物も原位置を留めるものはほとんど無い。

玄室には長さ1m程の前庭部がつく。平面形はハの字形を呈し、側壁に転石を積み上げる。鋤崎古墳以来の石室の形態を踏襲している。

閉塞部は最終埋葬時の状態で遺存している。閉塞石は高さ80cm程の一枚石を用いる。閉塞石の前面は粘土と礫で覆い、前庭部と共に埋め戻している。閉塞部の土層観察から1回の追葬があったと推測できる。前庭部の前面の墳丘斜面で破砕された須恵器が出土した。

出土遺物　遺物は玄室から太刀、鉄鏃、轡、鞍金具、管玉等が、墳丘から須恵器坏、高坏、器台等が出土した。（コンテナ2箱）

まとめ　今回の調査では谷上B-1号墳の時期、規模、主体部の状態が確認できた。古墳の築造時期は出土遺物等から6世紀前半から中頃と考えられる。1996年度報告書を刊行する。



1．調査地点の位置（1:8,000）

2．後円部墳丘（南から）

3．玄室奥壁（南から）

9550　雑餉隈遺跡群第８次調査（ZSK-8）

所在地　博多区新和町1丁目7
調査原因　共同住宅建設
調査期間　96.2.2～9.3.27
調査面積　395㎡
担当者　宮井善朗
処置　調査後破壊

位置・環境　雑餉隈遺跡は福岡市の最南端、春日市との境界付近に位置する。立地としては須玖丘陵の北東に伸びる台地の上に当たり、遺構面は鳥栖ロームである。５次調査と同一事業地内で、その南側にあたる。調査時にはまだ居住者のいる建物がある関係上、全面発掘ができなかった。

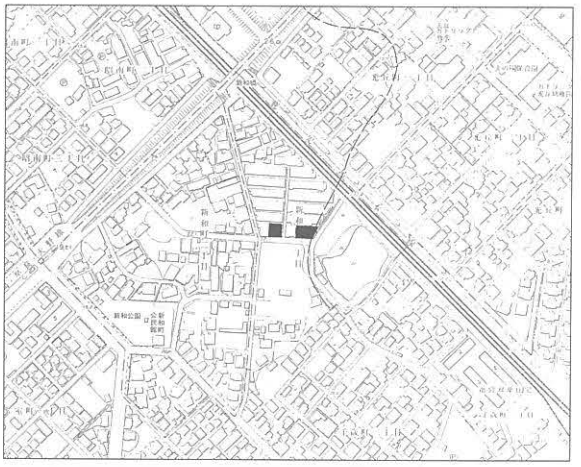
検出遺構　今回調査でも、５次調査と矛盾するような内容の遺構、遺物は検出されていない。検出遺構は竪穴式住居５基、溝２条、土壙３基、ピットなどである。住居はいずれも奈良時代に属する。北側ないし東側にかまどを持つ。住居跡では、住居跡10と、住居跡11の間に切合いが見られ、10の方が新しい。溝は２条とも浅く、性格は不明ながら、溝８は住居跡10、11を切る。この溝は５次調査区から延長50mにわたって伸びる溝である。

５次調査で多く検出された弥生時代遺構は、今回は検出されなかった。５次調査でも弥生時代遺構は北側に多く見られたので、南側では希薄になるのであろう。

出土遺物　出土遺物は総量でコンテナ８箱である。住居跡出土の遺物は、土師器、須恵器がほとんどである。

ま と め　８次調査では奈良時代の住居跡の検出により、５次調査と合わせ、住居跡総数は56基となった。また近年この周辺の麦野遺跡群、南八幡遺跡などの調査では、どこを掘っても奈良時代竪穴式住居に当ると言っても過言ではない。これらの調査成果から、該期の景観復元を行い、集住の背景に迫るのが今後の課題である。

なお報告書は1997年度刊行予定である。



１．調査地点の位置（1:8,000）

２．Ⅰ区・Ⅱ区全景

３．住居跡７（東から）

9551　博多遺跡群第94次調査（HKT-94）

所在地　博多区御供所町11-10
調査原因　納骨堂建設
調査期間　96.2.6～96.7.3
調査面積　568㎡
担当者　佐藤一郎
処置　調査後破壊

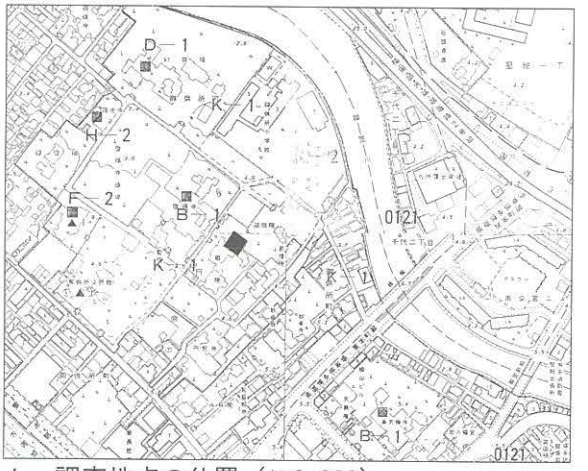
位置・環境　調査地は博多浜の東端部に位置し、標高4mを測る。13世紀前後に創建された日本最古の禅宗寺院聖福寺の東に隣接する。かっては子院であった順心寺境内に当たる。現況の納骨堂が建つ以前は墓地であった。基本的な層序は撹乱層直下の褐色砂質土14､5世紀、黒色砂7世紀前半の遺物を含む。灰褐色砂弥生時代中期の遺物を含む。

検出遺構　・近世墓88基。18世紀前半を中心とした時期。そのほとんどは甕（かんおけがめ）を用いる。肥前系磁器・煙管・鋏・毛抜・六道銭を副葬。

・溝5条。ほぼ平行に走る現在の聖福寺伽藍の中軸に直交する溝で、寺域を限る溝の一部とみられる。SD103/130→SD102/101→SD100の順に掘削されている。それぞれ延長 21m検出した。ＳＤ101は検出された溝の中では最も規模が大きく幅2.5m、深さ1.4mを測る大溝である。遺構の時期は出土遺物からSD100が15世紀後半～16世紀前半、SD101/102が15世紀前半､SD103/130は14世紀後半と推定される。

出土遺物　遺物の総量はコンテナ730箱である。溝から出土した遺物の70％は瓦片である。瓦当文様は軒丸瓦が三つ巴の周囲に連珠文、軒平瓦は宝珠の中心飾りの左右に均整唐草文を配したものが大半で､(櫛) 田宮と記したものもある。SD102からは土師器、瓦質土器鉢、備前焼擂り鉢、明代前半の龍泉窯青磁等や朝鮮王朝青磁片が出土。

まとめ　現在の聖福寺伽藍の中軸に直交する大溝が検出されたが、1558年以前に描かれたとされる聖福寺古図中にみられる寺域の三方を限る堀の一部と考えられる。溝出土の多量の瓦や国内では出土例が少ない明代前半のまとまった量の陶磁器は、日明貿易に関わった寺院の繁栄を如実に示している。なお、報告書は1999年に刊行予定。



1．調査地点の位置（1:8,000）

2．Ⅰ層上面調査区全景（北から）

3．溝検出状況（北西から）

9552　徳永A遺跡群第4次調査（TKA-4）

所在地　西区大字徳永字松尾678-1.678-2
調査原因　道路改良
調査期間　96.2.5～96.3.28
調査面積　300㎡
担当者　屋山洋
処置　調査後破壊

位置・環境　徳永遺跡群は糸島平野と早良平野に挟まれた今宿平野の西端に位置する。遺跡は高祖山から北に延びる丘陵の先端部に近く、樹枝状に分かれたやせ尾根の間の幅20～30m、長さ100m程の谷の北端に位置する。調査区は標高22.8m～18.0mを測る。

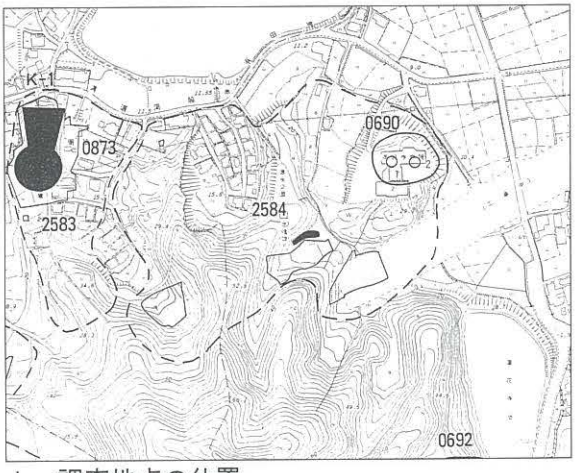
検出遺構　古墳時代: 竪穴式住居 4軒
古代　: 掘立柱建物3軒
時期不明: 溝　数条

竪穴式住居は標高21.8mから19.6mに位置し、主柱穴は4 本で壁溝を巡らす。遺存状況は悪いが、貼床や竈の痕跡が見られ、時期は古墳時代中期～後期と思われる。掘立柱建物は3軒のうち2軒は総柱の建物で柱穴の掘方は60～100㎝を測る。柱痕跡も20㎝近い。竪穴式住居を切っていることや第2次調査III区の掘立柱建物群と等高線上に並び規模もほぼ同じであることから6世紀～7世紀前半と思われる。調査区西端盛土遺構では固く焼いた焼土面を確認した。祭祀の可能性も考えられる。

出土遺物　遺物の総量はコンテナ5箱である。大半は東側谷部からの出土で、竪穴式住居及び掘立柱建物からの出土は少ない。西端の盛土遺構から5世紀後半～6世紀の須恵器や径1㎝程の土玉が出土した。調査区東端の谷では5世紀後半～6世紀の土器と共に滑石製の有孔円盤が出土している。

まとめ　南北をやせ尾根に挟まれた古墳時代中～後期の小集落である。古代には谷の埋没が進み、その上から掘立柱建物を建てている。竪穴式住居にも切合いがみられ、その後掘立柱建物が建てられるなど、ある一定期間集落が継続して営まれた可能性が考えられる。

報告書は1998年刊行予定である。



1．調査地点の位置

2．全景

3．掘立柱建物

9553　那珂遺跡群第55次調査（NAK-55）

所在地　博多区竹下５丁目379番・380番・383番　**調査面積**　530㎡
調査原因　共同住宅建設　**担当者**　加藤隆也
調査期間　96.2.13～96.3.28　**処置**　調査後破壊

位置・環境　調査地は那珂遺跡群の南端に位置し、遺構は表土直下の鳥栖ローム上面にて検出された。遺構面は南側に緩やかに傾斜しており、標高は7.2～7.7mを測る。

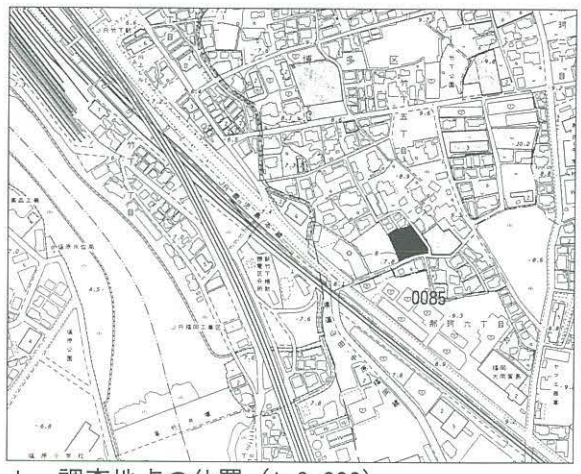
検出遺構　検出遺構には溝、井戸、土壙、土壙墓、掘立柱建物、ピットなどがある。溝は東西方向をとる６世紀のもので調査区の東側に隣接する第22次調査検出の溝と同一遺構である。この溝は今回の調査において最も時期的に遡る遺構である。井戸は１基のみで古代末から中世のものである。土壙墓と考えられるものは３基あり、長辺２～３m、短辺1.1～1.7mの長方形平面プランをもつ。700穴を越えるピットがみられ、うち400穴から遺物が出土している。

出土遺物　古墳時代の須恵器・土師器が溝・土壙から出土している。調査区南側の遺物包含層からは奈良時代の土器とともに瓦片が数点みられる。井戸からは瓦器椀、土師小皿をはじめ獣骨などもみられた。土壙墓からは良好な遺物は出土していない。

ま と め　今回の調査において東隣地の第22次調査地点からつづく６世紀後半の東西方向の溝が検出された。この溝は台地の端を画する性格をもっていたと考えられる。調査区北側にひろがるピット群は溝と同時期のものからはじまり、古代、中世、近世と長期間居住域として安定した土地であったことが伺える。

弥生時代の遺構が多く残る那珂台地上の調査であったが、弥生時代の遺構は確認されなかった。

なお、報告書は1997年に刊行予定である。



１．調査地点の位置（1:8,000）

２．調査区全景（東から）

３．調査区東側全景（西から）

9554　博多遺跡群第95次調査（HKT-95）

所在地　博多区店屋町8-10
調査原因　自宅兼医院建設
調査期間　96.3.1～96.6.25
調査面積　428㎡
担当者　吉武学　加藤隆也
処置　調査後破壊

位置・環境　博多遺跡群を構成する砂丘である博多浜と息の浜の接合部に位置し、博多浜の北辺にあたる。周辺の調査から、砂丘が急傾斜で海岸へ落ちる地点と予想され、博多浜から息の浜への都市域の拡大を考える上で重要な地点と見られる。

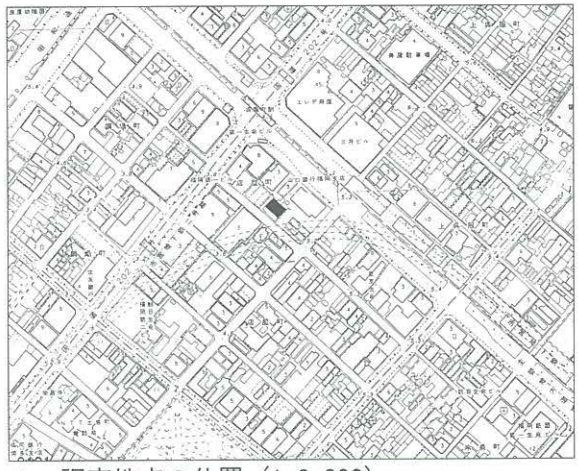
検出遺構　1～3面で15、16世紀後半にかけての道路を検出した。調査区東側を南北に走る幅約4m、幅50cmの側溝を有するのもある。3面では道路とともに桶組井戸、集石遺構（建物基礎）、土壙、柱穴などを検出した。4面下の状態確認のため掘削をした結果泥炭層中に、幅15cm前後、長さ1.5m前後の矢板列、それより小振りの板材を網代に組んだ遺構を発見した。これらの遺構は区画をなし、湿地への屋敷の拡大を示すものであろう。切り合いがあり単一時期ではない。

出土遺物　遺物はコンテナ175箱である。14～16世紀後半にかけての輸入陶磁器（明代染め付けを含む）、国産陶器、銅銭、鉄器等がある。泥炭層からは14世紀の土器や陶磁器類の他に木製品の出土が注目される。漆器椀などの容器や箸などの食器類をはじめとして下駄、枕等多種、多様な木製品に加え、残渣物の獣骨や魚骨、更には文字資料も出土している。

ま と め　検出した道路は太閤町割り以前の博多の基幹道路で室町時代の都市博多を復元する上で貴重な発見となった。

泥炭層の調査での矢板、網代による区画の発見は中世都市博多の拡大を示すとともに当時の土木技術が高度であったことを窺わせる。この区画内には多量の木製品や獣骨等が出土しており、当時の庶民の食生活をはじめとする日常生活を復元する上で貴重な資料といえる。

1997年度に報告書刊行予定である。



1．調査地点の位置（1:8,000）

2．第3面　遺構検出状況（東から）

3．網代・矢板列検出状況（北西から）

9555　広石南古墳群A群Ⅰ次調査（HIM-A-Ⅰ）

所　在　地　西区大字今宿青木1041-1
調査原因　道路改良
調査期間　96.2.14～96.9.12
調査面積　1,300㎡
担　当　者　中村啓太郎　屋山洋
処　　置　調査後破壊

位置・環境　広石南古墳群は背振山から派生した山塊が叶岳・長垂山に延びる丘陵上に位置する。古墳群の北側には古来から早良平野と今宿平野を結んでいた交通路が走る谷筋が東西に走っている。

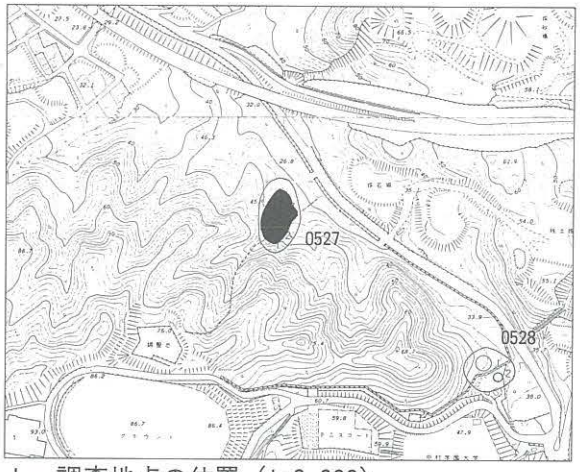
本古墳群はこの谷筋に向かって北東側に傾斜した痩せ尾根に挟まれた谷部に位置する。

検出遺構　古墳時代：円墳　5基
近世以降：焼土坑　3基

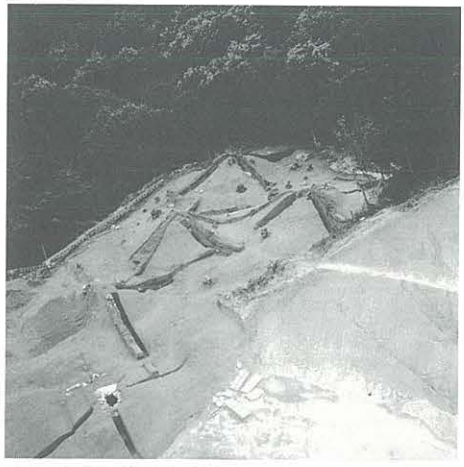
埋没した谷部の非常に狭い範囲に5基の円墳が位置している。径はいずれも10m程度である。工事による削平や盗掘で2基は天井石が一部動いていたが、3基は墳丘の遺存状況も良好である。石室は全基北東側に開口しており、それから墓道が延びている。墓道の遺存状況も良く、底面から遺物が多く出土し、追葬等の時期が判明するものもある。石室は全基盗掘を受けていたが、4号墳は羨道部が盗掘をうけておらず、豊富な遺物が出土している。

出土遺物　遺物の総量はコンテナ40箱で、大半は墳丘上と墓道から出土した須恵器である。各墳丘上には須恵器の大甕が埋置されており、それに耳環を伴うものもあった。墓道からはかなり多くの須恵器の坏や高坏が出土したが、これらは追葬時に石室内の遺物を捨てたものと思われる。石室は盗掘をうけており少量の土器とガラス玉・鉄片等が出土しているだけだが、4号墳羨道からは翡翠勾玉・鍛冶具・金銅製飾り金具・鉄鏃・太刀等が出土した。

ま　と　め　本古墳群は非常に狭い範囲に裾を切り合うように群集している。墳丘径は15m程あるように見えるが裾部は地山の削り出しで盛土は10cmに満たない。時期は6世紀後半から7世紀半ばと思われる。遺物も特色があり、盗掘を受けたのが惜しまれる。1999年に報告書刊行予定。



1．調査地点の位置（1:8,000）


2．全景（西から）

3．4号墳羨道遺物出土状況

9556　那珂遺跡群第56次調査（NAK-56）

所　在　地　南区五十川1丁目13-1
調査原因　工場・倉庫建設
調査期間　96.3.1～96.3.18
調査面積　297㎡
担　当　者　大庭康時
処　　置　調査後破壊

位置・環境　那珂川と三笠川にはさまれた低丘陵上に分布する那珂遺跡群の、南西端近くに位置する。

平成４年度に縄文時代晩期の二重環濠が発見された那珂遺跡群第37次調査地点とは、西に100m程隔たる。

検出遺構　大規模な削平が行われており、遺構の遺存状況は、かなり悪かった。大多数の遺構が、すでに失われたものと思われる。

遺構としては、奈良時代前後の柱穴と、中世の溝を検出した。

奈良時代の柱穴からは、南北方向に軸を取った掘立柱の柱列が七間以上続いているのを確認した。南北とも、調査区外にのびる可能性がある。また、これに約５mの間隔をおいて対応する柱穴列を検出しており、大規模な掘立柱建物跡が存在したと推測される。この他、掘立柱建物跡２棟以上が復元できた。

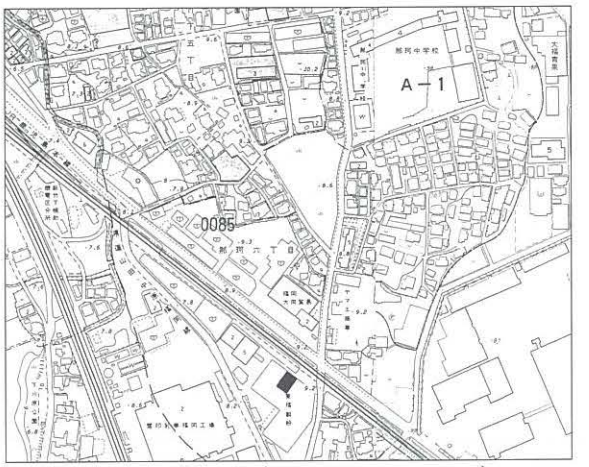
中世の溝は、掘り直しがある様で、13世紀前半にまず掘られた後、15世紀後半から16世紀にかけて、再び掘り直されたものと考えられる。

出土遺物　遺物は少なく、コンテナ５箱、標本箱１箱（石器類）が出土したにすぎない。弥生式土器・土師器・須恵器・輸入陶磁器・国産陶磁器・中世土師器などが出土した。

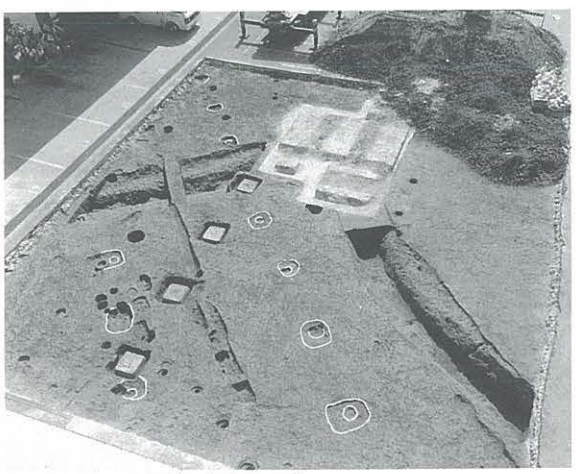
ま　と　め　弥生時代の遺物に関しては、遺物の出土はあったが、遺構は検出できなかった。削平されたものと思われる。

奈良時代の大型掘立柱建物跡については、調査区内ではその規模を確認できなかった。北東側にあたる第37次調査では、同時期の東西棟の掘立柱建物跡が検出されており、周辺に奈良時代の建物群が展開したものと推測される。

中世の溝は、居館（屋敷）を巡る堀の一部であろう。1996年度に報告書刊行予定。



１．調査地点の位置（038-0085　1:8,000）


２．調査区全景（北より）

３．中世溝土層断面

9557　那珂君休遺跡第5次調査（NKR-5）

所　在　地　博多区那珂4丁目310
調査原因　共同住宅建設
調査期間　96.3.1～96.3.26
調査面積　680㎡
担　当　者　松村道博
処　　置　調査後破壊

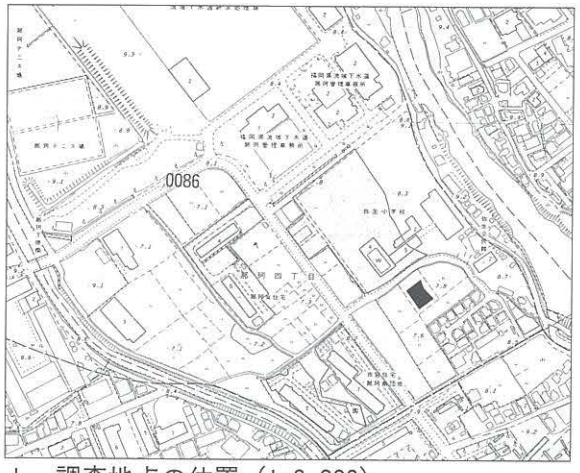
位置・環境　那珂君休遺跡は福岡平野を北流する御笠川の西岸の冲積地に占地する。道を挟んでその北東部は昭和58年、弥生小学校建設に伴って調査され、さらに西側も団地建設に伴って調査が実施している。小学校の調査では幅30mの自然河川に設けた井堰や古墳時代の水田跡、また団地の調査でも古墳時代の水田や水路、それに伴う祭祉遺構などが検出されている。

検出遺構　今回の調査でも小学校から続く水田の跡を検出した。水田面は砂層で覆われていたが調査区の南東部には砂層が欠落しているところがありその部分では水田跡を検出出来なかった。不明瞭な在り方ではあったが計14枚の水田を検出したが1枚の面積を計測できるものは少なく、その中で一枚だけは計測可能で、その広さは58㎡である。平面の形態には統一性がなく台形に近いものや、長方形、あるいは自然地形に沿った不整形など変化に富む。畦畔は地山削り出しで幅30～50cmである。水田面は南側から北側へ緩やかな傾斜を示す。

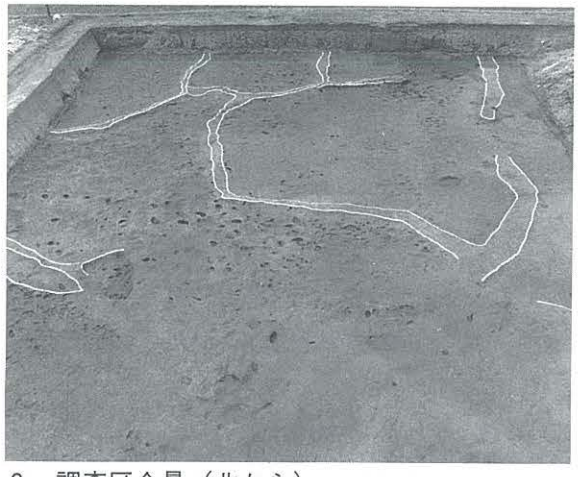
出土遺物　遺物は遺跡の性格上、極めて少ない。水田面から実測不可能な土師器小破片や砂層の上層から土師器や李朝白磁などが少量標本箱1箱分出土している。

ま　と　め　今回の調査では時期を決定する遺物は出土しなかったが周辺の調査結果から古墳時代前期と考えられよう。東隣も今年度調査が実施しており、同様な水田跡が検出されており、かなり広い地域に水田が展開していたものであろう。

1997年に報告書刊行予定である。



1．調査地点の位置（1:8,000）


2．調査区全景（北から）

3．調査区北側全景

9558　天神森遺跡群第４次調査（STM-4）

所　在　地　博多区下月隈484番1、2
調査原因　店舗建設
調査期間　96.2.15～96.3.13
調査面積　203㎡
担　当　者　長家伸
処　　置　調査後破壊

立地・環境　天神森遺跡群は福岡平野の東側を画す、丘陵の西側斜面上に立地する。調査対象地は平成６年度に都市計画道路福岡空港線建設に伴い第３次調査が行われた地点に隣接している。

検出遺構　この第３次調査では弥生時代前期～中期の甕棺墓・土坑墓が40基以上、奈良時代～中世の生活遺構が検出されている。

本調査地点は住宅建設時の造成により既に丘陵部分が削られており、その時点で多くの遺構が失われた可能性が高く、撹乱土坑から甕棺の破片が多く出土していることからもそのことを伺うことができる。

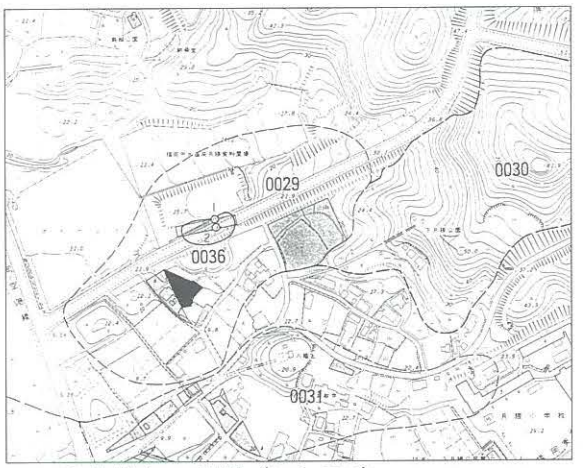
弥生時代　甕棺墓３基
中世　土坑
時期不明　土坑墓１基

甕棺墓は金海式に位置づけられるもので削平によりその多くを欠失している。また撹乱からの甕棺破片出土からもこれ以外に甕棺が存在していたことは想像に難くない。３次調査検出の甕棺墓群同様に等高線に沿って列状を示すように配列されていたのであろうか。

出土遺物　出土遺物は甕棺のほか土師器・須恵器・陶磁器の小破片があるが、殆どが遺構に伴うものではなく撹乱土坑からの出土である。遺物総量はコンテナ13箱。

ま　と　め　今回の調査では丘陵最上段部分にも甕棺墓が発見されたことにより、弥生時代には丘陵端部全体が墓地として利用されていたことが判明した。今後月隈丘陵の土地利用を考える上で貴重な成果を上げることができた。

1997年報告書刊行予定。



１．調査地点の位置（1:8,000）

２．全景（南から）

３．甕棺出土状況（東から）

9559　博多遺跡群第96次調査（HKT-96）

所　在　地　博多区川端町2番他
調査原因　市街地再開発ビル
調査期間　96.2.13～96.5.12
調査面積　1,080㎡
担　当　者　小林義彦
処　　置　調査後破壊

位置・環境　調査地は、ふたつの古砂丘からなる博多遺跡群の北西部、博多湾に面したいわゆる「息の浜」の南西縁にあたり、その南域には西から湾入する浅い潟が拡がっている。現況は宅地である。

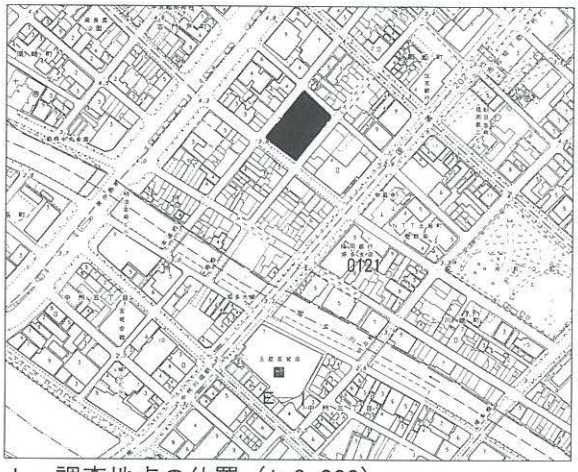
検出遺構　室町時代から江戸時代までの遺構があり、調査区の東側では上下２面に亘って検出された。

室町時代；掘立柱建物　土壙　溝　杭列
江戸時代；土壙　井戸跡　柱穴　甕棺墓
　　下水道施設　護岸石積跡　杭列

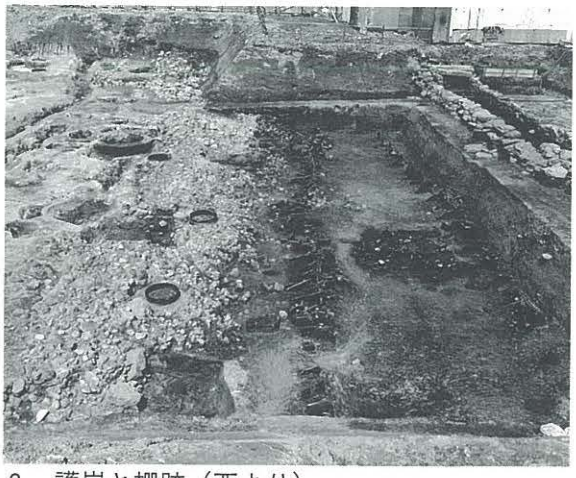
下水道施設は、入定寺と本岳寺の間から湊橋まで通る溝で、「筑陽記」に云う「博多大水道」で、18世紀初頭の築造と考えられる。この「博多大水道」は明治33(1880)年に石蓋で覆って道路として改修されている。一方、護岸跡は西方の第89次調査区から続くもので、より堅固に構築されていた。石積みは基底面に大きめの転石を浜に沿って積み上げ、その上面に小さめの円礫を密に積み上げる二層的な構造をなしていた。更に石積み護岸の前面には埋め立てに伴う柵（しがらみ）が４～５mの間隔を置いて構築されていた。柵は丸太と竹を杭として打ち込み、その間に竹材を横方向に密に組んでいた。

出土遺物　土壙や溝から土師器や肥前焼等の陶磁器がコンテナ105箱出土したほか、漆器や曲げ物、箸等の木製品、青銅製の煙管や飾り金具、釘や留金具等の鉄製品、人形や土鈴等の土製品、石鍋や獣骨が出土している。

ま　と　め　第96次調査で検出した護岸跡は、西方の第89次調査区から東方の第29次調査区へと繋がるもので、その堅固な構造と埋め立て工法の解明は湾入する入海や浜を埋め立てて膨張する「都市博多」の街の機能と形成課程を知る資料であり、同時に文献に記された史実を裏付ける貴重な資料でもある。1998年度に報告書刊行予定。



１．調査地点の位置（1:8,000）


２．護岸と柵跡（西より）

３．竹帚・簾の出土状況（東より）

9560　南八幡遺跡第７次調査（MHM-7）

所在地　博多区元町1丁目20-2
調査原因　共同住宅建設
調査期間　96.3.4～96.3.18
調査面積　181㎡
担当者　宮井善朗
処置　調査後破壊

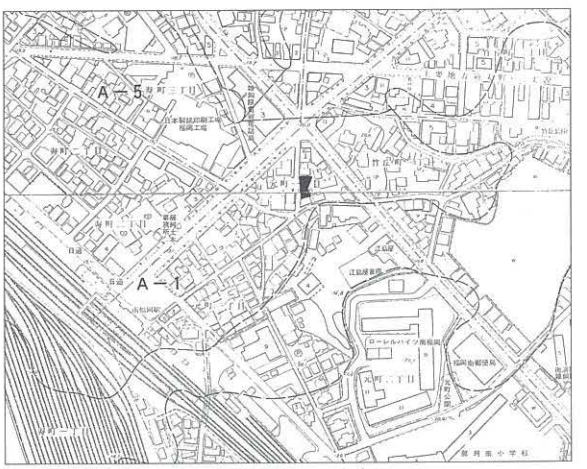
位置・環境　南八幡遺跡は福岡市の最南端、春日市との境界付近に位置する。立地としては須玖丘陵の北東に伸びる台地の上に当たり、遺構面は鳥栖ロームである。南八幡遺跡では、６次にわたる調査の結果、弥生時代から奈良時代の集落が検出されている。

検出遺構　今回調査で、検出した遺構は竪穴式住居３基(内１基は疑問)、土壙２基、ピット等である。住居はいずれも奈良時代に属する。住居跡１は西側にかまどを持つ。住居跡４は他の住居に比べ、極めて浅く、住居としてよいか疑問である。２基の土壙はいずれも方形で、住居跡に切られる。遺物はほとんどなく、時期、機能とも不明である。

出土遺物　出土遺物は総量でコンテナ12箱である。住居跡出土の遺物は、土師器、須恵器がほとんどである。とくに住居跡１からの出土が多く、住居跡１だけで10箱を占める。

ま と め　近年この周辺の、麦野遺跡群、雑餉隈遺跡などの調査では、どこを掘っても奈良時代竪穴式住居に当ると言っても過言ではない。これらの調査成果から、該期の景観復元を行い、集住の背景に迫るのが今後の課題である。

なお報告書は1996年度刊行予定である。



１．調査地点の位置（1:8,000）

２．１号住居跡（北から）

３．１号住居跡カマド（東から）

9561　福岡城－塩見櫓・土塁－（FUE-33）

所在地　中央区城内18-2
調査原因　史跡整備
調査期間　96.3.1～96.3.29
調査面積　500㎡
担当者　力武卓治　田中壽夫
処置　埋め戻し保存

位置・環境　福岡城は、筑前国黒田藩の居城として1601年より築城が始まった。当時の様子を詳しく伝える貝原益軒の「筑前国続風土記」によると博多湾を弧状に巡る海岸線のほぼ中央に南側の赤坂山から丘陵が伸びており、福崎と呼ばれたこの地を中心に約80万㎡にわたって縄張が行われた。博多湾に向かって羽を広げ飛び立っているようなその姿から、舞鶴城の愛称で市民に親しまれている。

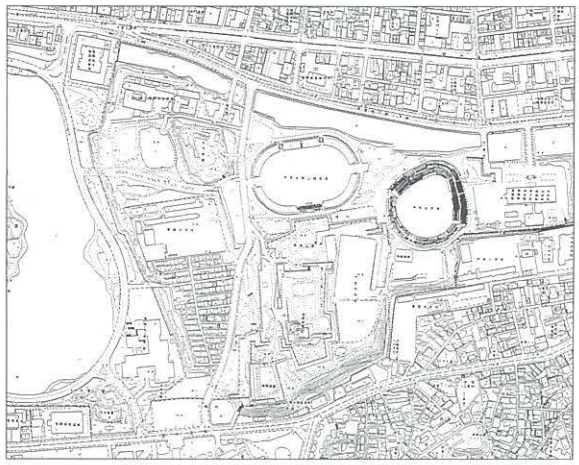
現在、内堀内が史跡となっているが、病院、学校、裁判所、陸上競技場、野球場などの他施設がある。

調査地点は、三の丸西北隅にあたるが、国立中央病院の移転に伴い環境整備が計画され、平成６年より遺構確認のための調査を実施している。前回は、塩見櫓の基壇部を検出したが、今回は内堀に面して東に伸びる土塁の築造法と保存状況を把握するのが目的である。

検出遺構　約20m間隔で４本のトレンチを設定して、土塁の観察を行った。

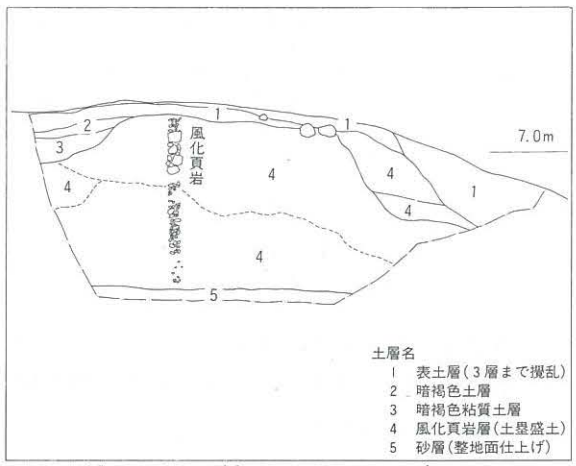
出土遺物　黒田藩の家紋である三つ巴藤文の軒丸瓦、平瓦などの江戸時代遺物に混じって、ガラス医療器具が出土した。

まとめ　福岡城絵図面や文献記録などによると福岡城内の櫓は47を数えることが出来る。塩見櫓は数段の石積みを持つ二層の建物となっている。建物自体は廃城後、博多区崇福寺に移築されていたが、現在、市所有となり復元作業を待つだけとなっている。土塁は断面図のように最下層に砂層があり、この上に風化真岩を盛り上げている。版築のような細かな互層ではない。なお最下層の砂層は、三の丸北西郭の各地点で確認されており、整地面仕上げとして敷き詰められたものと推測できる。1999年に報告書刊行予定。



１．調査地点の位置（舞鶴60-E-2）

２．３号トレンチ（西から）



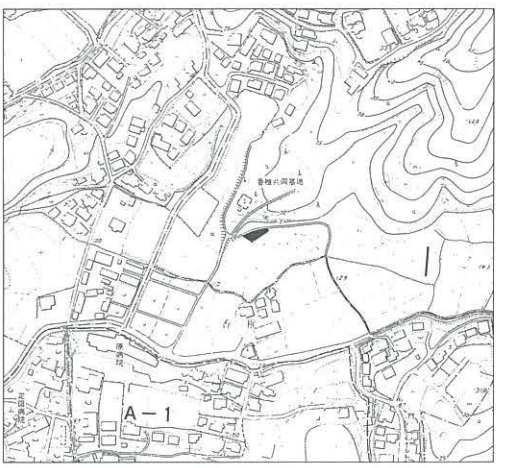
３．３号トレンチ断面図（縮尺1/80）

9522　香椎Ｅ遺跡群Ｉ次（KSE-I）

所　在　地　東区香椎３丁目885-1他７筆　　**調査面積**　103㎡
調査原因　宅地造成　　**担　当　者**　山崎龍雄　池田祐司
調査期間　95.8.10～95.8.12　　**処　　置**　調査後破壊

１.調査に至る経緯

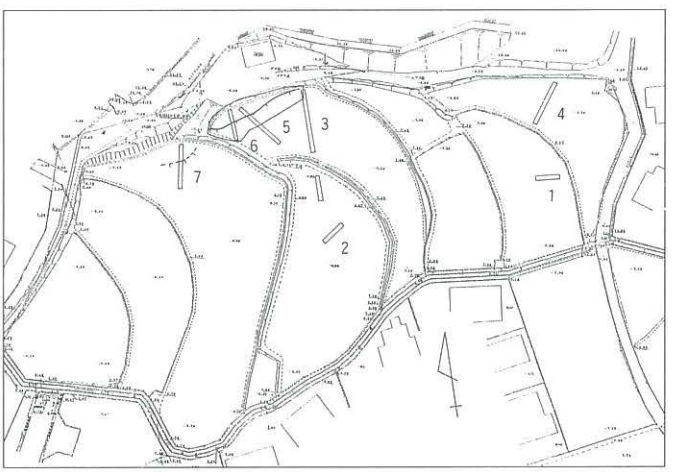
平成７年４月、三興住宅企業株式会社より、宅地造成にともなう開発計画事前審査願が提出された。当該地は香椎Ａ遺跡群の隣接地であったため、同４月２７日および５月10日に試掘調査を行い、開発地の北側で遺構を確認した。計画では、ちょうどこの箇所が道路部分にあたるため、協議の結果の本調査を行った。調査にあたっては、三興住宅企業株式会社にはご理解とご協力をいただき、表土除去時の重機を提供していただいた。記して感謝します。



第１図　調査地点の位置（1:8,000）

２.位置および試掘

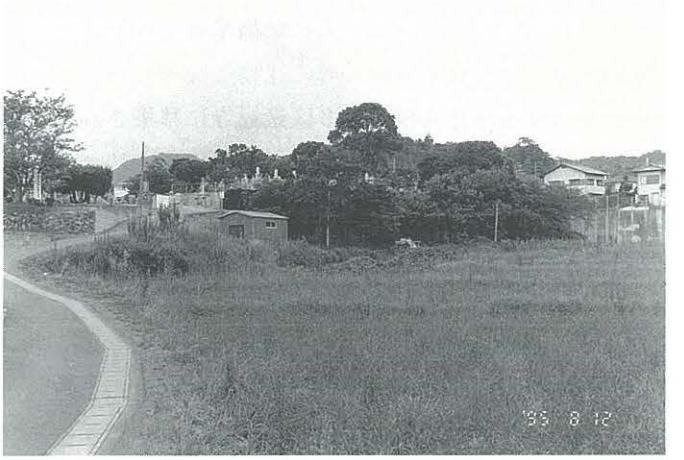
調査地点は香椎宮の北400mに位置し、城越山から東に派生する丘陵に挟まれた狭い谷部に位置する。丘陵は調査地点付近では低くなだらかになり、宅地化が進んでいる。この谷では、これまでも宅地造成にともなう試掘調査が行われているが、深い谷にあたり遺物は出土するものの遺構は検出されていない。今回の試掘調査でも、第１、２、４トレンチではこれまでと同様の谷の中となり、土師器、瓦等の遺物が出土した。第２トレンチでは表土以下１.耕作土および床土（40cm）、２.茶褐色粘質土（50cm）３.黒色粘土（30cm）、４.灰緑色小礫層（80cm）、５.青灰色粘土と続き、３層より上で土師器、須恵器、瓦片等の古墳時代から中世までの遺物が出土した。第３、第５から７トレンチでは表土下約55cmで丘陵の落ち際と遺構を確認しこの範囲で本調査を行った。



第２図　調査地点および周辺の現況

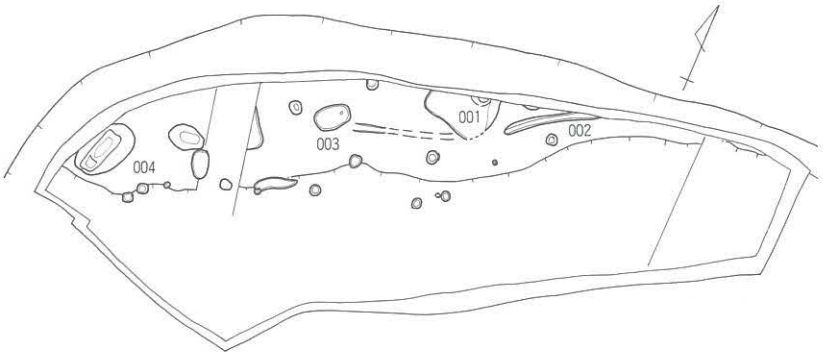
３.調査の記録

現地表下55cm前後の黄褐色粘土または暗灰色土上面で遺構を検出した。検出した遺構は土坑２、溝１、ピットである。調査区の南半は丘陵斜面で緩やかに傾斜する。



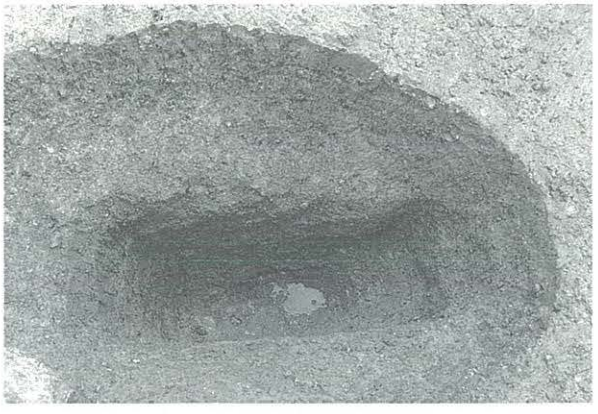
第３図　調査地点全景（南西から）

４.検出遺構



第４図　遺構配遺図（1/200）

第５図　調査区全景（東から）



第６図　SK-04（西から）

001　調査した面より30cm上の表土直下からの掘込みであるため床の部分を５cmを調査したのみとなった。プランはほぼ方形になると思われる。覆土は地山ブロックを多く含む茶から暗褐色粘質土である。

002　現在の水田に伴う溝である。

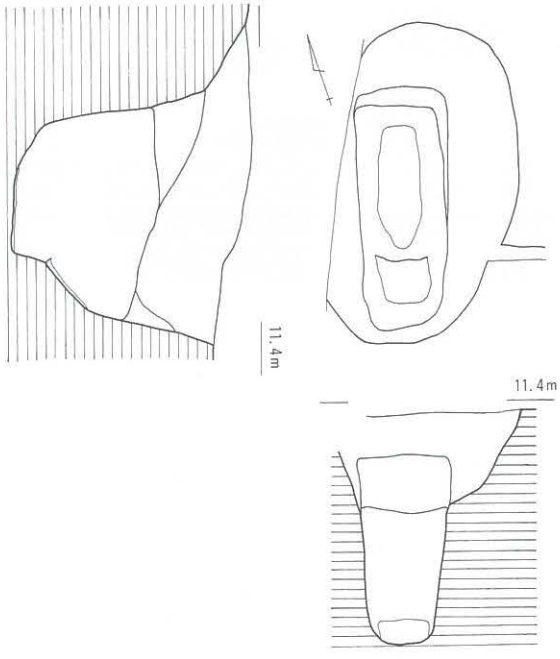
003　楕円形の土坑で深さ５cmを検出した。覆土は茶褐色土である。

004　検出面では楕円形のプランを呈すが、深さ30cmから長方形の掘り方を呈す。深さ125cmを測る。埋土は暗褐色の粘質土を主体としてレンズ状に堆積する。遺物は１から５が出土した。

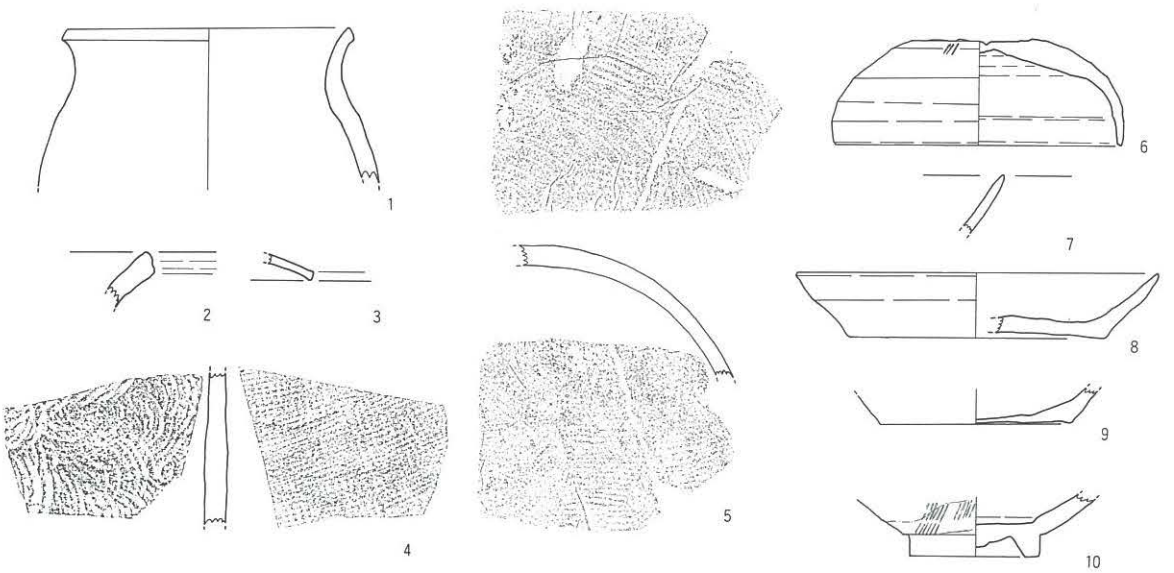
このほかは浅く明確に遺構とは言い難い。ピットは茶褐色土で深さ10cmから20cmを測る。

５.出土遺物

１～４は004から出土した。１、２は似非須恵土師器である。１は小型の甕で轆轤回転によって整形を行っている。器面は粗ているため調整は不明である。２は大型の甕の口縁部である。３、４は須恵器である。３は杯蓋である。４は甕の胴部で外面に疑似格子目叩痕、内面に同心円当て具痕が見られる。



第７図　004実測図（1/40）



第８図　出土遺物実測図（1/3）

第９図　出土遺物

５は土師質で提瓶と思われる。平行叩きの後のに回転による掻目を施す。

６から９は試掘調査時の出土遺物である。６は須恵器の杯蓋で天井部が未調整である。ほぼ完形で口径11.6cmを測る。７は白磁の碗で２次焼成により釉がとんでいる。８は糸切り底の土師皿で板目圧痕が見られる。復元口径15.2cmを測る。９は土師皿である。磨耗のためはっきりしないがヘラ切り底と思われる。10は白磁碗の底部で淡い青灰色の釉がかかる。

まとめ

今回は丘陵上にのる遺構の端を調査した。北側の丘陵に遺跡の中心があると考えられる。試掘では弥生時代から中世の遺物が出土したが、一部紛失しており詳細がわからない。その中には布目圧痕が残る瓦片も見られた。今後追加報告していきたい。谷部は現在の暗渠が張り巡らされ、下部の粘質土に中世までの遺物が見られることから水田として利用され始めたのも古い時期ではないと思われる。

9526　野芥遺跡群第6次調査（NOK-6）

所在地　早良区野芥2丁目917番7号
調査原因　共同住宅建設
調査期間　95.9.11～95.10.11
調査委託　東海住宅株式会社
調査面積　231m²
担当者　白井克也
処置　調査後破壊

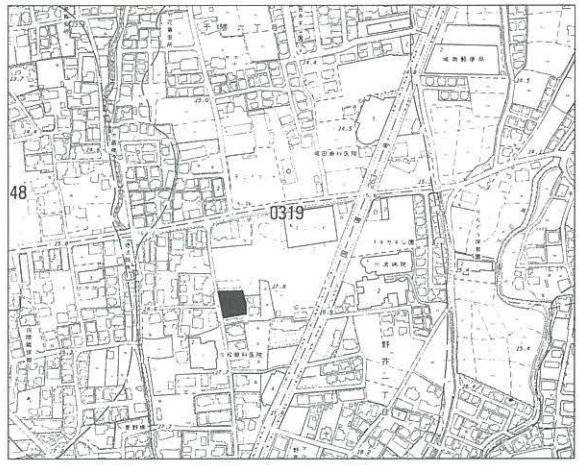
はじめに　平成7年7月24日、東海建設株式会社より埋蔵文化財についての事前調査依頼が提出されたのに伴い、確認調査を8月29日に実施した。その結果当該地には埋蔵文化財が含蔵されており、発掘調査が必要となった。事業主との間で委託契約を締結し調査を実施した。

位置・環境　油山丘陵の西麓に広がる野芥遺跡群の北寄り標高17m地点に位置する。地山を黒褐色粘質土とする沖積地であり、外環状道路建設に伴う発掘調査地点のやや南にあたる。

検出遺構　砂を含む黒褐色土上面（標高約16.6m）まで掘り下げたが樹根と旧河川のほか、明確な遺構はとらえられなかった。旧河川（SD-01）は縄文式土器・土師器などを含んでいたが、地表の客土のやや下から掘り込まれており、古くみても近世以降と考えられる。ただし、この旧河川に堆積した粗砂層に向かって下がっていく土層が存在することや粗砂層の東西で土層が必ずしも対応しないことを考えると、近世以降の河道がそれ以前の河道と重なっている可能性は残る。砂層は分層しなかったが、下層では突帯文期の土器がまとまって出土しており、注意を要する。

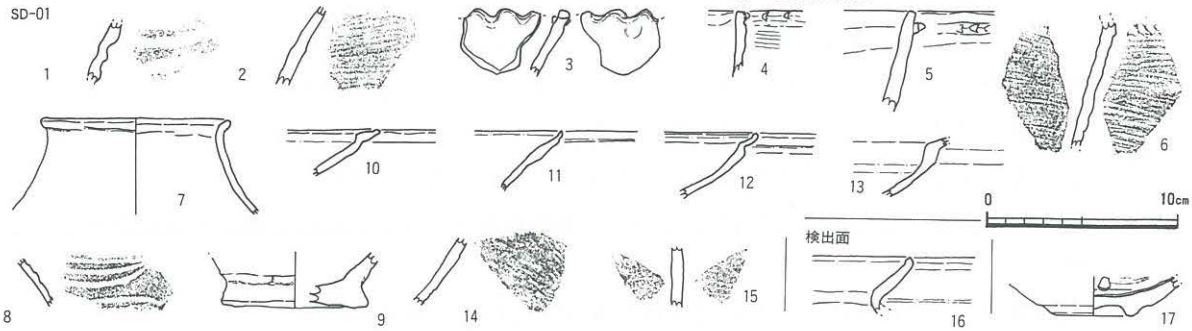
出土遺物　遺物は黒曜石剥片・土器片などがコンテナ1箱分出土した。

SD-01出土遺物のうち黒曜石剥片は原礫面を残し、ローリングを受けている。縄文時代のも



1．調査地点の位置（1:8,000）

2．遺構全景



3．出土遺物実測図（1/4）

のであろう。土器１は滑石を多量に含む。３は口縁端部にヘラを押し当てている。６は甕の胴部中程である。８の壺肩部文様の刻線は、上縁を緩く、下縁を急な角度で削り込んでいる。14はローリングを受けているがタタキメが観察でき、弥生時代後期頃のものと考えられる。15は赤紫色を帯びる須恵器片である。黒色粘質土の上面で出土した甕の口縁部片は布留式古段階に平行すると思われる。客土下で出土した17は九州系の陶器であり、内面に鉄絵と目跡が観察される。近世以降とみられる。

ま と め　本調査地点は、旧河道から外れて比較的安定した時に小規模な耕作が行われていたところと考えられる。旧河川は数時期のものが重なっている可能性が残る。

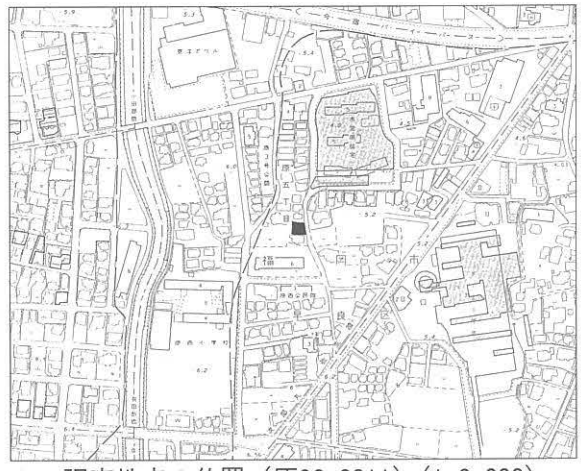
9534　原遺跡群第18次調査（HRA-18）

所在地　早良区原５丁目9-7
調査原因　共同住宅建設
調査期間　95.10.31～95.11.7
調査委託　中嶋進一
調査面積　68㎡
担当者　大塚紀宜
処置　調査後破壊

位置・環境　本次調査区は原台地の西端部分にあたり、金屑川に近い位置に所在する。原遺跡群の中でも北西隅になる。遺跡群全体が広大で且つ多時期にわたって様々な側面を持つが、台地北西部では本調査区の北側の第10調査区に見られるように、中世の溝や掘立柱建物を中心とした遺構が検出されている。周辺は宅地化以前には水田・畑として利用され、本調査区でも粘性の高い黒色土が１m程堆積する。現在の地表面はさらに50cmの客土の上面、標高６m前後になる。ただ周辺一帯は造成により旧地形の改変が著しい。

検出遺構　遺構は現地表下１mで検出した。遺構面は暗黒褐色粘質土の二次堆積土で、遺構覆土は黒色粘質土である。検出した遺構は次の通りで、以下概略を記す。

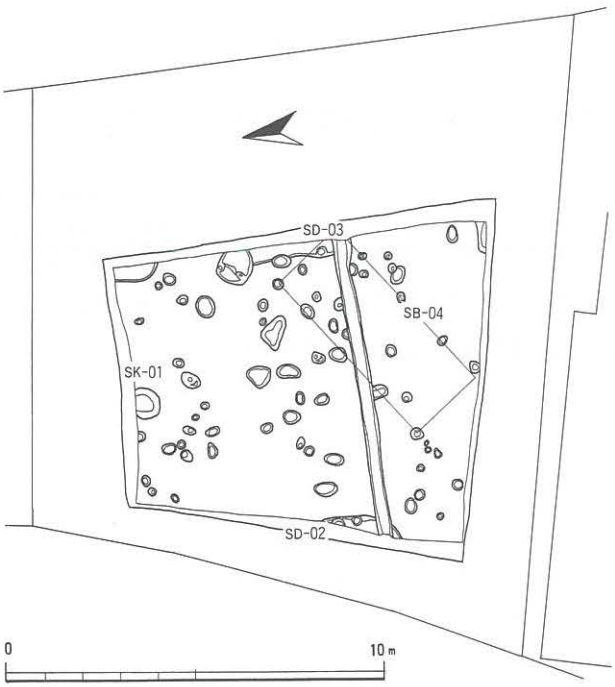
土壙1（SK-01）調査区北端で検出した。北側半分は調査区外に及ぶ。径95cm、深さ60cm土師器の小破片が出土している。



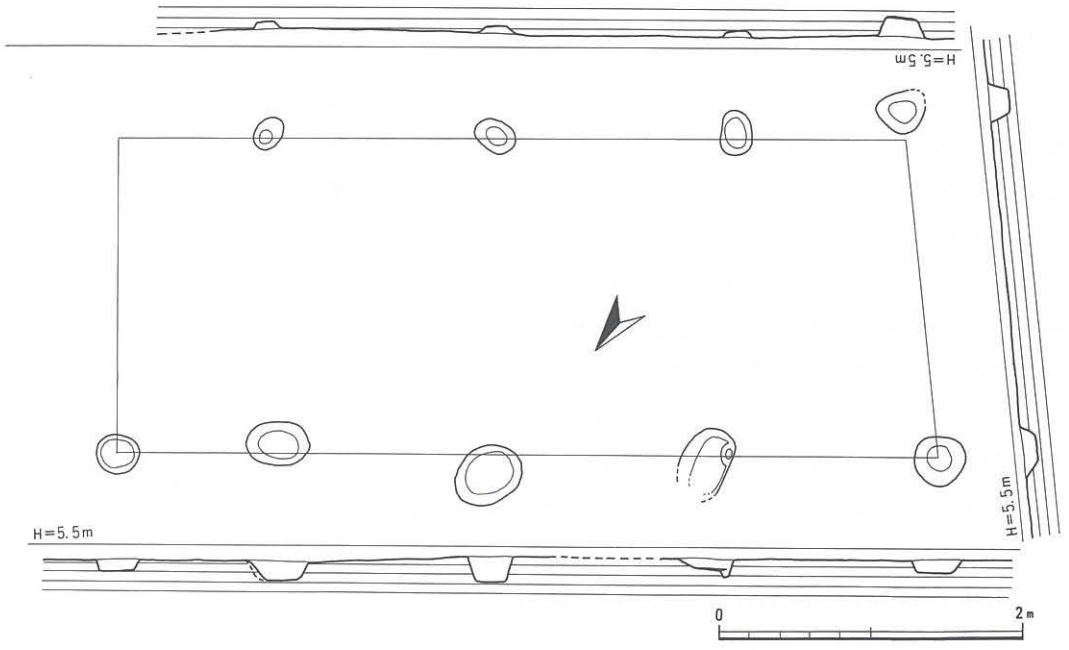
１．調査地点の位置（原82-0311）（1:8,000）

２．調査区全景（東から）

３．SK-01（南から）



４．調査区全体図（1/200）



5．SB-04実測図（1/50）

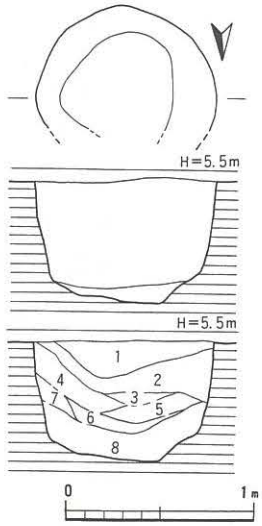
溝状遺構（SD-02・03）SD-02は幅40cm、深さ25cmで、調査区中央やや南側をほぼ東西に走る。土師器片が数点出土するが、詳細な時期は不明。条里に伴うものか、あるいはその影響下での水田に伴う水利施設の可能性がある。SD-03は調査区中央東端で検出された。SD-02に直交する方向に延びるが攪乱で切られ、全長120cm、幅40cmと短い。遺物は無く時期など不明。

掘立柱建物（SB-04）調査区南東側で検出した梁行1間、桁行4間の掘立柱建物跡で、調査区外にさらに延びる可能性がある。主軸は北東－南西方向で規模は梁行2.1m、桁行5.3mである。

出土遺物　調査区全体で土師器片が数点しか出土せず、図示可能なものは無く時期も特定できない。

まとめ　今回の調査では調査範囲が狭く、遺構、遺物の広がりを確認できただけで、詳細は不明。古代～中世にかけての遺跡の一部であろう。

なお調査にあたっては、地権者中嶋進一氏の御理解・協力をいただき順調に進行することができた。記して感謝いたします。



1.黒色土 2.薄黒色土 3.明褐色土
4.薄黒色土 5.暗黒褐色土 6.黒色土
7.暗黒褐色土 8.黒色土

6．SK-01実測図（1/40）

III　平成７年度の文化財指定

（１）旧三浦家住宅　１棟　　所有者・所在地　福岡市　福岡市博多区冷泉６番10号

明治20年代前半、博多織元「仓(やましち)」の住居兼織り場として建築された。明治中期旧博多部の町家建築の指標的価値を有する。博多織の生産・販売とその生活を一体として見ることが出来る貴重な町家である。

主屋の間口４間。西側部分に表から店の間・中の間・座敷が並び、中央部分に通り庭が、東側部分に織り場が並行している。主屋の奥行き６間半。奥に離れと坪庭がある。

江戸末期～明治初期の本市の町家の棟の高さが平均6.3mであるのに対し、本住宅のそれが9.0mを越えること、街路に面する２階正面が軒の低い納戸的小部屋になっていることに、明治中期～大正時代の本市の町家の年代的特徴が示されている。

（２）綿津見神社仏像群　　３軀　附　木造伝虚空蔵菩薩立像・木造伝薬師如来坐像
所有者　宗教法人綿津見神社（代表役員　稲光清孝）
所在地　福岡市東区三苫六丁目21番19号

玄界灘を眼下におさめ、西に志賀島、北に相ノ島を望む宮山（旧字名）に建つ綿津見神社の仏像群である。

小振りながらも保存状態の良好な不動明王立像（桧材、一木造、丸彫、彫眼、像高69.9㎝）、吉祥天立像（桧材、一木造、丸彫、彫眼、像高49.9㎝）、風化が進んではいるが四尺に近い如来形立像（伝大日如来像、樟材、一木造、彫眼、像高117.4㎝）、伝虚空蔵菩薩立像（樟材、一木造、彫眼、像高123.2㎝）、これら４像は平安時代後期の作とみられ、さらに、南北時代の作とみられる伝薬師如来座像（樟材、一木造、彫眼、彩色、像高52.7㎝）の５軀からなる。

『筑前国続風土記附録』、『筑前国続風土記拾遺』は、木造如来形立像（伝大日如来像）と木造伝虚空蔵菩薩立像が崇徳院(1119～64)時代あるいは崇光院時代（14世紀中頃、南北朝時代）に海中から引き揚げられたとの所伝を伝え、また、永享七年(1435)に虚空蔵堂に施入された鰐口が江戸時代に出土したことを伝えており、本像等の古くからの存在を窺わせている。

袖を「８」の字型に彫出する点など、平安期の大宰府文化圏に入り得る作品群であり、近年宗像、津屋崎で発見された同系統の仏像と合わせ、本仏像群は玄界灘沿岸に位置する本地域の宗教文化を探る貴重な手がかりとなる。

（３）草場の盆綱引き　　管理者　草場の盆綱引き保存会　（代表　楢崎弥次郎）
所在地　福岡市西区大字草場

（４）西浦のかずら引き　　管理者　西浦のかずら引き保存会（代表　柴田　忠造）
所在地　福岡市西区大字西浦

（５）田隈の盆押し・盆綱引き　管理者　地禄天神社夏祭り保存会（代表　宮嵜　節夫）
所在地　福岡市早良区野芥二丁目37番10号

（３）（４）（５）いずれも「盆綱引き」の行事である。『筑前歳時図記』（江戸時代）には「盆綱引き」につき、「同（七）月十五日　村々綱曳」としてその情景を絵に画き、「国民村々萱あるひは葛かつらを切りとりて、大きなる綱を作り、左右にかたを分けて村中の廣き所に出て力を競へ、終に綱を引切て止む、暑邪の煩を除くといふ、国中いつかたもおなし」と書き伝えている。地獄の亡者を救い出す

行事とも、盆の精霊を送り出す行事とも、豊凶を占う行事とも、無病息災を祈念する行事とも、また畠作の収穫を水神に感謝する行事とも、諸説がある。かつてはどこでも行われていたと思われるが、現在では極めて稀になった夏の年中行事である。

草場の盆綱引きは、藤葛で盆綱を綯うなど柑子岳の懐に抱かれた草場の地域的特徴をもよくつたえている。

西浦のかずら引きは、くず葛で綱を綯う点で西浦の浜方という地域的特徴を良く伝え、綱を引き合わずに転がす点、及び盆綱引きと言わずかずら引きと称する点に古態を窺わせるものがある。

田隈の盆綱引きは、茅で綱を綯う点で草場の藤葛や西浦のくず葛とも違った特徴があり、盆綱を龍蛇の姿に似せて作る点、また精霊送りを済ました後に、氏神である地禄神社に奉納する点で、盆綱引きという呼称にも拘らず、九州南部に見られる畠作の収穫を水神に感謝する十五夜綱引きに近似しており、盆行事以前の古い形態を窺わせるものがある。

（6）福岡藩主黒田家墓所　　面積4,234㎡　所有者　黒田　長久

所在地　福岡市博多区千代四丁目7番79号

黒田藩主黒田家の菩提寺であった崇福寺境内に接して所在する。藩祖黒田如水、初代藩主長政、4代綱政、6代継高、7代治之、9代斉隆の福岡藩歴代藩主、藩主正室、藩主子女、藩主殉死者及び、直方藩主初代高政、2代之勝、4代長清、他を祀った墓所である。（なお、2代忠之、3代光之、8代治高は博多区御供所町の東長寺が菩提寺であり、その墓所は平成6年度福岡市の文化財に指定されている。また、5代宣政、10代斉清は東京都南麻布の天真寺を菩提寺とし、11代長溥、12代長知の墓所は東京都南青山の青山墓地である。）

本墓所は元来、如水、長政の墓塔を中心に藩主正室、子女、家臣、直方藩主の墓塔二十数基が広大な墓所に点在していたものであるが、1950年（昭和25年）に行われた改葬・合葬によって墓域の大幅な縮小、廃塔と新たな合葬碑の建立、墳墓の形態の変化があったことが確かめられる。

大幅な改変を余儀なくされたとは言うものの、そのあとづけは可能であり、東長寺の黒田家墓所とともに本市に存する福岡藩の歴史遺産として貴重である。

なお、景轍玄蘇（宗像郡生、聖福寺第百九世、日朝・日明交渉の掌にあたった外交僧）の撰である藩祖如水の石塔は改葬前のものと考えられ、玄蘇の撰文とともに貴重である。

（7）山の鼻1号墳

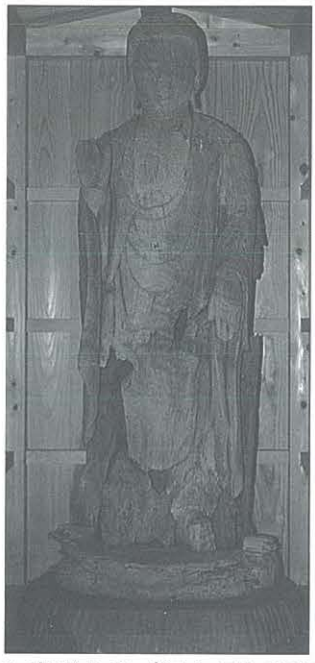
所有者　徳永栄一、徳永ヤス、徳永英信、徳永京子、長沼種記、末松政孝、桐谷崇、末松亜由美

所在地　福岡市西区大字徳永山ノハナ265番地1、265番地4、265番地8、266番地

『魏志倭人伝』に記す「伊都国」の東縁にあたる今宿平野に位置する前方後円墳。全長44m、後円部径27m、くびれ部の幅17m、前方部長20m、前方部幅25m測り、前方部が二段築成、後円部が三段築成で葺石をもつ。埴輪は認められない。築造年代は埋葬施設が竪穴式石室と見られることや出土遺物などから、4世紀前半代と考えられる。

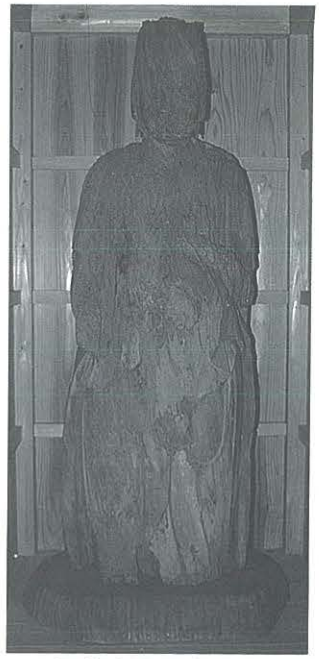
今宿平野の前方後円墳群の中で、山の鼻1号墳の埋葬施設は竪穴式石室、若八幡宮古墳は木棺直葬、鋤先古墳と丸隈山古墳が竪穴系横口式石室、その他は横穴式であることが確認されている。これにより、山の鼻1号墳⇨若八幡宮古墳（市史跡）⇨鋤先古墳（国史跡指定予定）⇨丸隈山古墳（国史跡）⇨兜塚古墳⇨飯氏二塚古墳⇨今宿大塚古墳（国史跡）と首長墓の系譜をたどることができる。なかでも、山の鼻1号墳は今宿平野における首長墓の中で最古に位置づけられる。

(1) 旧三浦家住宅



如来形立像（伝大日如来像）

(2) 錦津見神社仏像群



伝虚空像菩薩立像

不動明王立像

吉祥天立像

伝薬師如来坐

(3) 草場の盆綱引き

(4) 西浦のかずら引き

(5) 野芥の盆綱引き

(5) 野芥の盆押し

(6) 福岡藩主黒田家墓所

黒田如水墓碑

附　平成７(1995)年度刊行埋蔵文化財調査報告書一覧表

第441集　「井尻Ｂ遺跡　4　南八幡遺跡４」　井尻B遺跡第5次・南八幡第5次調査報告（9408・9452）
第442集　「比恵遺跡群　(19)」　比恵遺跡群第55次発掘調査報告（9461）
第443集　「博多 49」　博多遺跡群第87次調査の概要（9442）
第444集　「原遺跡　8」　第17次調査の報告（9460）
第445集　「持田ヶ浦古墳群　2」　D群6～9号古墳の調査（9310）
第446集　「蒲田部木原　3次」(9341)
第447集　「博多 50」　博多遺跡群第79次調査の概要（9259）
第448集　「博多 51」　博多遺跡群第80次調査報告（9309）
第449集　「博多 52」　第82次調査報告（9342）
第450集　「博多 53」　博多遺跡群第71次調査の報告（9111）
第451集　「比恵遺跡群　(20)」　比恵遺跡群50次調査の概要・第53次調査の報告（9329・9415）
第452集　「比恵遺跡群 21」　第51次調査の報告（9334）
第453集　「比恵遺跡群　(22)」　比恵遺跡群第43次発掘調査報告書（9229）
第454集　「那珂遺跡 15」　那珂遺跡群第47次調査報告（9414）
第455集　「那珂 16」　那珂遺跡群48次、49次調査報告（9437・9438）
第456集　「下月隈天神森遺跡 II」(9352)
第457集　「下月隈天神森遺跡 III」　下月隈B遺跡2・3次調査、下月隈C遺跡1次調査、板付遺跡66次調査（9413・9402・9430・9404・9424）
第458集　「井相田Ｃ遺跡 第5次　高畑遺跡 第14次」(9457・9368)
第459集　「箱崎遺跡　4」　箱崎遺跡群第6次・第7次調査報告（9445・9448）
第460集　「東那珂遺跡　2」　東那珂遺跡第2次調査報告（9406）
第461集　「吉武遺跡群Ⅷ」　飯盛・吉武圃場整備事業関係調査報告書2－弥生時代墳墓の報告－（8335・8416・8518・8535）
第462集　「長峰遺跡２」(9462)
第463集　「福岡城 赤坂門跡」　福岡城跡第26次調査報告（9416）
第464集　「吉塚　2」　吉塚遺跡群第2次調査の報告（9447）
第465集　「立花寺　3」　第3次調査報告（9357）
第466集　「立花寺　4」　第4次調査報告（9439）
第467集　「福岡外環状道路関係埋蔵文化財調査報告 －1－」　福岡市早良区次郎丸所在次郎丸遺跡・次郎丸高石遺跡第2次調査（9209・9233）
第468集　「次郎丸遺跡 Ⅰ」　次郎丸遺跡群第3次調査（9339）
第469集　「カルメル修道院内遺跡 III」　カルメル修道院内遺跡第4次調査（9410）
第470集　「有田・小田部　第23集」(7710)
第471集　「有田・小田部　第24集」(8215・8305・8316)
第472集　「有田・小田部　第25集」(9332)
第473集　「有田・小田部　第26集」　有田遺跡群170次・173次調査の報告（9251・9338）
第474集　「兜塚古墳」(9455)
第475集　「堀ノ内遺跡　1」　堀ノ内遺跡群第1次調査報告（9365）
第476集　「三苫永浦遺跡」（9362）

第477集　「三苦遺跡群　2」　第2･3次調査報告（9449・9502）
第478集　「姪浜遺跡　2」（9252）
第479集　「今宿五郎江遺跡 III　徳永A遺跡 III　丸隈山遺跡群　I」　九州電力鉄塔建設に伴う発掘調査報告（9253・9354・9355）
第480集　「桑原遺跡群　2」　飛櫛貝塚第1次調査（9243）
第481集　「大原D遺跡群　1」　新西部埋立て場建設に伴う埋蔵文化財調査
第482集　「四箇周辺遺跡調査報告書（7）」（7727・7815・7816）
第483集　「西新町遺跡　4」　西新町遺跡6･7次調査報告書（9364・9411）
第484集　「西新町遺跡　5」（9440）
第485集　「入部 VI」　東入部遺跡群第3次･第10次調査報告（9216・9427）
第486集　「鴻臚館跡　6」　平成6年度発掘調査概要報告（9420・9432・9463）
第487集　「鴻臚館跡　7」　鴻臚館跡第Ⅰ期整備報告

（　）内の数字は調査番号

「福岡市埋蔵文化財年報　Vol. 9　1994年度」
「福岡市文化財分布地図（東部Ⅰ）」

福岡市埋蔵文化財年報Vol. 10
－ 平成７（1995)年度 －

発　行　日　1997年2月28日

編集・発行　福岡市教育委員会埋蔵文化財課
福岡市中央区天神一丁目8－1

印　　刷　ダイヤモンド印刷株式会社
福岡市東区松田三丁目9-32

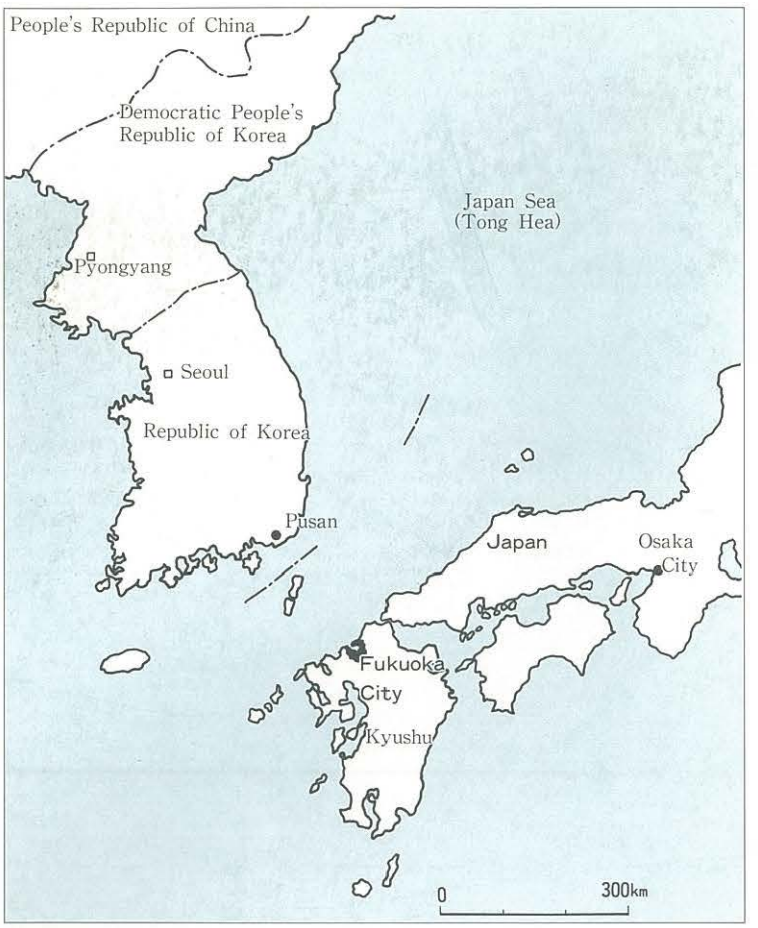
THE ANNUAL REPORT

OF THE

BURIED CULTURAL RELICS OF FUKUOKA CITY

Volume 10

1995



THE BOARDS OF EDUCATION OF FUKUOKA CITY

March 1997

Japan